

国 語

(古典探究)

| 発 番 号 | 行 名 | 者 称 略 称 | 教科書の記号・番号 | 判型 | ページ数 | 検定済年 |
|-------------|--------|------------------|-----------|-----|------|------|
| 2 | 東京書籍 | 東書 | 古探 701 | A 5 | 344 | 令和4年 |
| 2 | 東京書籍 | 東書 | 古探 702 | A 5 | 340 | |
| | | | 古探 703 | A 5 | 212 | |
| 15 | 三省堂 | 三省堂 | 古探 704 ◆ | A 5 | 312 | |
| | | | 古探 705 ◆ | A 5 | 216 | |
| 50 | 大修館書店 | 大修館 | 古探 706 ◆ | A 5 | 294 | |
| | | | 古探 707 ◆ | A 5 | 204 | |
| 50 | 大修館書店 | 大修館 | 古探 708 ◆ | A 5 | 406 | |
| 104 | 数研出版 | 数研 | 古探 709 ◆ | A 5 | 294 | |
| | | | 古探 710 ◆ | A 5 | 190 | |
| 104 | 数研出版 | 数研 | 古探 711 ◆ | A 5 | 478 | |
| 109 | 文英堂 | 文英堂 | 古探 712 ◆ | A 5 | 485 | |
| 117 | 明治書院 | 明治 | 古探 713 ◆ | A 5 | 306 | |
| | | | 古探 714 ◆ | A 5 | 232 | |
| 143 | 筑摩書房 | 筑摩 | 古探 715 ◆ | A 5 | 320 | |
| | | | 古探 716 ◆ | A 5 | 192 | |
| 183 | 第一学習社 | 第一 | 古探 717 ◆ | A 5 | 294 | |
| | | | 古探 718 ◆ | A 5 | 166 | |
| 183 | 第一学習社 | 第一 | 古探 719 ◆ | A 5 | 406 | |
| 183 | 第一学習社 | 第一 | 古探 720 ◆ | A 5 | 256 | |
| 212 | 桐原書店 | 桐原 | 古探 721 ◆ | A 5 | 312 | |
| | | | 古探 722 ◆ | A 5 | 190 | |

※「教科書の記号・番号」欄にある◆は、「学習者用デジタル教科書」（学校教育法第34条第2項に規定する教材）の発行予定があることを示す。

1 調査の対象となる教科書の冊数と発行者及び教科書の番号

| | | | |
|---------------|---|----|-----|
| 古典探究 | | 冊数 | 22冊 |
| 発行者の略称・教科書の番号 | 東書701 東書702・703 三省堂704・705 大修館706・707 大修館708 数研709・710 数研711 文英堂712 明治713・714 筑摩715・716 第一717・718 第一719 第一720 桐原721・722 | | |

2 学習指導要領における教科・科目の目標等

【国語の目標】

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。
- (3) 言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

【古典探究の目標】

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

【古典探究の内容及び内容の取扱い】

| 「内容」の概要 | 「内容の取扱い」抜粋 |
|--|--|
| <p>[知識及び技能]</p> <p>(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項</p> <p>(2) 我が国の言語文化に関する事項</p> <p>[思考力、判断力、表現力等]</p> <p>A 読むこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 構造と内容の把握 ○ 精査・解釈 ○ 考えの形成、共有 | <p>(1) [知識及び技能]に関する指導については、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めることについては、「A読むこと」の指導に即して行い、必要に応じてある程度まとまった学習もできるようにすること。</p> <p>(2) 「A読むこと」に関する指導については、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>ア 古文及び漢文の両方を取り上げるものとし、一方に偏らないようにすること。</p> <p>イ 古典を読み深めるため、音読、朗読、暗唱などを取り入れること。</p> <p>ウ 必要に応じて、古典の変遷を扱うこと。</p> <p>(3) 教材については、次の事項に留意するものとする。</p> <p>ア 「A読むこと」の教材は、古典としての古文及び漢文とし、日本漢文を含めるとともに、論理的に考える力を伸ばすよう、古典における論理的な文章を取り上げること。また、必要に応じて、近代以降の文語文や漢詩文、古典についての評論文などを用いることができること。</p> |

| 「内容」の概要 | 「内容の取扱い」抜粋 |
|---------|---|
| | イ 「A読むこと」の言語活動が十分行われるよう教材を選定すること。 ウ 教材は、言語文化の変遷について理解を深める学習に資するよう、文章の種類、長短や難易などに配慮して適当な部分を取り上げること。 |

3 教科書の調査研究

(1) 内容

ア 調査研究の総括表

| 調査項目 | 対象の根拠(目標等との関連) |
|---|--------------------------------|
| a 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成(各教科共通) | 学習指導要領第2章第1節第3款1(1) |
| b 読書に関する指導 | 学習指導要領第2章第1節第2款第6、2(2)エ |
| その他の項目(各教科共通) | 学習指導要領、東京都教育委員会の基本方針、東京都教育ビジョン |

イ 調査項目の具体的な内容

① 調査項目の具体的な内容の対象とした事項

調査研究事項のa、b及びその他の項目との関連で、次の事項について具体的に調査研究する。

a 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成(各教科共通)

- 各単元において、どのような資質・能力を育成できるか見取る。

b 読書に関する指導

- 読書に関する指導についてどのように扱っているかを見取る。

《その他の項目》(各教科共通)

- 我が国の伝統や文化、国土や歴史に対する理解、他国の多様な文化の尊重に関する特徴や工夫
 - 人権課題(同和問題、北朝鮮による拉致問題等)に関する特徴や工夫
 - 安全・防災や自然災害の扱い
 - オリンピック・パラリンピックに関する特徴や工夫
 - 固定的な性別役割分担意識に関する記述等
- *教材名と作品名、作者名等の一覧(別紙)

② 調査対象事項を設定した理由等

a 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成(各教科共通)

- 学習指導要領の第3款の中で「単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて」と言及されているので、古典探究では、各単元(各文章)における「知識及び技能」「読むこと」の指導の場面がどのように設定されているかという視点で質的な調査をする。

b 読書に関する指導

- 学習指導要領では、「先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めること」を身に付けることができるよう指導するとされている。このことから、古典の読書に関する指導の場面がどのように設定されているかという視点で質的な調査をする。

《その他の項目》(各教科共通)

- 我が国の領域をめぐる問題及び国旗・国歌の取扱いについては、学習指導要領に基づき、これらの問題を正しく理解できるようにするため、その扱いについて調査する。
- 北朝鮮による拉致問題については、東京都教育委員会の基本方針1に基づき、人権尊重の理念を正しく理解できるようにするため、その扱いについて調査する。
- 東京都では、自然災害時における被害を最小化し、首都機能の迅速な復旧を図る総合的なリスクマネジメント方策の確立が喫緊の課題であり、防災教育の普及等により地域の防災力の向上が重要であることから、防災や自然災害の扱いについて調査する。
- 東京都教育委員会の基本方針2・3に基づき、文化・スポーツに親しみ、国際社会に貢献できる日

本人を育成するという観点から、オリンピック・パラリンピックの扱いについて調査する。

- ・ 東京都教育委員会の基本方針1及び東京都の男女平等参画推進の施策を踏まえ、固定的な性別役割分担意識の解消や、「無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)」に気付いて言動等を見直していくなど、男女の平等を重んずる態度を養うことができるよう、その扱いについて調査する。

(2) 構成上の工夫(各教科共通)

- ・ デジタルコンテンツの扱い
- ・ ユニバーサルデザインの視点

| | |
|-----|------|
| 教科名 | 国語 |
| 科目名 | 古典探究 |

※「教科書番号」欄にある◆は、「学習者用デジタル教科書」（学校教育法第34条第2項に規定する教材）の発行予定があることを示す。

| | |
|--|---|
| 発行者(略称) | 東書 |
| 教科書番号 | 古探701 |
| 教科書名 | 新編古典探究 |
| (1) 内容 | |
| a 単元など内容や時間のまとまりを通して、その中で育む資質・能力の育成(各教科共通) | |
| 【言葉の特徴や使い方に関する事項】 | <ul style="list-style-type: none"> ・「言語の変遷を調べる」という言語活動が設けられ、時間の経過による言葉の変化について理解が深められるよう工夫されている。 ・漢文編に「故事と小話」という単元が設けられ、故事成語について理解を深められるよう工夫されている。 |
| 【読むこと】 | <ul style="list-style-type: none"> ・古文では説話、随筆、作り物語、和歌、日記、軍記物語、歌物語、歴史物語、歌論、俳諧などが、漢文では思想、史伝、古体詩、近体詩などが取り上げられ、文章の種類を踏まえて、構成や展開、内容を的確に捉えたり、解釈したりできるよう教材が設定されている。 ・「古文の窓」「漢文の窓」というコラムが掲載され、古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から読み深めることができるよう工夫されている。 ・「参考」として、単元の教材と関連する他の作品が掲載されている。 ・「言語活動」が設けられ、学習したことを基に調べ学習をしたり、表現活動をしたり、関連する他の作品と読み比べたりすることができるよう工夫されている。 ・教材末や単元末に「学習の手引き」や「言語活動」が設けられ、教材の種類や内容に応じて読みを深められるよう工夫されている。 |
| b 読書に関する指導 | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・巻末に「読書案内」が設けられ、掲載されている作品やジャンル等に関連する書籍、また、古典に関連する書籍などが紹介されている。 |
| 《その他の項目》(各教科共通) | |
| 我が国の伝統や文化、国土や歴史に対する理解、他国の多様な文化の尊重に関する特徴や工夫 | <ul style="list-style-type: none"> ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深められるよう教材が設定されている。 ・「漢文の窓」として、漢文と古典落語に関するコラムが掲載されている。 ・巻頭及び巻末に古典の世界の人々の生活に関する理解を促す図版が掲載されている。 |
| 人権課題(同和問題、北朝鮮による拉致問題等)に関する特徴や工夫 | 記載なし |
| 安全・防災や自然災害の扱い | 記載なし |
| オリンピック・パラリンピックに関する特徴や工夫 | 記載なし |
| 固定的な性別役割分担意識に関する記述等 | <ul style="list-style-type: none"> ・「土佐日記」に、「男もすなる日記というふものを、女もしてみむとて、するなり。」という記述が見られる。 |
| (2) 構成上の工夫 | |
| デジタルコンテンツの扱い | <ul style="list-style-type: none"> ・「竹取物語」「源氏物語」「唐詩」「項羽と劉邦」「詩」について作品紹介の動画や、品詞分類表に、二次元コードを読み込んでアクセスできるように工夫がされている。 |
| ユニバーサルデザインの視点 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の色覚特性に適応するようにデザインしている。 |

| 文学的文章 | | | 評論等 | | |
|-------------------|--------|--------|-------------|---------------|-------|
| 教材名 | 作品名 | 作者名等 | 教材名 | 作品名 | 作者名等 |
| 小野篁、広才のこと | 宇治拾遺物語 | 未詳 | 丹波に出雲といふ所あり | 徒然草 | 兼好法師 |
| 大江山の歌 | 十訓抄 | 未詳 | 九月二十日のころ | 徒然草 | 兼好法師 |
| 空を飛ぶ倉 | 宇治拾遺物語 | 未詳 | 花は盛りに | 徒然草 | 兼好法師 |
| 天の羽衣 | 竹取物語 | 未詳 | ゆく河の流れ | 方丈記 | 鴨長明 |
| 富士の山 | 竹取物語 | 未詳 | 小倉百人一首の世界 | マンガでわかる百人一首 | あんの秀子 |
| 春の歌 | 小倉百人一首 | 紀友則 | ありがたきもの | 枕草子 | 清少納言 |
| 春の歌 | 小倉百人一首 | 紀貫之 | 九月ばかり | 枕草子 | 清少納言 |
| 秋の歌 | 小倉百人一首 | 春道列樹 | 中納言参り給ひて | 枕草子 | 清少納言 |
| 秋の歌 | 小倉百人一首 | 能因法師 | 雪のいと高う降りたるを | 枕草子 | 清少納言 |
| 恋の歌 | 小倉百人一首 | 平兼盛 | 能因と節信 | 袋草紙 | 藤原清輔 |
| 恋の歌 | 小倉百人一首 | 壬生忠見 | 出で映えすべき歌のこと | 無名抄 | 鴨長明 |
| 雑の歌 | 小倉百人一首 | 三条院 | やまと歌は | 古今和歌集仮名序 | 紀貫之 |
| 雑の歌 | 小倉百人一首 | 藤原清輔朝臣 | 去来抄 | 去来抄 | 向井去来 |
| 馬のはなむけ | 土佐日記 | 紀貫之 | 三冊子 | 三冊子 | 服部土芳 |
| 帰京 | 土佐日記 | 紀貫之 | 出藍誉 | 荀子 | 荀況 |
| 門出 | 更級日記 | 菅原孝標女 | 侵官之害 | 韓非子 | 韓非 |
| 物語 | 更級日記 | 菅原孝標女 | 論語—三章 | 論語（衛靈公、子路、為政） | 未詳 |
| 壇の浦の合戦 | 平家物語 | 未詳 | 性相近也 | 論語（陽貨） | 未詳 |
| 蛸売りの八助 | 世間胸算用 | 井原西鶴 | 不忍人之心 | 孟子 | 孟軻 |
| 幼子さと | おらが春 | 小林一茶 | 人之性悪 | 荀子 | 荀況 |
| 初冠 | 伊勢物語 | 未詳 | 無用之用 | 老子 | 老聃 |
| 東下り | 伊勢物語 | 未詳 | 大道廢、有仁義 | 老子 | 老聃 |
| 渚の院 | 伊勢物語 | 未詳 | 小国寡民 | 老子 | 老聃 |
| 姨捨 | 大和物語 | 未詳 | 曳尾於塗中 | 莊子 | 莊周 |
| 道真の左遷 | 大鏡 | 未詳 | | | |
| 三船の才 | 大鏡 | 未詳 | | | |
| 道長、伊周の競射 | 大鏡 | 未詳 | | | |
| 光源氏の誕生 | 源氏物語 | 紫式部 | | | |
| 若紫 | 源氏物語 | 紫式部 | | | |
| 近世俳句抄 | 奥の細道など | 松尾芭蕉 | | | |
| 近世俳句抄 | | 与謝蕪村 | | | |
| 近世俳句抄 | | 小林一茶 | | | |
| 倭建命 | 古事記 | 未詳 | | | |
| 蛇足 | 戦国策 | 劉向 | | | |
| 断腸 | 世説新語 | 劉義慶 | | | |
| 知音 | 呂氏春秋 | 呂不韋 | | | |
| 畏饅頭 | 五雜俎 | 謝肇淛 | | | |
| 宿建德江 | 唐詩三百首 | 孟浩然 | | | |
| 勸酒 | 唐詩選 | 于武陵 | | | |
| 静夜思 | 唐詩選 | 李白 | | | |
| 磧中作 | 唐詩選 | 岑参 | | | |
| 送元二使安西 | 三体詩 | 王維 | | | |
| 登岳陽楼 | 唐詩三百首 | 杜甫 | | | |
| 登高 | 唐詩三百首 | 杜甫 | | | |
| 八月十五日夜、禁中独直、对月憶元九 | 白氏長慶集 | 白居易 | | | |
| 雑説 | 昌黎先生集 | 韓愈 | | | |
| 桃花源記 | 陶淵明集 | 陶潜 | | | |
| 鴻門之会 | 史記 | 司馬遷 | | | |
| 四面楚歌 | 史記 | 司馬遷 | | | |

| 文学的文章 | | | 評論等 | | |
|-----------|-------|-------|-----|------|------|
| 教材名 | 作品名 | 作者名等 | 教材名 | 作品名 | 作者名等 |
| 項王自刎 | 史記 | 司馬遷 | | | |
| 刻舟求劍 | 呂氏春秋 | 呂不韋 | | | |
| 塞翁馬 | 淮南子 | 淮南王劉安 | | | |
| 杞憂 | 列子 | 列禦寇 | | | |
| 水魚之交 | 十八史略 | 曾先之 | | | |
| 竭股肱之力 | 十八史略 | 曾先之 | | | |
| 流涕斬馬謖 | 十八史略 | 曾先之 | | | |
| 死諸葛走生仲達 | 十八史略 | 曾先之 | | | |
| 鼓腹擊壤 | 十八史略 | 曾先之 | | | |
| 宋襄之仁 | 十八史略 | 曾先之 | | | |
| 燕雀安知鴻鵠之志哉 | 十八史略 | 曾先之 | | | |
| 桃夭 | 詩經 | 未詳 | | | |
| 上邪 | 樂府詩集 | 郭茂倩 | | | |
| 飲酒 | 陶淵明集 | 陶潛 | | | |
| 子夜吳歌 | 唐詩選 | 李白 | | | |
| 長恨歌 | 白氏長慶集 | 白居易 | | | |
| 灑池之會 | 史記 | 司馬遷 | | | |
| 刎頸之交 | 史記 | 司馬遷 | | | |
| 聞旅雁 | 菅家後集 | 菅原道真 | | | |
| 送夏日漱石之伊予 | 子規全集 | 正岡子規 | | | |
| 信玄と謙信 | 日本外史 | 賴山陽 | | | |
| 所争不在米塩 | 日本外史 | 賴山陽 | | | |
| | | | | 男 | 女 |
| | | | 評論等 | 83% | 17% |
| | | | 小説等 | 87% | 13% |
| | | | 詩歌 | 100% | 0% |
| | | | 計 | 92% | 8% |

| | |
|-----|------|
| 教科名 | 国語 |
| 科目名 | 古典探究 |

※「教科書番号」欄にある◆は、「学習者用デジタル教科書」（学校教育法第34条第2項に規定する教材）の発行予定があることを示す。

| | |
|--|---|
| 発行者(略称) | 東書 |
| 教科書番号 | 古探702 |
| 教科書名 | 精選古典探究 古文編 |
| (1) 内容 | |
| a 単元など内容や時間のまとまりを通して、その中で育む資質・能力の育成(各教科共通) | |
| 【言葉の特徴や使い方に関する事項】 | <ul style="list-style-type: none"> 「言語の変遷を調べる」という言語活動が設けられ、時間の経過による言葉の変化について理解が深められるよう工夫されている。 各教材末に「学習の手引き」「語句と表現」が設けられ、古典に用いられている語句の意味や用法、文語のきまり、表現の技法などについての理解を深められるよう工夫されている。 |
| 【読むこと】 | <ul style="list-style-type: none"> 説話、随筆、作り物語、和歌、日記、軍記物語、歌物語、歴史物語、歌論、俳諧などが取り上げられ、文章の種類を踏まえて、構成や展開、内容を的確に捉えたり、解釈したりできるよう教材が設定されている。 「古文の窓」というコラムが掲載され、古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から読み深めることができるよう工夫されている。 「参考」として、単元の教材と関連する他の作品が掲載されている。 「言語活動」が設けられ、学習したことを基に調べ学習をしたり、表現活動をしたり、関連する他の作品と読み比べたりすることができるよう工夫されている。 教材末や単元末に「学習の手引き」や「言語活動」が設けられ、教材の種類や内容に応じて読みを深められるよう工夫されている。 |
| b 読書に関する指導 | |
| | <ul style="list-style-type: none"> 「北辺随筆」の「読書の心得」という文章が掲載され、学習を通じて、読書の意義と効用について理解を深めることができるよう工夫されている。 |
| 《その他の項目》(各教科共通) | |
| 我が国の伝統や文化、国土や歴史に対する理解、他国の多様な文化の尊重に関する特徴や工夫 | <ul style="list-style-type: none"> 古典などを読むことを通じて、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深められるよう教材が設定されている。 「古文の窓」として、中国小説の翻案に関するコラムが掲載されている。 巻頭及び巻末に古典の世界の人々の生活に関する理解を促す図版が掲載されている。 |
| 人権課題(同和問題、北朝鮮による拉致問題等)に関する特徴や工夫 | 記載なし |
| 安全・防災や自然災害の扱い | <ul style="list-style-type: none"> 「方丈記」の「安元の大火」が掲載されている。 |
| オリンピック・パラリンピックに関する特徴や工夫 | 記載なし |
| 固定的な性別役割分担意識に関する記述等 | <ul style="list-style-type: none"> 「枕草子」の「すさまじきもの」に「博士のうち続き女兒生ませたる。」という記述が見られる。 「源氏物語」で「父の大納言は亡くなりて、母北の方なむ、いにしへの人のよしあるにて、親うち具し、さしあたりて世のおぼえはなやかなる御方々にもいたう劣らず、何事の儀式をもてなし給ひけれど、取り立ててはかばかしき後見しなければ、事ある時は、なほ捩りどころなく心細げなり。」という記述が見られる。 「平安時代の後宮一定子をめぐる人々」で「女房は、中流貴族出身者が多かったようで、女性は家庭に入るのが一般的だった当時にあつては、数少ない就職先であった。」という記述が見られる。 「和歌というメディア」という文章で、本文に「また、同じく『枕草子』で女性教育に必要なものとして挙げられているのは、字を美しく書けること、琴を上手に弾けること、『古今和歌集』の全ての歌を覚えること、という三つである。」という記述が見られる。 |
| (2) 構成上の工夫 | |
| デジタルコンテンツの扱い | <ul style="list-style-type: none"> 古典作品を紹介する映像資料や、シミュレーション形式の活用表に、二次元コードを読み込んでアクセスできるよう工夫がされている。 |
| ユニバーサルデザインの視点 | <ul style="list-style-type: none"> 生徒の色覚特性に適応するようにデザインしている。 |

| 文学的文章 | | | 評論等 | | |
|---------------|-----------|-----------|--------------|----------------------|------------|
| 教材名 | 作品名 | 作者名等 | 教材名 | 作品名 | 作者名等 |
| 小野篁、広才のこと | 宇治拾遺物語 | 未詳 | 九月ばかり | 枕草子 | 清少納言 |
| 能は歌詠み | 古今著聞集 | 橘成季 | すさまじきもの | 枕草子 | 清少納言 |
| 成方といふ笛吹き | 十訓抄 | 未詳 | 中納言参り給ひて | 枕草子 | 清少納言 |
| 初冠 | 伊勢物語 | 未詳 | 雪のいと高う降りたるを | 枕草子 | 清少納言 |
| 月やあらぬ | 伊勢物語 | 未詳 | 二月つごもりごろに | 枕草子 | 清少納言 |
| 狩りの使ひ | 伊勢物語 | 未詳 | 宮に初めて参りたるころ | 枕草子 | 清少納言 |
| 小野の雪 | 伊勢物語 | 未詳 | 安元の大火 | 方丈記 | 鴨長明 |
| つひにゆく道 | 伊勢物語 | 未詳 | 日野山の閑居 | 方丈記 | 鴨長明 |
| 姨捨 | 大和物語 | 未詳 | 悲田院の堯蓮上人は | 徒然草 | 兼好法師 |
| 忠度の都落ち | 平家物語 | 未詳 | 世に従はん人は | 徒然草 | 兼好法師 |
| 壇の浦の合戦 | 平家物語 | 未詳 | あだし野の露消ゆる時なく | 徒然草 | 兼好法師 |
| この世のほか | 建礼門院右京大夫集 | 建礼門院右京大夫 | 花は盛りに | 徒然草 | 兼好法師 |
| 門出 | 更級日記 | 菅原孝標女 | 兼好法師が詞のあげつらひ | 玉勝間 | 本居宣長 |
| 物語 | 更級日記 | 菅原孝標女 | 師の説になづまざるごと | 玉勝間 | 本居宣長 |
| なげきつつひとり寝る夜 | 蜻蛉日記 | 藤原道綱母 | 古今和歌集仮名序 | 古今和歌集 | 紀貫之 |
| あまぐもにそる鷹 | 蜻蛉日記 | 藤原道綱母 | 近代秀歌 | 近代秀歌 | 藤原定家 |
| 光源氏の誕生 | 源氏物語 | 紫式部 | 和歌というメディア | 心づくしの日本語——和歌でよむ古代の思想 | ツバタナ・クリステワ |
| 若紫 | 源氏物語 | 紫式部 | 大納言殿参り給ひて | 枕草子 | 清少納言 |
| 雲林院の菩提講 | 大鏡 | 未詳 | 鷹狩りの歌 | 俊頼髓脳 | 源俊頼 |
| 道真の左遷 | 大鏡 | 未詳 | おもて歌のこと | 無名抄 | 鴨長明 |
| 鶯宿梅 | 大鏡 | 未詳 | ひとり雨聞く秋の夜すがら | 正徹物語 | 正徹 |
| 花山天皇の出家 | 大鏡 | 未詳 | 清少納言 | 無名草子 | 未詳 |
| 八代集の世界 | 古今和歌集 | 未詳 | 紫式部 | 無名草子 | 未詳 |
| 八代集の世界 | 古今和歌集 | 紀貫之 | もののはれの論 | 源氏物語玉の小櫛 | 本居宣長 |
| 八代集の世界 | 古今和歌集 | 小野小町 | 初心を忘るべからず | 花鏡 | 世阿弥 |
| 八代集の世界 | 後選和歌集 | 元良親王 | 虚実皮膜論 | 難波土産 | 穂積以貫 |
| 八代集の世界 | 後選和歌集 | 藤原かつみ | 訳語といふこと | たはれ草 | 雨森芳洲 |
| 八代集の世界 | 拾遺和歌集 | 曾禰好忠 | 読書の心得 | 北辺随筆 | 富士谷御杖 |
| 八代集の世界 | 後拾遺和歌集 | 能因法師 | 富士川 | 野ざらし紀行 | 松尾芭蕉 |
| 八代集の世界 | 後拾遺和歌集 | 和泉式部 | 吉野の花 | 笈の小文 | 松尾芭蕉 |
| 八代集の世界 | 金葉和歌集 | 源俊頼朝臣 | 月夜の卯兵衛 | 月夜の卯兵衛 | 与謝蕪村 |
| 八代集の世界 | 金葉和歌集 | 律師慶暹 | 歳末弁 | 歳末弁 | 与謝蕪村 |
| 八代集の世界 | 詞花和歌集 | 左京大夫顕輔 | 去来抄 | 去来抄 | 向井去来 |
| 八代集の世界 | 千載和歌集 | 円位法師 | 三冊子 | 三冊子 | 服部土芳 |
| 八代集の世界 | 新古今和歌集 | 藤原定家朝臣 | 百人一首改観抄 | 百人一首改観抄 | 契沖 |
| 八代集の世界 | 新古今和歌集 | 皇太后宮大夫俊成女 | 宇比麻奈備 | 宇比麻奈備 | 賀茂真淵 |
| 八代集の世界 | 新古今和歌集 | 太上天皇 | 百首異見 | 百首異見 | 香川景樹 |
| 歌合 | 天徳四年内裏歌合 | 未詳 | | | |
| 歌合 | 六百番歌合 | 未詳 | | | |
| | 梁塵秘抄 | 後白河法皇 | | | |
| | 閑吟集 | 未詳 | | | |
| 小判は寝姿の姿 | 世間胸算用 | 井原西鶴 | | | |
| 伴大納言、応天門を焼くこと | 宇治拾遺物語 | 未詳 | | | |
| 蓮花城、入水のこと | 発心集 | 鴨長明 | | | |
| 女郎花 | 紫式部日記 | 紫式部 | | | |
| 日本紀の御局 | 紫式部日記 | 紫式部 | | | |
| 夢よりもはかなき世の中を | 和泉式部日記 | 和泉式部 | | | |
| 有明の月に | 和泉式部日記 | 和泉式部 | | | |
| 駿河路 | 十六夜日記 | 阿仏尼 | | | |

| 文学的文章 | | | 評論等 | | |
|----------|----------|-----------|-----|-----|------|
| 教材名 | 作品名 | 作者名等 | 教材名 | 作品名 | 作者名等 |
| 東下り | 伊勢物語 | 未詳 | | | |
| なにがしの院 | 源氏物語 | 紫式部 | | | |
| 野宮の別れ | 源氏物語 | 紫式部 | | | |
| 須磨の秋 | 源氏物語 | 紫式部 | | | |
| 夜深き鶏の声 | 源氏物語 | 紫式部 | | | |
| 唐猫の綱 | 源氏物語 | 紫式部 | | | |
| 萩の上露 | 源氏物語 | 紫式部 | | | |
| 宇治の姫君たち | 源氏物語 | 紫式部 | | | |
| 橘の小島 | 源氏物語 | 紫式部 | | | |
| 三船の才 | 大鏡 | 未詳 | | | |
| 肝試し | 大鏡 | 未詳 | | | |
| 道長、伊周の競射 | 大鏡 | 未詳 | | | |
| 隆家と道長 | 大鏡 | 未詳 | | | |
| 東三条院と道長 | 大鏡 | 未詳 | | | |
| 姫君の苦難 | 落窪物語 | 未詳 | | | |
| このついで | 堤中納言物語 | 未詳 | | | |
| 人知れぬもの思ひ | とりかへばや物語 | 未詳 | | | |
| 倭建命 | 古事記 | 稗田阿礼 太安万侶 | | | |
| 万葉秀歌 | 万葉集 | 有間皇子 | | | |
| 万葉秀歌 | 万葉集 | 柿本朝臣人麻呂 | | | |
| 万葉秀歌 | 万葉集 | 高市連黒人 | | 男 | 女 |
| 万葉秀歌 | 万葉集 | 山部宿禰赤人 | 評論等 | 90% | 10% |
| 万葉秀歌 | 万葉集 | 大伴旅人 | 小説等 | 44% | 56% |
| 万葉秀歌 | 万葉集 | 大伴家持 | 詩歌 | 77% | 23% |
| 浅茅が宿 | 雨月物語 | 上田秋成 | 計 | 76% | 24% |

| | |
|-----|------|
| 教科名 | 国語 |
| 科目名 | 古典探究 |

※「教科書番号」欄にある◆は、「学習者用デジタル教科書」（学校教育法第34条第2項に規定する教材）の発行予定があることを示す。

| | |
|--|---|
| 発行者(略称) | 東書 |
| 教科書番号 | 古探703 |
| 教科書名 | 精選古典探究 漢文編 |
| (1) 内容 | |
| a 単元など内容や時間のまとまりを通して、その中で育む資質・能力の育成(各教科共通) | |
| 【言葉の特徴や使い方に関する事項】 | ・各教材末に「学習の手引き」「語句と表現」が設けられ、古典に用いられている語句の意味や用法、訓読のきまり、表現の技法などについての理解を深められるよう工夫されている。 |
| 【読むこと】 | ・思想、史伝、古体詩、近体詩などが取り上げられ、文章の種類を踏まえて、構成や展開、内容を的確に捉えたり、解釈したりできるよう教材が設定されている。 ・「漢文の窓」というコラムが掲載され、古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から読み深めることができるよう工夫されている。 ・「参考」として、単元の教材と関連する他の作品が掲載されている。 ・「言語活動」が設けられ、学習したことを基に調べ学習をしたり、表現活動をしたり、関連する他の作品と読み比べたりすることができるよう工夫されている。 ・教材末や単元末に「学習の手引き」や「言語活動」が設けられ、教材の種類や内容に応じて読みを深められるよう工夫されている。 |
| b 読書に関する指導 | |
| | ・「言語活動」の中に「本の帯を作ろう」という活動が設定されている。 |
| 《その他の項目》(各教科共通) | |
| 我が国の伝統や文化、国土や歴史に対する理解、他国の多様な文化の尊重に関する特徴や工夫 | ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深められるよう教材が設定されている。 ・「白楽天と日本文学」という単元が設定されている。 ・「漢文の窓」として、「明治の文豪と漢詩」「白楽天と日本人」に関するコラムが掲載されている。 ・巻頭及び巻末に中国の古典の世界の人々の生活に関する理解を促す図版が掲載されている。 |
| 人権課題(同和問題、北朝鮮による拉致問題等)に関する特徴や工夫 | 記載なし |
| 安全・防災や自然災害の扱い | 記載なし |
| オリンピック・パラリンピックに関する特徴や工夫 | 記載なし |
| 固定的な性別役割分担意識に関する記述等 | 記載なし |
| (2) 構成上の工夫 | |
| デジタルコンテンツの扱い | ・「D」の文字が表示されている教材に関連する動画や、音声、画像に、二次元コードを読み込んでアクセスできるように工夫されている。 |
| ユニバーサルデザインの視点 | ・生徒の色覚特性に適応するようにデザインしている。 |

| 文学的文章 | | | 評論等 | | |
|----------|--------|------|------------|---------------|------|
| 教材名 | 作品名 | 作者名等 | 教材名 | 作品名 | 作者名等 |
| 先從隗始 | 十八史略 | 曾先之 | 不死之藥 | 韓非子 | 韓非 |
| 完璧而歸 | 十八史略 | 曾先之 | 野中兼山 | 先哲叢談 | 原善 |
| 漱石枕流 | 世說新語 | 劉義慶 | 論語—二章 | 論語 | 未詳 |
| 創業守成 | 十八史略 | 曾先之 | 仁人心也、義人路也 | 孟子 | 孟軻 |
| 宿建德江 | 唐詩三百首 | 孟浩然 | 君子有三樂 | 孟子 | 孟軻 |
| 登鶴鵲樓 | 唐詩選 | 王之渙 | 君子に三樂有り | 講孟筭記 | 吉田松陰 |
| 登鶴鵲樓 | 自註鹿鳴集 | 会津八一 | 論語—三章 | 論語（雍也、憲問、公冶長） | 未詳 |
| 江雪 | 唐詩三百首 | 柳宗元 | 人非聖人 | 慎思錄 | 貝原益軒 |
| 勸酒 | 唐詩選 | 于武陵 | 性相近也 | 論語 | 未詳 |
| 勸酒 | 厄除け詩集 | 井伏鱒二 | 論語微 | 論語微 | 荻生徂徠 |
| 磻中作 | 唐詩選 | 岑参 | 性之善也、猶水之就下 | 孟子 | 孟軻 |
| 江南春 | 三体詩 | 杜牧 | 人之生惡 | 荀子 | 荀況 |
| 杜少府之任蜀州 | 唐詩三百首 | 王勃 | 無用之用 | 老子 | 老聃 |
| 黃鶴樓 | 唐詩三百首 | 崔顥 | 人之生也、柔弱 | 老子 | 老聃 |
| 聞旅雁 | 菅家後集 | 菅原道真 | 大道廢、有仁義 | 老子 | 老聃 |
| 送夏日漱石之伊予 | 子規全集 | 正岡子規 | 上善若水 | 老子 | 老聃 |
| 鴻門之会 | 史記 | 司馬遷 | 小国寡民 | 老子 | 老聃 |
| 四面楚歌 | 史記 | 司馬遷 | 曳尾於塗中 | 莊子 | 莊周 |
| 項王自刎 | 史記 | 司馬遷 | 夢為胡蝶 | 莊子 | 莊周 |
| 吾所以有天下者何 | 史記 | 司馬遷 | 木の花は | 枕草子 | 清少納言 |
| 弟子 | 中島敦全集 | 中島敦 | 原泉混混 | 孟子 | 孟軻 |
| 小時了了 | 世說新語 | 劉義慶 | 天下莫柔弱於水 | 老子 | 老聃 |
| 長安何如日遠 | 世說新語 | 劉義慶 | 直躬 | 論語 | 未詳 |
| 夜行逢鬼 | 太平広記 | 李昉 | 直躬 | 韓非子 | 韓非 |
| 桃夭 | 詩經 | 未詳 | 能近取譬 | 論語 | 未詳 |
| 碩鼠 | 詩經 | 未詳 | 無恒産無恒心 | 孟子 | 孟軻 |
| 行行重行行 | 文選 | 未詳 | 無為之治 | 老子 | 老聃 |
| 野田黃雀行 | 樂府詩集 | 曹植 | 兼愛 | 墨子 | 墨子 |
| 飲酒 | 陶淵明集 | 陶潜 | 侵官之害 | 韓非子 | 韓非 |
| 漁父辭 | 楚辭 | 屈原 | 朋党論 | 文章軌範 | 歐陽脩 |
| 五柳先生伝 | 陶淵明集 | 陶潜 | 御製朋党論 | 大清世宗憲皇帝実録 | 雍正帝 |
| 春夜宴桃李園序 | 古文真宝後集 | 李白 | | | |
| 赤壁之戰 | 十八史略 | 曾先之 | | | |
| 竭股肱之力 | 十八史略 | 曾先之 | | | |
| 出師表 | 十八史略 | 曾先之 | | | |
| 所争不在米塩 | 日本外史 | 頼山陽 | | | |
| 諸將服信玄 | 日本外史 | 頼山陽 | | | |
| 秋浦歌 | 唐詩選 | 李白 | | | |
| 独坐敬亭山 | 唐詩選 | 李白 | | | |
| 早發白帝城 | 唐詩選 | 李白 | | | |
| 送友人 | 唐詩三百首 | 李白 | | | |
| 月下独酌 | 唐詩三百首 | 李白 | | | |
| 夢李白 | 唐詩三百首 | 杜甫 | | | |
| 絶句 | 唐詩選 | 杜甫 | | | |
| 月夜 | 唐詩三百首 | 杜甫 | | | |
| 秋興 | 唐詩選 | 杜甫 | | | |
| 登岳陽樓 | 唐詩三百首 | 杜甫 | | | |
| 石壕吏 | 杜工部集 | 杜甫 | | | |
| 杜甫石壕吏 | 子規全集 | 正岡子規 | | | |

| 文学的文章 | | | 評論等 | | |
|------------|-------|------|-----|------|------|
| 教材名 | 作品名 | 作者名等 | 教材名 | 作品名 | 作者名等 |
| 風蕭蕭兮易水寒 | 史記 | 司馬遷 | | | |
| 囚窮而七首見 | 史記 | 司馬遷 | | | |
| 天下大定 | 史記 | 司馬遷 | | | |
| 俛出袴下 | 史記 | 司馬遷 | | | |
| 背水陳 | 史記 | 司馬遷 | | | |
| 狡兔死、良狗亨 | 史記 | 司馬遷 | | | |
| 長恨歌 | 白氏長慶集 | 白居易 | 評論等 | 92% | 8% |
| 桐壺 | 源氏物語 | 紫式部 | 小説等 | 93% | 7% |
| 三月尽 | 和漢朗詠集 | 白居易 | 詩歌 | 100% | 0% |
| | 和漢朗詠集 | 菅原道真 | 計 | 96% | 4% |
| | 和漢朗詠集 | 紀貫之 | | | |
| 桃花源記 | 陶淵明集 | 陶潛 | | | |
| 離魂記 | 太平広記 | 陳玄祐 | | | |
| 兵形象水 | 孫子 | 孫武 | | | |
| 与孟東野書 | 昌黎先生集 | 韓愈 | | | |
| 左遷至藍關、示姪孫湘 | 昌黎先生集 | 韓愈 | | | |
| 捕蛇者説 | 柳河東集 | 柳宗元 | | | |
| 苛政猛於虎也 | 礼記 | 戴聖 | | | |

| | |
|-----|------|
| 教科名 | 国語 |
| 科目名 | 古典探究 |

※「教科書番号」欄にある◆は、「学習者用デジタル教科書」（学校教育法第34条第2項に規定する教材）の発行予定があることを示す。

| | |
|--|--|
| 発行者(略称) | 三省堂 |
| 教科書番号 | 古探704◆ |
| 教科書名 | 精選 古典探究 古文編 |
| (1) 内容 | |
| a 単元など内容や時間のまとまりを通して、その中で育む資質・能力の育成(各教科共通) | |
| 【言葉の特徴や使い方に関する事項】 | <ul style="list-style-type: none"> ・「学びを広げる」として「古語と現代語」という活動が設けられ、時間の経過による言葉の変化について理解が深められるよう工夫されている。 ・「文法から解釈へ」という4編のコラムが掲載され、文語のきまりに関する興味・関心を喚起できるよう工夫されている。 ・各教材末に「語句と表現」が設けられ、古典に用いられている語句の意味や用法、文語のきまり、表現の技法などについての理解を深められるよう工夫されている。 |
| 【読むこと】 | <ul style="list-style-type: none"> ・説話、随筆、作り物語、和歌、日記、軍記物語、歌物語、歴史物語、歌論、俳諧などが取り上げられ、文章の種類を踏まえて、構成や展開、内容を的確に捉えたり、解釈したりできるよう教材が設定されている。 ・「参考」として、単元の教材と関連する他の作品が掲載されている。 ・「古典の扉」というコラムが掲載され、古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から読み深めることができるよう工夫されている。 ・各単元に「学びを広げる」が設定され、学習したことを基に調べ学習をしたり、表現活動をしたり、関連する他の作品と読み比べたりすることができるよう工夫されている。 ・各教材末に「課題」が設けられ、教材の種類や内容に応じて読みを深められるよう工夫されている。 |
| b 読書に関する指導 | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・各部の冒頭に「読書の扉」が設けられ、単元に関連する書籍が紹介されている。 |
| 《その他の項目》(各教科共通) | |
| 我が国の伝統や文化、国土や歴史に対する理解、他国の多様な文化の尊重に関する特徴や工夫 | <ul style="list-style-type: none"> ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深められるよう教材が設定されている。 ・「参考」として、白居易の漢詩が掲載されている。 ・巻末に古典の世界の人々の生活に関する理解を促す図版が掲載されている。 |
| 人権課題(同和問題、北朝鮮による拉致問題等)に関する特徴や工夫 | 記載なし |
| 安全・防災や自然災害の扱い | <ul style="list-style-type: none"> ・「方丈記」の「安元の大火」が掲載されている。 |
| オリンピック・パラリンピックに関する特徴や工夫 | 記載なし |
| 固定的な性別役割分担意識に関する記述等 | <ul style="list-style-type: none"> ・「枕草子」の「すさまじきもの」で「博士のうち続き女児産ませたる。」という記述が見られる。 ・「源氏物語」で「父の大納言は亡くなりて、母北の方なむ古の人の由あるにて、親うち具し、さしあたりて世の覚え華やかなる御方々にもいたう劣らず、何ごとの儀式をもてなし給ひけれど、取り立ててはかばかしき後見しなければ、事ある時は、なほ抛りどころなく心細げなり。」という記述が見られる。 ・「平安時代の文学—女性と仮名」で「この時代、室内で過ごすことが多かった女性は、夫や恋人の来訪を待つ生活を送っていた。複数の妻をもつことが許されていた結婚形態の中で、夫の愛を独占することは困難であった。そうした生活様式は、おのずと内省的な思考を育てることになる。」という記述が見られる。 |
| (2) 構成上の工夫 | |
| デジタルコンテンツの扱い | <ul style="list-style-type: none"> ・学習の参考となる情報に、二次元コードを読み込んでアクセスできるよう工夫されている。 |
| ユニバーサルデザインの視点 | <ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサルデザインに配慮して編集している。 |

| 文学的文章 | | | 評論等 | | |
|---------------------|-----------|-----------|--------------|-----------|----------|
| 教材名 | 作品名 | 作者名等 | 教材名 | 作品名 | 作者名等 |
| 博雅の三位と鬼の笛 | 十訓抄 | 六波羅二膳左衛門 | 古典を読むということ | 王朝文学とつき合う | 竹西寛子 |
| 小野篁、広才のこと | 宇治拾遺物語 | 未詳 | あだし野の露消ゆる時なく | 徒然草 | 兼好法師 |
| 大江山 | 古今著聞集 | 橘成季 | 悲田院の堯蓮上人は | 徒然草 | 兼好法師 |
| 和歌にまつわるエピソード | 小倉百人一首 | 参議篁 | 世に従はん人は | 徒然草 | 兼好法師 |
| 和歌にまつわるエピソード | 小倉百人一首 | 紀貫之 | 花は盛りに | 徒然草 | 兼好法師 |
| 和歌にまつわるエピソード | 小倉百人一首 | 右近 | 兼好法師が詞のあげつらひ | 玉勝間 | 本居宣長 |
| 和歌にまつわるエピソード | 小倉百人一首 | 平兼盛 | ゆく河の流れ | 方丈記 | 鴨長明 |
| 和歌にまつわるエピソード | 小倉百人一首 | 伊勢大輔 | 安元の大火 | 方丈記 | 鴨長明 |
| かぐや姫の昇天 | 竹取物語 | 未詳 | 百鍊抄との読み比べ | 百鍊抄 | 未詳 |
| 初冠 | 伊勢物語 | 未詳 | 日野山の閑居 | 方丈記 | 鴨長明 |
| 筒井筒 | 伊勢物語 | 未詳 | すさまじきもの | 枕草子 | 清少納言 |
| 小説伊勢物語 業平 | 小説伊勢物語 業平 | 高樹のぶ子 | 中納言参り給ひて | 枕草子 | 清少納言 |
| 月やあらぬ | 伊勢物語 | 未詳 | 雪のいと高う降りたるを | 枕草子 | 清少納言 |
| 小野の雪 | 伊勢物語 | 未詳 | なべて世のはかなきことを | 建礼門院右京大夫集 | 建礼門院右京大夫 |
| つひにゆく道 | 伊勢物語 | 未詳 | やまと歌は | 古今和歌集 | 紀貫之 |
| 姨捨 | 大和物語 | 未詳 | 愛づー虫愛る姫君 | ゲノムが語る生命 | 中村桂子 |
| 香炉峰下、新ト山居、草堂初成、偶題東壁 | 白氏文集 | 白居易 | 木の花は | 枕草子 | 清少納言 |
| 光源氏の誕生 | 源氏物語 | 紫式部 | 宮に初めて参りたること | 枕草子 | 清少納言 |
| 藤壺の入内 | 源氏物語 | 紫式部 | 二月つごもりごろに | 枕草子 | 清少納言 |
| 北山の垣間見 | 源氏物語 | 紫式部 | 大納言参り給ひて | 枕草子 | 清少納言 |
| 雲林院の菩提講 | 大鏡 | 未詳 | 春を告げる香り | 随筆を書く | 瀬戸内寂聴 |
| 花山院の出家 | 大鏡 | 未詳 | 沓冠折句の歌 | 俊頼髓脳 | 源俊頼 |
| 栄花物語との読み比べ | 栄花物語 | 未詳 | 深草の里 | 無名抄 | 鴨長明 |
| 弓争ひ | 大鏡 | 未詳 | 心と詞 | 毎月抄 | 藤原定家 |
| 三舟の才 | 大鏡 | 未詳 | 一字の違ひ | 正徹物語 | 正徹 |
| あこがれ | 更級日記 | 菅原孝標女 | 行く春を | 去来抄 | 向井去来 |
| 源氏の五十余巻 | 更級日記 | 菅原孝標女 | 岩鼻や | 去来抄 | 向井去来 |
| 忠度の都落ち | 平家物語 | 未詳 | もののあはれ | 源氏語玉の小櫛 | 本居宣長 |
| 能登殿の最期 | 平家物語 | 未詳 | 文 | 無名草子 | 未詳 |
| 倭建の東征 | 古事記 | 稗田阿礼 太安万侶 | 下手は上手の手本 | 風姿花伝 | 世阿弥 |
| 和歌十六首 | 万葉集 | 柿本人麻呂 | 虚実皮膜の間 | 難波土産 | 三木平右衛門貞成 |
| 和歌十六首 | 万葉集 | 柿本人麻呂 | 師の説になづまざること | 玉勝間 | 本居宣長 |
| 和歌十六首 | 万葉集 | 柿本人麻呂 | 近松淨瑠璃 | 本の中の世界 | 湯川秀樹 |
| 和歌十六首 | 万葉集 | 伊勢 | | | |
| 和歌十六首 | 万葉集 | 紀貫之 | | | |
| 和歌十六首 | 万葉集 | よみ人しらず | | | |
| 和歌十六首 | 後撰和歌集 | 元良親王 | | | |
| 和歌十六首 | 拾遺和歌集 | 藤原公任 | | | |
| 和歌十六首 | 拾遺和歌集 | 恵慶法師 | | | |
| 和歌十六首 | 後拾遺和歌集 | 和泉式部 | | | |
| 和歌十六首 | 千載和歌集 | 藤原俊成 | | | |
| 和歌十六首 | 千載和歌集 | 周防内侍 | | | |
| 和歌十六首 | 新古今和歌集 | 藤原定家 | | | |
| 和歌十六首 | 新古今和歌集 | 藤原家隆 | | | |
| 和歌十六首 | 山家集 | 西行法師 | | | |
| 和歌十六首 | 金槐和歌集 | 源実朝 | | | |
| 水無瀬三吟百韻 | 水無瀬三吟百韻 | 宗祇 | | | |
| 水無瀬三吟百韻 | 水無瀬三吟百韻 | 肖柏 | | | |
| 水無瀬三吟百韻 | 水無瀬三吟百韻 | 宗長 | | | |

| 文学的文章 | | | 評論等 | | |
|--------------|---------|--------|-----|-----|------|
| 教材名 | 作品名 | 作者名等 | 教材名 | 作品名 | 作者名等 |
| 俳諧二十句 | | 松永貞徳 | | | |
| 俳諧二十句 | | 西山宗因 | | | |
| 俳諧二十句 | | 井原西鶴 | | | |
| 俳諧二十句 | | 小西来山 | | | |
| 俳諧二十句 | | 池西言水 | | | |
| 俳諧二十句 | | 松尾芭蕉 | | | |
| 俳諧二十句 | | 宝井其角 | | | |
| 俳諧二十句 | | 服部嵐雪 | | | |
| 俳諧二十句 | | 向井去来 | | | |
| 俳諧二十句 | | 与謝蕪村 | | | |
| 俳諧二十句 | | 小林一茶 | | | |
| 道真と時平 | 大鏡 | 未詳 | | | |
| 最後の除目 | 大鏡 | 未詳 | | | |
| 肝試し | 大鏡 | 未詳 | | | |
| 道永と詮子 | 大鏡 | 未詳 | | | |
| うつろひたる菊 | 蜻蛉日記 | 藤原道綱母 | | | |
| 恋四 | 拾遺和歌集 | 右大将道綱母 | | | |
| 太政大臣兼家 | 大鏡 | 未詳 | | | |
| 鷹を放つ | 蜻蛉日記 | 藤原道綱母 | | | |
| 夢よりもはかなき世の中を | 和泉式部日記 | 和泉式部 | | | |
| 秋のけはひ | 紫式部日記 | 紫式部 | | | |
| 和泉式部と清少納言 | 紫式部日記 | 紫式部 | | | |
| 想像の世界を詠む | | 与謝蕪村 | | | |
| 想像の世界を詠む | | 与謝蕪村 | | | |
| 想像の世界を詠む | | 与謝蕪村 | | | |
| 物の怪の出現 | 源氏物語 | 紫式部 | | | |
| 心づくしの秋風 | 源氏物語 | 紫式部 | | | |
| 明石の君の苦惱 | 源氏物語 | 紫式部 | | | |
| 女三の宮の降嫁 | 源氏物語 | 紫式部 | | | |
| 萩の上露 | 源氏物語 | 紫式部 | | | |
| 浮舟と匂宮 | 源氏物語 | 紫式部 | | | |
| 大晦日は合はぬ算用 | 西鶴諸国ばなし | 井原西鶴 | | 男 | 女 |
| 貧の意地 | 新釈諸国噺 | 太宰治 | 評論等 | 69% | 31% |
| 道行 | 曾根崎心中 | 近松門左衛門 | 小説等 | 58% | 42% |
| 芳流閣の決闘 | 南総里見八犬伝 | 曲亭馬琴 | 詩歌 | 82% | 18% |
| 東海道中膝栗毛 | 東海道中膝栗毛 | 十返舎一九 | 計 | 74% | 26% |

| | |
|-----|------|
| 教科名 | 国語 |
| 科目名 | 古典探究 |

※「教科書番号」欄にある◆は、「学習者用デジタル教科書」（学校教育法第34条第2項に規定する教材）の発行予定があることを示す。

| | |
|--|---|
| 発行者(略称) | 三省堂 |
| 教科書番号 | 古探705◆ |
| 教科書名 | 精選 古典探究 漢文編 |
| (1) 内容 | |
| a 単元など内容や時間のまとまりを通して、その中で育む資質・能力の育成(各教科共通) | |
| 【言葉の特徴や使い方に関する事項】 | <ul style="list-style-type: none"> ・「故事成語」という単元が設けられ、故事成語について理解を深められるよう工夫されている。 ・「漢文を読むために」として、近体詩、歴史書、小説をテーマとした3篇のコラムを掲載している。 ・各教材末に「語句と表現」が設けられ、古典に用いられている語句の意味や用法、表現の技法などについての理解を深められるよう工夫されている。 |
| 【読むこと】 | <ul style="list-style-type: none"> ・思想、史伝、古体詩、近体詩などが取り上げられ、文章の種類を踏まえて、構成や展開、内容を的確に捉えたり、解釈したりできるよう教材が設定されている。 ・「参考」として、単元の教材と関連する他の作品が掲載されている。 ・「古典の扉」というコラムが掲載され、古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から読み深めることができるよう工夫されている。 ・各単元に「学びを広げる」が設定され、学習したことを基に調べ学習をしたり、表現活動をしたり、関連する他の作品と読み比べたりすることができるよう工夫されている。 ・各教材末に「課題」が設けられ、教材の種類や内容に応じて読みを深められるよう工夫されている。 |
| b 読書に関する指導 | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・「読書の扉」というコラムが設けられ、単元に関連する書籍が紹介されている。 |
| 《その他の項目》(各教科共通) | |
| 我が国の伝統や文化、国土や歴史に対する理解、他国の多様な文化の尊重に関する特徴や工夫 | <ul style="list-style-type: none"> ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深められるよう教材が設定されている。 ・「日本の漢詩文」という単元が設定されている。 ・巻末に中国の古典の世界の人々の生活に関する理解を促す図版が掲載されている。 |
| 人権課題(同和問題、北朝鮮による拉致問題等)に関する特徴や工夫 | 記載なし |
| 安全・防災や自然災害の扱い | 記載なし |
| オリンピック・パラリンピックに関する特徴や工夫 | 記載なし |
| 固定的な性別役割分担意識に関する記述等 | 記載なし |
| (2) 構成上の工夫 | |
| デジタルコンテンツの扱い | <ul style="list-style-type: none"> ・学習の参考となる情報に、二次元コードを読み込んでアクセスできるよう工夫されている。 |
| ユニバーサルデザインの視点 | <ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサルデザインに配慮して編集している。 |

| 文学的文章 | | | 評論等 | | |
|----------|--------|------|------------|---------------------------------------|------|
| 教材名 | 作品名 | 作者名等 | 教材名 | 作品名 | 作者名等 |
| 画竜点睛 | 歴代名画記 | 張彦遠 | 『論語』一私の古典 | <small>高橋和巳コレクション5 さわやかな朝がゆの味</small> | 高橋和巳 |
| 病入膏肓 | 春秋左氏伝 | 左丘明 | 故事成語のおもしろさ | 故事成語 | 合山究 |
| 杞憂 | 列子 | 列禦冠 | 奥の細道 | 奥の細道 | 松尾芭蕉 |
| 塞翁馬 | 淮南子 | 劉安 | 論語 | 論語 | 未詳 |
| 吳越同舟 | 孫子 | 孫武 | 論語 | 論語 | 未詳 |
| 鹿紫 | 唐詩選 | 王維 | 論語 | 論語 | 未詳 |
| 宿建德江 | 唐詩三百首 | 孟浩然 | 無恒産而有恒心者 | 孟子 | 孟軻 |
| 涼州詞 | 唐詩選 | 王之渙 | 不忍人之心 | 孟子 | 孟軻 |
| 春夜 | 蘇軾詩集 | 蘇軾 | 人之性悪 | 荀子 | 荀況 |
| 送友人 | 唐詩選 | 李白 | 大道廢有仁義 | 老子 | 老子 |
| 送僧帰日本 | 唐詩三百首 | 錢起 | 無用之用 | 老子 | 老子 |
| 在唐憶本郷 | 懷風藻 | 弁正 | 曳尾於塗中 | 莊子 | 莊周 |
| 登高 | 唐詩選 | 杜甫 | 渾沌 | 莊子 | 莊周 |
| 遊山西村 | 宋詩選註 | 陸游 | 小国寡民 | 老子 | 老子 |
| 訳詞の試み | 静夜思 | 李白 | 池亭記 | 本朝文粹 | 慶滋保胤 |
| 訳詞の試み | 鶯の卵 | 土岐善磨 | 取塩於我国 | 日本外史 | 頼山陽 |
| 訳詞の試み | 厄除け詩集 | 井伏鱒二 | 『荘子』と素粒子 | 本の中の世界 | 湯川秀樹 |
| 訳詞の試み | 唐詩和訓 | 横山悠太 | 不死之薬 | 韓非子 | 韓非 |
| 鴻門之会 | 史記 | 司馬遷 | 三往乃見 | 三国志 | 陳寿 |
| 四面楚歌 | 史記 | 司馬遷 | 股肱之力 | 三国志 | 陳寿 |
| 項王最期 | 史記 | 司馬遷 | 何必曰利 | 孟子 | 孟軻 |
| 題烏江亭 | 杜樊川詩註 | 杜牧 | 性猶湍水也 | 孟子 | 孟軻 |
| 烏江亭 | 臨川先生文集 | 王安石 | 青取之藍而青於藍 | 荀子 | 荀況 |
| 烏江 | 李清照集 | 李清照 | 天下莫柔弱於水 | 老子 | 老子 |
| 漁父辞 | 古文真宝 | 屈原 | 夢為胡蝶 | 莊子 | 莊周 |
| 春夜宴桃李園序 | 古文真宝 | 李白 | 聖人不期修古 | 韓非子 | 韓非 |
| 日本永代蔵 | 日本永代蔵 | 井原西鶴 | 非攻 | 墨子 | 墨翟 |
| 桃花源記 | 陶淵明集 | 陶潜 | | | |
| 壳鬼 | 搜神記 | 干宝 | | | |
| 自詠 | 菅家後集 | 菅原道真 | | | |
| 山茶花 | 空華集 | 義堂周信 | | | |
| 夜下墨水 | 南郭先生文集 | 服部南郭 | | | |
| 悼亡 | 枕山詩鈔 | 大沼枕山 | | | |
| 無題 | 漱石詩集 | 夏目漱石 | | | |
| 送夏日漱石之伊予 | 漢詩稿 | 正岡子規 | | | |
| 航西日記 | 航西日記 | 森鷗外 | | | |
| 題不識庵擊機山図 | 山陽詩鈔 | 頼山陽 | | | |
| 桜戀春容 | 鶴梁文鈔 | 林鶴梁 | | | |
| 三横 | 世説新語 | 劉義慶 | | | |
| 不顧後患 | 説苑 | 劉向 | | | |
| 完璧帰趙 | 史記 | 司馬遷 | | | |
| 勿頸之交 | 史記 | 司馬遷 | | | |
| 風蕭蕭兮易水寒 | 史記 | 司馬遷 | | | |
| 図窮而七首見 | 史記 | 司馬遷 | | | |
| 桃夭 | 詩經 | 未詳 | | | |
| 生年不滿百 | 文選 | 未詳 | | | |
| 秋風辞 | 古文真宝 | 漢武帝 | | | |
| 飲酒 | 陶淵明集 | 陶潜 | | | |
| 兵車行 | 唐詩三百首 | 杜甫 | | | |

| 文学的文章 | | | 評論等 | | |
|----------|----------|------|-----|------|------|
| 教材名 | 作品名 | 作者名等 | 教材名 | 作品名 | 作者名等 |
| 長恨歌 | 古文真宝 | 白居易 | | | |
| 桐壺 | 源氏物語 | 紫式部 | | | |
| 人面桃花 | 本事詩 | 孟棻 | | | |
| 酒虫 | 聊齋志異 | 蒲松齡 | | | |
| 葉限 | 酉陽雜俎 | 段成式 | | | |
| 桃園結義 | 三国志演義 | 羅貫中 | | | |
| 張翼德大鬧長坂橋 | 三国志演義 | 羅貫中 | | | |
| 進遇於赤壁 | 十八史略 | 曾先之 | | 男 | 女 |
| 愚公移山 | 列子 | 列禦寇 | 評論等 | 100% | 0% |
| 師說 | 唐宋八大家文讀本 | 韓愈 | 小説等 | 96% | 4% |
| 捕蛇者說 | 唐宋八大家文讀本 | 柳宗元 | 詩歌 | 100% | 0% |
| 赤壁賦 | 古文真宝 | 蘇軾 | 計 | 98% | 2% |

| | |
|-----|------|
| 教科名 | 国語 |
| 科目名 | 古典探究 |

※「教科書番号」欄にある◆は、「学習者用デジタル教科書」（学校教育法第34条第2項に規定する教材）の発行予定があることを示す。

| | |
|--|--|
| 発行者(略称) | 大修館 |
| 教科書番号 | 古探706◆ |
| 教科書名 | 古典探究 古文編 |
| (1) 内容 | |
| a 単元など内容や時間のまとまりを通して、その中で育む資質・能力の育成(各教科共通) | |
| 【言葉の特徴や使い方に関する事項】 | <ul style="list-style-type: none"> ・「古事記」「海幸山幸」という作品の「学習のポイント」の「探究」において、時間の経過による言葉の変化を調べる活動が設定されている。 ・各教材末の「学習のポイント」に「語句」が設けられ、古典に用いられている語句の意味や用法、文語のきまりなどについての理解を深められるよう工夫されている。 |
| 【読むこと】 | <ul style="list-style-type: none"> ・説話、随筆、作り物語、和歌、日記、軍記物語、歌物語、歴史物語、歌論、俳諧、古典芸能などが取り上げられ、文章の種類を踏まえて、構成や展開、内容を的確に捉えたり、解釈したりできるような教材が設定されている。 ・「読み比べ」「視点」として、単元の教材と関連する他の作品が掲載されている。 ・「古文の窓」というコラムが掲載され、古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から読み深めることができるよう工夫されている。 ・各教材末に「学習のポイント」が設けられ、教材の種類や内容に応じて読みを深められるよう工夫されている。 |
| b 読書に関する指導 | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・「豆知識」というコラムが設けられ、単元に関連する書籍が紹介されている。 |
| 《その他の項目》(各教科共通) | |
| 我が国の伝統や文化、国土や歴史に対する理解、他国の多様な文化の尊重に関する特徴や工夫 | <ul style="list-style-type: none"> ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深められるよう教材が設定されている。 ・巻頭及び巻末に古典の世界の人々の生活に関する理解を促す図版が掲載されている。 |
| 人権課題(同和問題、北朝鮮による拉致問題等)に関する特徴や工夫 | 記載なし |
| 安全・防災や自然災害の扱い | <ul style="list-style-type: none"> ・「方丈記」の「安元の大火」が掲載されている。 |
| オリンピック・パラリンピックに関する特徴や工夫 | 記載なし |
| 固定的な性別役割分担意識に関する記述等 | <ul style="list-style-type: none"> ・「枕草子」の「すさまじきもの」で「博士のうち続き女兒生ませたる。」という記述が見られる。 ・「源氏物語」で「父の大納言は亡くなりて、母北の方なむ、いにしへの人のよしあるにて、親うち具し、さしあたりて世のおぼえはなやかなる御方々にもいたう劣らず、何事の儀式をももてなしたまひけれど、とりたててはかばかしき後見しなければ、事ある時は、なほよりどころなく心細げなり。」という記述が見られる。 |
| (2) 構成上の工夫 | |
| デジタルコンテンツの扱い | <ul style="list-style-type: none"> ・教材に関連する動画や音声、画像、課題に、二次元コードを読み込んでアクセスできるよう工夫されている。 |
| ユニバーサルデザインの視点 | 記載なし |

| 文学的文章 | | | 評論等 | | |
|--------------------|--------|----------|------------------|-------------|--------|
| 教材名 | 作品名 | 作者名等 | 教材名 | 作品名 | 作者名等 |
| 検非違使忠明のこと | 宇治拾遺物語 | 未詳 | 生野（土山宿） | 風と双眼鏡、膝掛け毛布 | 梨木香歩 |
| 大江山いくのの道 | 十訓抄 | 六波羅二臈左衛門 | 家居のつきづきしく | 徒然草 | 兼好法師 |
| 生野 | 東海道名所記 | 浅井了意 | 今日はそのことをなさんと思へど | 徒然草 | 兼好法師 |
| 安倍晴明 | 今昔物語集 | 未詳 | 花は盛りに | 徒然草 | 兼好法師 |
| 陰陽師 | 陰陽師 | 夢枕獏 | あだし野の露 | 徒然草 | 兼好法師 |
| かぐや姫の昇天 | 竹取物語 | 未詳 | 兼好法師が詞のあげつらひ | 玉勝間 | 本居宣長 |
| 初冠 | 伊勢物語 | 未詳 | 行く河の流れ | 方丈記 | 鴨長明 |
| 頬被り | 仁勢物語 | 未詳 | 安元の大火 | 方丈記 | 鴨長明 |
| 月やあらぬ | 伊勢物語 | 未詳 | 日野山の閑居 | 方丈記 | 鴨長明 |
| 渚の院 | 伊勢物語 | 未詳 | すさまじきもの | 枕草子 | 清少納言 |
| つひにゆく道 | 伊勢物語 | 未詳 | 木の花は | 枕草子 | 清少納言 |
| をばすて | 大和物語 | 未詳 | 宮に初めて参りたるころ | 枕草子 | 清少納言 |
| 光源氏の誕生 | 源氏物語 | 紫式部 | 中納言参りたまひて | 枕草子 | 清少納言 |
| 藤壺の入内 | 源氏物語 | 紫式部 | 日記と日本人 | 日記と日本人 | 林望 |
| 若紫との出会い | 源氏物語 | 紫式部 | 仮名序 | 古今和歌集 | 紀貫之 |
| 羽根 | 土佐日記 | 紀貫之 | 六歌仙の歌 | 古今和歌集 | 紀貫之 |
| 門出 | 更級日記 | 菅原孝標の女 | おもて歌 | 無名抄 | 鴨長明 |
| 源氏の五十余巻 | 更級日記 | 菅原孝標の女 | 幽玄—想像された美 | いきと風流 | 尼ヶ崎彬 |
| 駿河路 | 十六夜日記 | 阿仏尼 | 沓冠の折句 | 正徹物語 | 正徹 |
| 雲林院の菩提講 | 大鏡 | 未詳 | 連歌は心より起こりて | 連理秘抄 | 二条良基 |
| 道真左遷 | 大鏡 | 未詳 | うれしきもの | 枕草子 | 清少納言 |
| 競べ弓 | 大鏡 | 未詳 | 虫は | 枕草子 | 清少納言 |
| 花山院の出家 | 大鏡 | 未詳 | 二月つごもりごろに | 枕草子 | 清少納言 |
| 忠度都落ち | 平家物語 | 未詳 | 五月ばかりなどに山里にありく | 枕草子 | 清少納言 |
| 能登殿最期 | 平家物語 | 未詳 | 頭の弁の、職に参りたまひて | 枕草子 | 清少納言 |
| 静の白拍子 | 義経記 | 未詳 | この草子、目に見え心に思ふことを | 枕草子 | 清少納言 |
| 万葉集 | 万葉集 | 額田王 | 二つの教養 | 山本健吉全集 | 山本健吉 |
| 万葉集 | 万葉集 | 大海人皇子 | 紫式部のこと | 無名草子 | 未詳 |
| 万葉集 | 万葉集 | 山上憶良 | 造化にしたがひ造化にかへれ | 笈の小文 | 松尾芭蕉 |
| 万葉集 | 万葉集 | 大伴旅人 | 不易と変化 | 三冊子 | 服部土芳 |
| 万葉集 | 万葉集 | 穗積親王 | 行く春を | 去来抄 | 向井去来 |
| 万葉集 | 万葉集 | 柿本人麻呂 | 因果の花 | 風姿花伝 | 世阿弥 |
| 万葉集 | 万葉集 | 大伴家持 | 虚実皮膜の論 | 難波土産 | 三木平右衛門 |
| 万葉集 | 万葉集 | 玉造部広目 | | | |
| 撰者の歌 | 古今和歌集 | 紀貫之 | | | |
| 撰者の歌 | 古今和歌集 | 壬生忠岑 | | | |
| 撰者の歌 | 古今和歌集 | 凡河内躬恒 | | | |
| 撰者の歌 | 古今和歌集 | 紀友則 | | | |
| 新古今和歌集 | 新古今和歌集 | 藤原定家 | | | |
| 新古今和歌集 | 新古今和歌集 | 式子内親王 | | | |
| 新古今和歌集 | 新古今和歌集 | 藤原俊成 | | | |
| 新古今和歌集 | 新古今和歌集 | 藤原家隆 | | | |
| 新古今和歌集 | 新古今和歌集 | 西行法師 | | | |
| 梁塵秘抄 | 梁塵秘抄 | 後白河法皇 | | | |
| 閑吟集 | 閑吟集 | 未詳 | | | |
| 源義家、衣川にて安倍貞任と連歌のこと | 古今著聞集 | 橘成季 | | | |
| 馬盗人 | 今昔物語集 | 未詳 | | | |
| 虫めづる姫君 | 堤中納言物語 | 未詳 | | | |
| 三船の才 | 大鏡 | 未詳 | | | |

| 文学的文章 | | | 評論等 | | |
|-----------|---------|--------|-----|-----|------|
| 教材名 | 作品名 | 作者名等 | 教材名 | 作品名 | 作者名等 |
| 肝だめし | 大鏡 | 未詳 | | | |
| 鶯宿梅 | 大鏡 | 未詳 | | | |
| 町の小路の女 | 蜻蛉日記 | 藤原道綱の母 | | | |
| 鷹 | 蜻蛉日記 | 藤原道綱の母 | | | |
| 薫る香に | 和泉式部日記 | 和泉式部 | | | |
| 土御門邸の秋 | 紫式部日記 | 紫式部 | | | |
| 和泉式部と清少納言 | 紫式部日記 | 紫式部 | | | |
| 葵の上と物の怪 | 源氏物語 | 紫式部 | | | |
| 須磨の秋 | 源氏物語 | 紫式部 | | | |
| 母子の別れ | 源氏物語 | 紫式部 | | | |
| 女三の宮と柏木 | 源氏物語 | 紫式部 | | | |
| 紫の上の死 | 源氏物語 | 紫式部 | | | |
| 薫と宇治の姫君 | 源氏物語 | 紫式部 | | | |
| 俳句 | 俳句 | 松永貞徳 | | | |
| 俳句 | 俳句 | 西山宗因 | | | |
| 俳句 | 俳句 | 井原西鶴 | | | |
| 俳句 | 俳句 | 松尾芭蕉 | | | |
| 俳句 | 俳句 | 与謝蕪村 | | | |
| 俳句 | 俳句 | 小林一茶 | | | |
| 市中の巻 | 市中の巻 | 野沢凡兆 | | | |
| 市中の巻 | 市中の巻 | 松尾芭蕉 | | | |
| 市中の巻 | 市中の巻 | 向井去来 | | | |
| 隅田川 | 隅田川 | 観世十郎元雅 | | 男 | 女 |
| 道行 | 曾根崎心中 | 近松門左衛門 | 評論等 | 88% | 13% |
| 海幸山幸 | 古事記 | 太安万侶 | 小説等 | 67% | 33% |
| 大晦日は合はぬ算用 | 西鶴諸国ばなし | 井原西鶴 | 詩歌 | 88% | 12% |
| 浅茅が宿 | 雨月物語 | 上田秋成 | 計 | 82% | 18% |

| | |
|-----|------|
| 教科名 | 国語 |
| 科目名 | 古典探究 |

※「教科書番号」欄にある◆は、「学習者用デジタル教科書」（学校教育法第34条第2項に規定する教材）の発行予定があることを示す。

| | |
|--|--|
| 発行者(略称) | 大修館 |
| 教科書番号 | 古探707◆ |
| 教科書名 | 古典探究 漢文編 |
| (1) 内容 | |
| a 単元など内容や時間のまとまりを通して、その中で育む資質・能力の育成(各教科共通) | |
| 【言葉の特徴や使い方に関する事項】 | <ul style="list-style-type: none"> ・「故事・逸話」という単元が設けられ、故事成語について理解を深められるよう工夫されている。 |
| 【読むこと】 | <ul style="list-style-type: none"> ・思想、史伝、古体詩、近体詩などが取り上げられ、文章の種類を踏まえて、構成や展開、内容を的確に捉えたり、解釈したりできるよう教材が設定されている。 ・「読み比べ」「視点」として、単元の教材と関連する他の日本の作品が掲載されている。 ・「漢文の窓」というコラムが掲載され、古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から読み深めることができるよう工夫されている。 ・各教材末に「学習のポイント」が設けられ、教材の種類や内容に応じて読みを深められるよう工夫されている。 |
| b 読書に関する指導 | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・「豆知識」というコラムが設けられ、単元に関連する書籍が紹介されている。 |
| 《その他の項目》(各教科共通) | |
| 我が国の伝統や文化、国土や歴史に対する理解、他国の多様な文化の尊重に関する特徴や工夫 | <ul style="list-style-type: none"> ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深められるよう教材が設定されている。 ・「日本の漢詩文」「長恨歌と日本の文学」という単元が設定されている。 ・「漢文の窓」として、「漢文と日本人」「日本における『史記』の受容」に関するコラムが掲載されている。 ・巻頭及び巻末に中国の古典の世界の人々の生活に関する理解を促す図版が掲載されている。 |
| 人権課題(同和問題、北朝鮮による拉致問題等)に関する特徴や工夫 | 記載なし |
| 安全・防災や自然災害の扱い | 記載なし |
| オリンピック・パラリンピックに関する特徴や工夫 | 記載なし |
| 固定的な性別役割分担意識に関する記述等 | 記載なし |
| (2) 構成上の工夫 | |
| デジタルコンテンツの扱い | <ul style="list-style-type: none"> ・教材に関連する動画や音声、画像、課題に、二次元コードを読み込んでアクセスできるよう工夫されている。 |
| ユニバーサルデザインの視点 | 記載なし |

| 文学的文章 | | | 評論等 | | |
|-----------------|----------|--------|------------|------|------|
| 教材名 | 作品名 | 作者名等 | 教材名 | 作品名 | 作者名等 |
| 知音 | 呂氏春秋 | 呂不韋 | 賢哉回也 | 論語 | 未詳 |
| 画竜点睛 | 歴代名画記 | 張彦遠 | 聞斯行諸 | 論語 | 未詳 |
| 両頭蛇 | 蒙求 | 李瀚 | 行不由徑 | 論語 | 未詳 |
| 漱石枕流 | 世説新語 | 劉義慶 | 不忍人之心 | 孟子 | 孟子 |
| 糟糠之妻 | 後漢書 | 范曄 | 人之性惡 | 荀子 | 荀子 |
| 塞翁馬 | 淮南子 | 劉安 | 性猶湍水也 | 孟子 | 孟子 |
| 竹里館 | 唐詩選 | 王維 | 何必日利 | 孟子 | 孟子 |
| 六月二十七日望湖樓醉書 | 蘇文忠公全集 | 蘇軾 | 大道廢、有仁義 | 老子 | 老子 |
| 磧中作 | 唐詩選 | 岑參 | 小国寡民 | 老子 | 老子 |
| 峨眉山月歌 | 唐詩選 | 李白 | 曳尾於塗中 | 莊子 | 莊子 |
| 早發白帝城 | 唐詩選 | 李白 | 侵官之害 | 韓非子 | 韓非子 |
| 登岳陽樓 | 唐詩選 | 杜甫 | 処知則難 | 韓非子 | 韓非子 |
| 勸酒 | 唐詩選 | 于武陵 | 所争在弓箭 | 日本外史 | 頼山陽 |
| 贈別 | 唐詩三百首 | 杜牧 | 暴虎馮河 | 論語 | 未詳 |
| 秋浦歌 | 唐詩選 | 李白 | 暴虎馮河 | 完訳論語 | 井波律子 |
| 咸陽城東樓 | 三体詩 | 許渾 | 過猶不及 | 論語 | 未詳 |
| 哭晁卿衡 | 李太白集 | 李白 | 子路問君子 | 論語 | 未詳 |
| 阿倍仲麻呂の歌 | 土佐日記 | 紀貫之 | 兵者、不祥之器 | 老子 | 老子 |
| 遊山西村 | 劔南詩稿 | 陸游 | 兼相愛 | 墨子 | 墨子 |
| 項羽と劉邦 | 史記 | 司馬遷 | 母之愛子也 | 韓非子 | 韓非子 |
| 鴻門の会 | 史記 | 司馬遷 | 夢為蝴蝶 | 莊子 | 莊子 |
| 項王の最期 | 史記 | 司馬遷 | 無之以為用 | 老子 | 老子 |
| 英雄の器 | 芥川龍之介全集 | 芥川龍之介 | 梨花一枝 | 枕草子 | 清少納言 |
| 桃花源記 | 陶淵明集 | 陶潜 | 楊貴妃がことを詠める | 俊頼髓脳 | 源俊頼 |
| 捕蛇者説 | 唐宋八家文読本 | 柳宗元 | | | |
| 不出門 | 菅家後集 | 菅原道真 | | | |
| 冬夜読書 | 黄葉夕陽村舎詩集 | 菅茶山 | | | |
| 桂林荘雜詠 | 遠思樓詩鈔 | 広瀬淡窓 | | | |
| 将東遊題壁 | 清狂吟稿 | 月性 | | | |
| 題白画 | 漱石詩集 | 夏目漱石 | | | |
| 題不識庵擊機山図 | 山陽詩鈔 | 頼山陽 | | | |
| 定伯売鬼 | 搜神記 | 干宝 | | | |
| 天台二女 | 幽明録 | 劉義慶 | | | |
| 定婚店 | 続玄怪録 | 李復言 | | | |
| 水魚の交はり | 十八史略 | 曾先之 | | | |
| 死せる諸葛 生ける仲連を走らす | 十八史略 | 曾先之 | | | |
| 桃夭 | 詩経 | 未詳 | | | |
| 行行重行行 | 文選 | 蕭統 | | | |
| 飲酒 | 陶淵明集 | 陶潜 | | | |
| 子夜呉歌 | 唐詩選 | 李白 | | | |
| 石壕吏 | 杜工部集 | 杜甫 | | | |
| 売炭翁 | 白氏文集 | 白居易 | | | |
| 廉頗・藺相如 | 史記 | 司馬遷 | | | |
| 呂不韋 | 史記 | 司馬遷 | | | |
| 荆軻 | 史記 | 司馬遷 | | | |
| 師説 | 唐宋八家文読本 | 韓愈 | | | |
| 春夜宴桃李園序 | 古文真宝後集 | 李白 | | | |
| 長恨歌 | 白氏文集 | 白居易 | 評論等 | 80% | 20% |
| 翼をならべ、枝をかさはむ | 源氏物語 | 紫式部 | 小説等 | 89% | 11% |
| 七月七日 | 更級日記 | 菅原孝標の女 | 詩歌 | 100% | 0% |
| 人虎伝 | 唐人説薈 | 李景亮 | 計 | 91% | 9% |

| | |
|-----|------|
| 教科名 | 国語 |
| 科目名 | 古典探究 |

※「教科書番号」欄にある◆は、「学習者用デジタル教科書」（学校教育法第34条第2項に規定する教材）の発行予定があることを示す。

| | |
|--|--|
| 発行者(略称) | 大修館 |
| 教科書番号 | 古探708◆ |
| 教科書名 | 精選 古典探究 |
| (1) 内容 | |
| a 単元など内容や時間のまとまりを通して、その中で育む資質・能力の育成(各教科共通) | |
| 【言葉の特徴や使い方に関する事項】 | <ul style="list-style-type: none"> ・「故事・逸話」という単元が設けられ、故事成語について理解を深められるよう工夫されている。 ・各教材末の「学習のポイント」に「語句」が設けられ、古典に用いられている語句の意味や用法、文語のきまりなどについての理解を深められるよう工夫されている。 |
| 【読むこと】 | <ul style="list-style-type: none"> ・説話、随筆、作り物語、和歌、日記、軍記物語、歌物語、歴史物語、歌論、俳諧、古典芸能などが取り上げられ、文章の種類を踏まえて、構成や展開、内容を的確に捉えたり、解釈したりできるような教材が設定されている。 ・「読み比べ」「視点」として、単元の教材と関連する他の作品が掲載されている。 ・「古文の窓」「漢文の窓」というコラムが掲載され、古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から読み深めることができるよう工夫されている。 ・各教材末に「学習のポイント」が設けられ、教材の種類や内容に応じて読みを深められるよう工夫されている。 |
| b 読書に関する指導 | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・「豆知識」というコラムが設けられ、単元に関連する書籍が紹介されている。 |
| 《その他の項目》(各教科共通) | |
| 我が国の伝統や文化、国土や歴史に対する理解、他国の多様な文化の尊重に関する特徴や工夫 | <ul style="list-style-type: none"> ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深められるよう教材が設定されている。 ・「日本の漢詩」「長恨歌と日本の文学」という単元が設定されている。 ・「漢文の窓」として、「漢文と日本人」「日本における『史記』の受容」に関するコラムが掲載されている。 ・「視点」として、「日本の桜・中国の桃」という文章が掲載されている。 ・巻頭及び巻末に日本や中国の古典の世界の人々の生活に関する理解を促す図版が掲載されている。 |
| 人権課題(同和問題、北朝鮮による拉致問題等)に関する特徴や工夫 | 記載なし |
| 安全・防災や自然災害の扱い | <ul style="list-style-type: none"> ・「方丈記」の「安元の大火」が掲載されている。 |
| オリンピック・パラリンピックに関する特徴や工夫 | 記載なし |
| 固定的な性別役割分担意識に関する記述等 | <ul style="list-style-type: none"> ・「枕草子」の「すさまじきもの」で「博士のうち続き女子生まれたる。」という記述が見られる。 ・「源氏物語」で「父の大納言は亡くなりて、母北の方なむ、いにしへの人のよしあるにて、親うち具し、さしあたりて世のおぼえはなやかなる御方々にもいたう劣らず、何事の儀式をももてなしたまひけれど、とりたてて、はかばかしき後見しなければ、事ある時は、なほよりどころなく心細げなり。」という記述が見られる。 |
| (2) 構成上の工夫 | |
| デジタルコンテンツの扱い | <ul style="list-style-type: none"> ・教材に関連する動画や音声、画像、課題に、二次元コードを読み込んでアクセスできるよう工夫されている。 |
| ユニバーサルデザインの視点 | 記載なし |

| 文学的文章 | | | 評論等 | | |
|--------------------|--------|----------|------------------|-------------|--------|
| 教材名 | 作品名 | 作者名等 | 教材名 | 作品名 | 作者名等 |
| 検非違使忠明のこと | 宇治拾遺物語 | 未詳 | 生野（土山宿） | 風と双眼鏡、膝掛け毛布 | 梨木香歩 |
| 大江山いくのの道 | 十訓抄 | 六波羅二臈左衛門 | 家居のつきづきしく | 徒然草 | 兼好法師 |
| 生野 | 東海道名所記 | 浅井了意 | 今日はそのことをなさんと思へど | 徒然草 | 兼好法師 |
| 安倍晴明 | 今昔物語集 | 未詳 | 花は盛りに | 徒然草 | 兼好法師 |
| 陰陽師 | 陰陽師 | 夢枕獯 | 兼好法師が詞のあげつらひ | 玉勝間 | 本居宣長 |
| 初冠 | 伊勢物語 | 未詳 | 行く河の流れ | 方丈記 | 鴨長明 |
| 月やあらぬ | 伊勢物語 | 未詳 | 安元の大火 | 方丈記 | 鴨長明 |
| つひにゆく道 | 伊勢物語 | 未詳 | すさまじきもの | 枕草子 | 清少納言 |
| をばすて | 大和物語 | 未詳 | 宮に初めて参りたるころ | 枕草子 | 清少納言 |
| 光源氏の誕生 | 源氏物語 | 紫式部 | 中納言参りたまひて | 枕草子 | 清少納言 |
| 藤壺の入内 | 源氏物語 | 紫式部 | 日記と日本人 | 日記と日本人 | 林望 |
| 若紫との出会い | 源氏物語 | 紫式部 | 仮名序 | 古今和歌集 | 紀貫之 |
| 羽根 | 土佐日記 | 紀貫之 | 六歌仙の歌 | 古今和歌集 | 紀貫之 |
| 門出 | 更級日記 | 菅原孝標の女 | おもて歌 | 無名抄 | 鴨長明 |
| 源氏の五十余巻 | 更級日記 | 菅原孝標の女 | 幽玄—想像された美 | いきと風流 | 尼ヶ崎彬 |
| 駿河路 | 十六夜日記 | 阿仏尼 | うれしきもの | 枕草子 | 清少納言 |
| 道真左遷 | 大鏡 | 未詳 | 二月つごもりごろに | 枕草子 | 清少納言 |
| 競べ弓 | 大鏡 | 未詳 | 頭の弁の、職に参りたまひて | 枕草子 | 清少納言 |
| 花山院の出家 | 大鏡 | 未詳 | この草子、目に見え心に思ふことを | 枕草子 | 清少納言 |
| 忠度都落ち | 平家物語 | 未詳 | 紫式部のこと | 無名草子 | 未詳 |
| 能登殿最期 | 平家物語 | 未詳 | 不易と変化 | 三冊子 | 服部土芳 |
| 万葉集 | 万葉集 | 額田王 | 因果の花 | 風姿花伝 | 世阿弥 |
| 万葉集 | 万葉集 | 大海人皇子 | 虚実皮膜の論 | 難波土産 | 三木平右衛門 |
| 万葉集 | 万葉集 | 山上憶良 | 賢哉回也 | 論語 | 未詳 |
| 万葉集 | 万葉集 | 大伴旅人 | 最愛の弟子 | 完訳論語 | 井波律子 |
| 万葉集 | 万葉集 | 穂積親王 | 聞斯行諸 | 論語 | 未詳 |
| 万葉集 | 万葉集 | 柿本人麻呂 | 行不由径 | 論語 | 未詳 |
| 万葉集 | 万葉集 | 大伴家持 | 不忍人之心 | 孟子 | 孟子 |
| 万葉集 | 万葉集 | 玉造部広目 | 人之性悪 | 荀子 | 荀子 |
| 撰者の歌 | 古今和歌集 | 紀貫之 | 性猶湍水也 | 孟子 | 孟子 |
| 撰者の歌 | 古今和歌集 | 壬生忠峯 | 大道廢、有仁義 | 老子 | 老子 |
| 撰者の歌 | 古今和歌集 | 凡河内躬恒 | 小国寡民 | 老子 | 老子 |
| 撰者の歌 | 古今和歌集 | 紀友則 | 曳尾於塗中 | 莊子 | 莊子 |
| 新古今和歌集 | 新古今和歌集 | 藤原定家 | 侵官之害 | 韓非子 | 韓非子 |
| 新古今和歌集 | 新古今和歌集 | 式子内親王 | 悲しき響き 擣衣 | 漢詩の流儀 | 松原朗 |
| 新古今和歌集 | 新古今和歌集 | 藤原俊成 | 暴虎馮河 | 論語 | 未詳 |
| 新古今和歌集 | 新古今和歌集 | 藤原家隆 | 暴虎馮河 | 完訳論語 | 井波律子 |
| 新古今和歌集 | 新古今和歌集 | 西行法師 | 過猶不及 | 論語 | 未詳 |
| 梁塵秘抄 | 梁塵秘抄 | 後白河法皇 | 兵者、不祥之器 | 老子 | 老子 |
| 閑吟集 | 閑吟集 | 未詳 | 兼相愛 | 墨子 | 墨子 |
| 源義家、衣川にて安倍貞任と連歌のこと | 古今著聞集 | 橘成季 | 母之愛子也 | 韓非子 | 韓非子 |
| 馬盗人 | 今昔物語集 | 未詳 | 夢為蝴蝶 | 莊子 | 莊子 |
| 虫めづる姫君 | 堤中納言物語 | 未詳 | 梨花一枝 | 枕草子 | 清少納言 |
| 肝だめし | 大鏡 | 未詳 | | | |
| 鶯宿梅 | 大鏡 | 未詳 | | | |
| 町の小路の女 | 蜻蛉日記 | 藤原道綱の母 | | | |
| 薫る香に | 和泉式部日記 | 和泉式部 | | | |
| 和泉式部と清少納言 | 紫式部日記 | 紫式部 | | | |
| 葵の上と物の怪 | 源氏物語 | 紫式部 | | | |

| 文学的文章 | | | 評論等 | | |
|-----------------|---------|--------|-----|-----|------|
| 教材名 | 作品名 | 作者名等 | 教材名 | 作品名 | 作者名等 |
| 須磨の秋 | 源氏物語 | 紫式部 | | | |
| 女三の宮と柏木 | 源氏物語 | 紫式部 | | | |
| 紫の上の死 | 源氏物語 | 紫式部 | | | |
| 薫と宇治の姫君 | 源氏物語 | 紫式部 | | | |
| 俳句 | 俳句 | 松永貞徳 | | | |
| 俳句 | 俳句 | 西山宗因 | | | |
| 俳句 | 俳句 | 井原西鶴 | | | |
| 俳句 | 俳句 | 松尾芭蕉 | | | |
| 俳句 | 俳句 | 与謝蕪村 | | | |
| 俳句 | 俳句 | 小林一茶 | | | |
| 市中の巻 | 俳句 | 野沢凡兆 | | | |
| 市中の巻 | 俳句 | 松尾芭蕉 | | | |
| 市中の巻 | 俳句 | 向井去来 | | | |
| 隅田川 | 隅田川 | 観世十郎元雅 | | | |
| 道行 | 曾根崎心中 | 近松門左衛門 | | | |
| 大晦日は合はぬ算用 | 西鶴諸国ばなし | 井原西鶴 | | | |
| 浅茅が宿 | 雨月物語 | 上田秋成 | | | |
| 知音 | 呂氏春秋 | 呂不韋 | | | |
| 画竜点睛 | 歴代名画記 | 張彦遠 | | | |
| 両頭蛇 | 蒙求 | 李瀚 | | | |
| 漱石枕流 | 世説新語 | 劉義慶 | | | |
| 糟糠之妻 | 後漢書 | 范曄 | | | |
| 塞翁馬 | 淮南子 | 劉安 | | | |
| 竹里館 | 唐詩選 | 王維 | | | |
| 六月二十七日望湖樓醉書 | 蘇文忠公全集 | 蘇軾 | | | |
| 磧中作 | 唐詩選 | 岑参 | | | |
| 峨眉山月歌 | 唐詩選 | 李白 | | | |
| 早発白帝城 | 唐詩選 | 李白 | | | |
| 登岳陽樓 | 唐詩選 | 杜甫 | | | |
| 勸酒 | 唐詩選 | 于武陵 | | | |
| 贈別 | 唐詩三百首 | 杜牧 | | | |
| 咸陽城東樓 | 三体詩 | 許渾 | | | |
| 哭晁卿衡 | 李太白集 | 李白 | | | |
| 阿倍仲麻呂の歌 | 土佐日記 | 紀貫之 | | | |
| 鴻門の会 | 史記 | 司馬遷 | | | |
| 項王の最期 | 史記 | 司馬遷 | | | |
| 英雄の器 | 芥川龍之介全集 | 芥川龍之介 | | | |
| 桃花源記 | 陶淵明集 | 陶潜 | | | |
| 捕蛇者説 | 唐宋八家文読本 | 柳宗元 | | | |
| 不出門 | 菅家後集 | 菅原道真 | | | |
| 桂林莊雜詠 | 遠思樓詩鈔 | 広瀬淡窓 | | | |
| 将東遊題壁 | 清狂吟稿 | 月性 | | | |
| 題自画 | 漱石詩集 | 夏目漱石 | | | |
| 定伯売鬼 | 搜神記 | 干宝 | | | |
| 定婚店 | 続玄怪録 | 李復言 | | | |
| 水魚の交はり | 十八史略 | 曾先之 | | | |
| 死せる諸葛 生ける仲連を走らす | 十八史略 | 曾先之 | | | |
| 桃夭 | 詩経 | 未詳 | | | |
| 行行重行行 | 文選 | 蕭統 | | | |
| 飲酒 | 陶淵明集 | 陶潜 | | | |

| 文学的文章 | | | 評論等 | | |
|--------------|---------|--------|-----|-----|------|
| 教材名 | 作品名 | 作者名等 | 教材名 | 作品名 | 作者名等 |
| 子夜呉歌 | 唐詩選 | 李白 | | | |
| 石壕吏 | 杜工部集 | 杜甫 | | | |
| 廉頗・藺相如 | 史記 | 司馬遷 | | | |
| 荊軻 | 史記 | 司馬遷 | | | |
| 師説 | 唐宋八家文読本 | 韓愈 | | | |
| 春夜宴桃李園序 | 古文真宝後集 | 李白 | | | |
| 長恨歌 | 白氏文集 | 白居易 | 評論等 | 84% | 16% |
| 翼をならべ、枝をかさはむ | 源氏物語 | 紫式部 | 小説等 | 83% | 17% |
| 七月七日 | 更級日記 | 菅原孝標の女 | 詩歌 | 95% | 5% |
| 人虎伝 | 唐人説書 | 李景亮 | 計 | 89% | 11% |

| | |
|-----|------|
| 教科名 | 国語 |
| 科目名 | 古典探究 |

※「教科書番号」欄にある◆は、「学習者用デジタル教科書」（学校教育法第34条第2項に規定する教材）の発行予定があることを示す。

| | |
|--|--|
| 発行者(略称) | 数研 |
| 教科書番号 | 古探709◆ |
| 教科書名 | 古典探究 古文編 |
| (1) 内容 | |
| a 単元など内容や時間のまとまりを通して、その中で育む資質・能力の育成(各教科共通) | |
| 【言葉の特徴や使い方に関する事項】 | <ul style="list-style-type: none"> ・「ズームアップ」という13編のコラムが掲載されており、その中で、説話、物語、随筆、和歌、連歌、日記などが取り上げられている。 ・「古文チェックポイント」が設けられ、文語のきまりや敬語について、理解を深められるよう工夫されている。 ・各教材末に「ことばと表現」が設けられ、古典に用いられている語句の意味や用法、文語のきまり、表現の技法などについての理解を深められるよう工夫されている。 |
| 【読むこと】 | <ul style="list-style-type: none"> ・説話、随筆、作り物語、和歌、日記、軍記物語、歌物語、歴史物語、歌論、俳諧、古典芸能などが取り上げられ、文章の種類を踏まえて、構成や展開、内容を的確に捉えたり、解釈したりできるよう教材が設定されている。 ・「探究の扉」として、単元の教材と関連する他の作品が掲載されている。 ・「ズームアップ」というコラムが掲載され、古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から読み深めることができるよう工夫されている。 ・各教材末に「学習」「言語活動」が設けられ、教材の種類や内容に応じて読みを深められるよう工夫されている。 |
| b 読書に関する指導 | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・「ズームアップ」の「随筆文学」というコラムの中で、関連する書籍が紹介されている。 |
| 《その他の項目》(各教科共通) | |
| 我が国の伝統や文化、国土や歴史に対する理解、他国の多様な文化の尊重に関する特徴や工夫 | <ul style="list-style-type: none"> ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深められるよう教材が設定されている。 ・巻頭及び巻末に古典の世界の人々の生活に関する理解を促す図版が掲載されている。 |
| 人権課題(同和問題、北朝鮮による拉致問題等)に関する特徴や工夫 | 記載なし |
| 安全・防災や自然災害の扱い | <ul style="list-style-type: none"> ・「方丈記」の「養和の飢饉」が掲載されている。 |
| オリンピック・パラリンピックに関する特徴や工夫 | 記載なし |
| 固定的な性別役割分担意識に関する記述等 | <ul style="list-style-type: none"> ・「枕草子」の「すさまじきもの」で「博士のうち続き女兒生ませたる。」という記述が見られる。 ・「源氏物語」で「父の大納言は亡くなりて、母北の方なむいにしへの人のよしあるにて、親うち具し、さしあたりて世のおぼえ華やかなる御方々にもいたう劣らず、何事の儀式をもてなし給ひけれど、とりたててはかばかしき後見しなければ、事あるときは、なほよりどころなく心細げなり。」という記述が見られる。 |
| (2) 構成上の工夫 | |
| デジタルコンテンツの扱い | <ul style="list-style-type: none"> ・教材に関連する音声や課題に、二次元コードを読み込んでアクセスできるよう工夫されている。 |
| ユニバーサルデザインの視点 | <ul style="list-style-type: none"> ・カラーユニバーサルデザインに配慮している。 |

| 文学的文章 | | | 評論等 | | |
|---------|-----------|----------|--------------|----------|------|
| 教材名 | 作品名 | 作者名等 | 教材名 | 作品名 | 作者名等 |
| 大江山 | 十訓抄 | 未詳 | 春はあけぼの | 枕草子 | 清少納言 |
| 兼盛と忠見 | 沙石集 | 無住 | すさまじきもの | 枕草子 | 清少納言 |
| 用枝の筆篋 | 古今著聞集 | 橘成季 | 御前にて人々とも | 枕草子 | 清少納言 |
| 初冠 | 伊勢物語 | 未詳 | 大納言殿参り給ひて | 枕草子 | 清少納言 |
| 通ひ路の関守 | 伊勢物語 | 未詳 | ゆく河の流れ | 方丈記 | 鴨長明 |
| 渚の院 | 伊勢物語 | 未詳 | 養和の飢饉 | 方丈記 | 鴨長明 |
| をばすて山 | 大和物語 | 未詳 | 閑居の気味 | 方丈記 | 鴨長明 |
| 鳥飼の院 | 大和物語 | 未詳 | あだし野の露 | 徒然草 | 兼好法師 |
| 東路の道の果て | 更級日記 | 菅原孝標女 | 九月二十日のころ | 徒然草 | 兼好法師 |
| 物語 | 更級日記 | 菅原孝標女 | 花は盛りに | 徒然草 | 兼好法師 |
| 光源氏誕生 | 源氏物語 | 紫式部 | 兼好法師が詞のあげつらひ | 玉勝間 | 本居宣長 |
| 藤壺の入内 | 源氏物語 | 紫式部 | やまと歌は | 古今和歌集仮名序 | 紀貫之 |
| 小柴垣のもと | 源氏物語 | 紫式部 | 六歌仙 | 古今和歌集仮名序 | 紀貫之 |
| 雲林院の菩提講 | 大鏡 | 未詳 | 二月つごもりごろに | 枕草子 | 清少納言 |
| 花山天皇の出家 | 大鏡 | 未詳 | 清少納言がこと | 古本説話集 | 未詳 |
| 三船の才 | 大鏡 | 未詳 | 鳥の空音 | 枕草子 | 清少納言 |
| 道長の豪胆 | 大鏡 | 未詳 | 宮に初めて参りたるころ | 枕草子 | 清少納言 |
| 南院の競射 | 大鏡 | 未詳 | 清少納言と紫式部 | 無名草子 | 未詳 |
| 忠度の都落ち | 平家物語 | 未詳 | 文 | 無名草子 | 未詳 |
| 壇ノ浦 | 平家物語 | 未詳 | 俊成自讃歌のこと | 無名抄 | 鴨長明 |
| なべて世の | 建礼門院右京大夫集 | 建礼門院右京大夫 | 独り雨聞く秋の夜すがら | 正徹物語 | 正徹 |
| 大原まうで | 建礼門院右京大夫集 | 建礼門院右京大夫 | もののはれを知る | 石上私淑言 | 本居宣長 |
| 和歌・歌謡 | 万葉集 | 柿本人麻呂 | 行く春を | 去来抄 | 向井去来 |
| 和歌・歌謡 | 万葉集 | 未詳 | 岩鼻や | 去来抄 | 向井去来 |
| 和歌・歌謡 | 万葉集 | 大伴旅人 | 秘すれば花 | 風姿花伝 | 世阿弥 |
| 和歌・歌謡 | 万葉集 | 大伴家持 | 師の説になづまざるごと | 玉勝間 | 本居宣長 |
| 和歌・歌謡 | 古今集 | 凡河内躬恒 | 花 | 花月草子 | 松平定信 |
| 和歌・歌謡 | 古今集 | 紀貫之 | | | |
| 和歌・歌謡 | 拾遺集 | 藤原公任 | | | |
| 和歌・歌謡 | 後拾遺集 | 和泉式部 | | | |
| 和歌・歌謡 | 新古今集 | 藤原俊成 | | | |
| 和歌・歌謡 | 新古今集 | 藤原定家 | | | |
| 和歌・歌謡 | 新古今集 | 西行 | | | |
| 和歌・歌謡 | 遠島御百首 | 後鳥羽院 | | | |
| 和歌・歌謡 | 金槐和歌集 | 源実朝 | | | |
| 和歌・歌謡 | 玉葉集 | 京極為兼 | | | |
| 和歌・歌謡 | 草根集 | 正徹 | | | |
| 和歌・歌謡 | 良寛歌集 | 良寛 | | | |
| 和歌・歌謡 | 桂園一枝 | 香川景樹 | | | |
| 和歌・歌謡 | 志濃夫廼舎歌集 | 橘曙覧 | | | |
| 和歌・歌謡 | 梁塵秘抄 | 未詳 | | | |
| 和歌・歌謡 | 閑吟集 | 未詳 | | | |
| 江戸俳諧・発句 | 山の井 | 松永貞徳 | | | |
| 江戸俳諧・発句 | 梅翁宗因発句集 | 西山宗因 | | | |
| 江戸俳諧・発句 | 三ヶ津 | 井原西鶴 | | | |
| 江戸俳諧・発句 | 今宮草 | 小西来山 | | | |
| 江戸俳諧・発句 | 大悟物狂 | 上島鬼貫 | | | |
| 江戸俳諧・発句 | 其便 | 松尾芭蕉 | | | |
| 江戸俳諧・発句 | 炭俵 | 松尾芭蕉 | | | |

| 文学的文章 | | | 評論等 | | |
|---------|--------|-------|-----|-----|------|
| 教材名 | 作品名 | 作者名等 | 教材名 | 作品名 | 作者名等 |
| 江戸俳諧・発句 | 猿蓑 | 宝井其角 | | | |
| 江戸俳諧・発句 | 玄峰集 | 服部嵐雪 | | | |
| 江戸俳諧・発句 | 去来発句集 | 向井去来 | | | |
| 江戸俳諧・発句 | 猿蓑 | 野沢凡兆 | | | |
| 江戸俳諧・発句 | 蕪村句集 | 与謝蕪村 | | | |
| 江戸俳諧・発句 | 七番日記 | 小林一茶 | | | |
| 江戸俳諧・発句 | おらが春 | 小林一茶 | | | |
| 父の離京 | 蜻蛉日記 | 藤原道綱母 | | | |
| うつろひたる菊 | 蜻蛉日記 | 藤原道綱母 | | | |
| 鷹 | 蜻蛉日記 | 藤原道綱母 | | | |
| 土御門邸の秋 | 紫式部日記 | 紫式部 | | | |
| 水鳥の足 | 紫式部日記 | 紫式部 | | | |
| 同僚女房評 | 紫式部日記 | 紫式部 | | | |
| 薫る香に | 和泉式部日記 | 和泉式部 | | | |
| 鎌倉への出立 | 十六夜日記 | 阿仏尼 | | | |
| 車争ひ | 源氏物語 | 紫式部 | | | |
| 須磨 | 源氏物語 | 紫式部 | | | |
| 明石の姫君入内 | 源氏物語 | 紫式部 | | | |
| 紫の上の苦惱 | 源氏物語 | 紫式部 | | | |
| 柏木と女三の宮 | 源氏物語 | 紫式部 | | | |
| 紫の上の死 | 源氏物語 | 紫式部 | | | |
| 浮舟 | 源氏物語 | 紫式部 | | | |
| 継母の策謀 | 住吉物語 | 未詳 | | | |
| 貫之と躬恒 | 大鏡 | 未詳 | | | |
| 道真と時平 | 大鏡 | 未詳 | | | |
| 村上天皇と安子 | 大鏡 | 未詳 | | | |
| 最後の除目 | 大鏡 | 未詳 | | | |
| 兼通と兼家 | 栄花物語 | 赤染衛門 | | | |
| 菅原道真 | 古今著聞集 | 橘成季 | | | |
| 王昭君 | 唐物語 | 藤原成範 | | 男 | 女 |
| 王昭君 | 西京雜記 | 葛洪 | 評論等 | 89% | 11% |
| 本歌取り | 近代秀歌 | 藤原定家 | 小説等 | 54% | 46% |
| 世界の借屋大将 | 日本永代蔵 | 井原西鶴 | 詩歌 | 93% | 7% |
| 浅茅が宿 | 雨月物語 | 上田秋成 | 計 | 83% | 17% |

| | |
|-----|------|
| 教科名 | 国語 |
| 科目名 | 古典探究 |

※「教科書番号」欄にある◆は、「学習者用デジタル教科書」（学校教育法第34条第2項に規定する教材）の発行予定があることを示す。

| | |
|--|--|
| 発行者(略称) | 数研 |
| 教科書番号 | 古探710◆ |
| 教科書名 | 古典探究 漢文編 |
| (1) 内容 | |
| a 単元など内容や時間のまとまりを通して、その中で育む資質・能力の育成(各教科共通) | |
| 【言葉の特徴や使い方に関する事項】 | <ul style="list-style-type: none"> ・「故事」という単元が設けられ、故事成語について理解を深められるよう工夫されている。 ・「ズームアップ」という10編のコラムが掲載されており、その中で、漢詩、逸話、小説などが取り上げられている。 ・「漢文チェックポイント」が設けられ、訓読のきまりについて、理解を深められるよう工夫されている。 ・各教材末に「ことばと表現」が設けられ、古典に用いられている語句の意味や用法、表現の技法などについての理解を深められるよう工夫されている。 |
| 【読むこと】 | <ul style="list-style-type: none"> ・思想、史伝、古体詩、近体詩などが取り上げられ、文章の種類を踏まえて、構成や展開、内容を的確に捉えたり、解釈したりできるよう教材が設定されている。 ・「探究の扉」として、単元の教材と関連する他の作品が掲載されている。 ・「ズームアップ」というコラムが掲載され、古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から読み深めることができるよう工夫されている。 ・各教材末に「学習」「言語活動」が設けられ、教材の種類や内容に応じて読みを深められるよう工夫されている。 |
| b 読書に関する指導 | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・「ズームアップ」の「漢詩を作ってみよう」というコラムの中で、関連する書籍が紹介されている。 |
| 《その他の項目》(各教科共通) | |
| 我が国の伝統や文化、国土や歴史に対する理解、他国の多様な文化の尊重に関する特徴や工夫 | <ul style="list-style-type: none"> ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深められるよう教材が設定されている。 ・「漢詩」の単元で「日本の詩」を掲載している。 ・「ズームアップ」として「訓読の歴史」を掲載している。 ・「探究の扉」として「義訓と振り仮名」、「日本外史」と「史記」の比べ読み、「古今和歌集」の真名序、夏目漱石「草枕」、正岡子規「杜甫石壕吏」の比較が設定されている。 ・巻頭及び巻末に中国の古典の世界の人々の生活に関する理解を促す図版が掲載されている。 |
| 人権課題(同和問題、北朝鮮による拉致問題等)に関する特徴や工夫 | 記載なし |
| 安全・防災や自然災害の扱い | 記載なし |
| オリンピック・パラリンピックに関する特徴や工夫 | 記載なし |
| 固定的な性別役割分担意識に関する記述等 | 記載なし |
| (2) 構成上の工夫 | |
| デジタルコンテンツの扱い | <ul style="list-style-type: none"> ・教材に関連する音声や課題に、二次元コードを読み込んでアクセスできるよう工夫されている。 |
| ユニバーサルデザインの視点 | <ul style="list-style-type: none"> ・カラーユニバーサルデザインに配慮している。 |

| 文学的文章 | | | 評論等 | | |
|---------|-----------|------|-----------|-----------|------|
| 教材名 | 作品名 | 作者名等 | 教材名 | 作品名 | 作者名等 |
| 漱石枕流 | 世説新語 | 劉義慶 | 買履忘度 | 韓非子 | 韓非 |
| 華歆・王朗 | 世説新語 | 劉義慶 | 道德齊礼 | 論語 | 未詳 |
| 画竜点睛 | 歴代名画記 | 張彦遠 | 長沮・桀溺 | 論語 | 未詳 |
| 江南橋為江北枳 | 説苑 | 劉向 | 不忍人之心 | 孟子 | 孟子 |
| 絶句 | 鹿柴 | 王維 | 性善 | 孟子 | 孟子 |
| 絶句 | 勸酒 | 于武陵 | 性悪 | 荀子 | 荀子 |
| 絶句 | 尋胡隱君 | 高啓 | 無為之治 | 老子 | 老子 |
| 絶句 | 山中対酌 | 李白 | 無用之用 | 老子 | 老子 |
| 絶句 | 磧中作 | 岑参 | 小国寡民 | 老子 | 老子 |
| 絶句 | 江南春 | 杜牧 | 曳尾於塗中 | 莊子 | 莊子 |
| 絶句 | 澄邁驛通潮閣 | 蘇軾 | 夢為胡蝶 | 莊子 | 莊子 |
| 絶句 | 雨中登岳陽楼望君山 | 黄庭堅 | 木鷄 | 莊子 | 莊子 |
| 律詩 | 旅夜書懷 | 杜甫 | 侵官之害 | 韓非子 | 韓非 |
| 律詩 | 黄鶴楼 | 崔顥 | 未来に備える遺伝子 | ゲノムが語る生命像 | 本庶佑 |
| 律詩 | 寄李儋元錫 | 韋応物 | 漢文と日本文学 | 枕草子 | 清少納言 |
| 日本の詩 | 梅花 | 菅原道真 | | | |
| 日本の詩 | 題野古島僧房壁 | 絶海中津 | | | |
| 日本の詩 | 題不識庵擊機山図 | 頼山陽 | | | |
| 日本の詩 | 題自画 | 夏目漱石 | | | |
| 鴻門之会 | 史記 | 司馬遷 | | | |
| 四面楚歌 | 史記 | 司馬遷 | | | |
| 項王自刎 | 史記 | 司馬遷 | | | |
| 漁父辞 | 楚辞 | 屈原 | | | |
| 桃花源記 | 陶淵明集 | 陶淵明 | | | |
| 売油翁 | 帰田録 | 欧陽脩 | | | |
| 知音 | 呂氏春秋 | 呂不韋 | | | |
| 梁上君子 | 後漢書 | 未詳 | | | |
| 三横 | 世説新語 | 劉義慶 | | | |
| 売鬼 | 搜神記 | 干宝 | | | |
| 人面桃花 | 本事詩 | 孟棻 | | | |
| 酒虫 | 聊齋志異 | 蒲松齡 | | | |
| 落雷裁判 | 閱微草堂筆記 | 紀昀 | | | |
| 伯夷・叔斉 | 史記 | 司馬遷 | | | |
| 廉頗・藺相如 | 史記 | 司馬遷 | | | |
| 荊軻 | 史記 | 司馬遷 | | | |
| 川中島 | 日本外史 | 頼山陽 | | | |
| 捕蛇者説 | 柳河東集 | 柳宗元 | | | |
| 師説 | 韓昌黎集 | 韓愈 | | | |
| 詩経大序 | 詩経 | 未詳 | | | |
| 桃夭 | 詩経 | 未詳 | | | |
| 飲酒 | 陶淵明集 | 陶淵明 | | | |
| 石壕吏 | 杜工部集 | 杜甫 | | 男 | 女 |
| 長恨歌 | 白氏文集 | 白居易 | 評論等 | 86% | 14% |
| 漢文と日本文学 | 古今和歌集真名序 | 紀淑望 | 小説等 | 100% | 0% |
| 漢文と日本文学 | 草枕 | 夏目漱石 | 詩歌 | 100% | 0% |
| 漢文と日本文学 | 杜甫石壕吏 | 正岡子規 | 計 | 98% | 2% |

| | |
|-----|------|
| 教科名 | 国語 |
| 科目名 | 古典探究 |

※「教科書番号」欄にある◆は、「学習者用デジタル教科書」（学校教育法第34条第2項に規定する教材）の発行予定があることを示す。

| | |
|--|--|
| 発行者(略称) | 数研 |
| 教科書番号 | 古探711◆ |
| 教科書名 | 高等学校 古典探究 |
| (1) 内容 | |
| a 単元など内容や時間のまとまりを通して、その中で育む資質・能力の育成(各教科共通) | |
| 【言葉の特徴や使い方に関する事項】 | <ul style="list-style-type: none"> ・漢文では「故事」という単元が設けられ、故事成語について理解を深められるよう工夫されている。 ・「ズームアップ」という23編のコラムが掲載されており、その中で、古文の説話、物語、随筆、和歌、連歌、日記などが、漢文の漢詩、逸話、小説などが取り上げられている。 ・古文には「古文チェックポイント」が、漢文には「漢文チェックポイント」設けられ、文語のきまりや敬語、訓読のきまりなどについて、理解を深められるよう工夫されている。 ・各教材末に「ことばと表現」が設けられ、古典に用いられている語句の意味や用法、文語のきまり、表現の技法などについての理解を深められるよう工夫されている。 |
| 【読むこと】 | <ul style="list-style-type: none"> ・古文では説話、随筆、作り物語、和歌、日記、軍記物語、歌物語、歴史物語、歌論、俳諧、古典芸能などが、漢文では思想、史伝、古体詩、近体詩などが取り上げられ、文章の種類を踏まえて、構成や展開、内容を的確に捉えたり、解釈したりできるような教材が設定されている。 ・「探究の扉」として、単元の教材と関連する他の作品が掲載されている。 ・「ズームアップ」というコラムが掲載され、古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から読み深めることができるよう工夫されている。 ・各教材末に「学習」「言語活動」が設けられ、教材の種類や内容に応じて読みを深められるよう工夫されている。 |
| b 読書に関する指導 | <ul style="list-style-type: none"> ・「ズームアップ」の「随筆文学」「漢詩を作ってみよう」というコラムの中で、関連する書籍が紹介されている。 |
| 《その他の項目》(各教科共通) | |
| 我が国の伝統や文化、国土や歴史に対する理解、他国の多様な文化の尊重に関する特徴や工夫 | <ul style="list-style-type: none"> ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深められるよう教材が設定されている。 ・「漢詩」の単元で「日本の詩」を掲載している。 ・「ズームアップ」として「訓読の歴史」を掲載している。 ・「探究の扉」として「義訓と振り仮名」、「日本外史」と「史記」の比べ読み、「古今和歌集」の真名序、夏目漱石「草枕」、正岡子規「杜甫石壕吏」の比較が設定されている。 ・巻頭及び巻末に古典の世界の人々の生活に関する理解を促す図版が掲載されている。 |
| 人権課題(同和問題、北朝鮮による拉致問題等)に関する特徴や工夫 | 記載なし |
| 安全・防災や自然災害の扱い | <ul style="list-style-type: none"> ・「方丈記」の「養和の飢饉」が掲載されている。 |
| オリンピック・パラリンピックに関する特徴や工夫 | 記載なし |
| 固定的な性別役割分担意識に関する記述等 | <ul style="list-style-type: none"> ・「枕草子」の「すさまじきもので「博士のうち続き女兒生ませたる。」という記述が見られる。 ・「源氏物語」で「父の大納言は亡くなりて、母北の方なむいにしへの人のよしあるにて、親うち具し、さしあたりて世のおぼえ華やかなる御方々にもいたう劣らず、何事の儀式をもてなし給ひけれど、とりたててはかばかしき後見しなければ、事あるときは、なほよりどころなく心細げなり。」という記述が見られる。 ・「女房たちの宮仕え」で「また、后妃への宿直奉仕や後宮を訪れる男性貴族たちの接待といった場面では気の利いた会話を交わすことが要求され、何より社交性が必要だったに違いない。」という記述が見られる。 |
| (2) 構成上の工夫 | |
| デジタルコンテンツの扱い | <ul style="list-style-type: none"> ・教材に関連する音声や課題に、二次元コードを読み込んでアクセスできるよう工夫されている。 |
| ユニバーサルデザインの視点 | <ul style="list-style-type: none"> ・カラーユニバーサルデザインに配慮している。 |

| 文学的文章 | | | 評論等 | | |
|---------|-----------|----------|--------------|-----------|------|
| 教材名 | 作品名 | 作者名等 | 教材名 | 作品名 | 作者名等 |
| 大江山 | 十訓抄 | 未詳 | 春はあけぼの | 枕草子 | 清少納言 |
| 兼盛と忠見 | 沙石集 | 無住 | すさまじきもの | 枕草子 | 清少納言 |
| 用枝の筆篋 | 古今著聞集 | 橘成季 | 御前にて人々とも | 枕草子 | 清少納言 |
| 初冠 | 伊勢物語 | 未詳 | 大納言殿参り給ひて | 枕草子 | 清少納言 |
| 通ひ路の関守 | 伊勢物語 | 未詳 | ゆく河の流れ | 方丈記 | 鴨長明 |
| 渚の院 | 伊勢物語 | 未詳 | 養和の飢饉 | 方丈記 | 鴨長明 |
| をばすて山 | 大和物語 | 未詳 | 閑居の気味 | 方丈記 | 鴨長明 |
| 鳥飼の院 | 大和物語 | 未詳 | あだし野の露 | 徒然草 | 兼好法師 |
| 東路の道の果て | 更級日記 | 菅原孝標女 | 九月二十日のころ | 徒然草 | 兼好法師 |
| 物語 | 更級日記 | 菅原孝標女 | 花は盛りに | 徒然草 | 兼好法師 |
| 光源氏誕生 | 源氏物語 | 紫式部 | 兼好法師が詞のあげつらひ | 玉勝間 | 本居宣長 |
| 藤壺の入内 | 源氏物語 | 紫式部 | やまと歌は | 古今和歌集仮名序 | 紀貫之 |
| 小柴垣のもと | 源氏物語 | 紫式部 | 六歌仙 | 古今和歌集仮名序 | 紀貫之 |
| 雲林院の菩提講 | 大鏡 | 未詳 | 二月つごもりごろに | 枕草子 | 清少納言 |
| 花山天皇の出家 | 大鏡 | 未詳 | 鳥の空音 | 枕草子 | 清少納言 |
| 三船の才 | 大鏡 | 未詳 | 宮に初めて参りたるころ | 枕草子 | 清少納言 |
| 道長の豪胆 | 大鏡 | 未詳 | 清少納言と紫式部 | 無名草子 | 未詳 |
| 南院の競射 | 大鏡 | 未詳 | 文 | 無名草子 | 未詳 |
| 忠度の都落ち | 平家物語 | 未詳 | 本歌取り | 近代秀歌 | 藤原定家 |
| 壇ノ浦 | 平家物語 | 未詳 | 俊成自讃歌のこと | 無名抄 | 鴨長明 |
| なべて世の | 建礼門院右京大夫集 | 建礼門院右京大夫 | 独り雨聞か秋の夜すがら | 正徹物語 | 正徹 |
| 大原まうで | 建礼門院右京大夫集 | 建礼門院右京大夫 | もののはれを知る | 石上私淑言 | 本居宣長 |
| 和歌・歌謡 | 万葉集 | 柿本人麻呂 | 行く春を | 去来抄 | 向井去来 |
| 和歌・歌謡 | 万葉集 | 大伴旅人 | 岩鼻や | 去来抄 | 向井去来 |
| 和歌・歌謡 | 万葉集 | 大伴家持 | 秘すれば花 | 風姿花伝 | 世阿弥 |
| 和歌・歌謡 | 古今和歌集 | 凡河内躬恒 | 師の説になづまざること | 玉勝間 | 本居宣長 |
| 和歌・歌謡 | 古今和歌集 | 紀貫之 | 花 | 花月草紙 | 松平定信 |
| 和歌・歌謡 | 拾遺集 | 藤原公任 | 買履忘度 | 韓非子 | 韓非 |
| 和歌・歌謡 | 後拾遺集 | 和泉式部 | 道德斉礼 | 論語 | 未詳 |
| 和歌・歌謡 | 新古今和歌集 | 藤原俊成 | 長沮・桀溺 | 論語 | 未詳 |
| 和歌・歌謡 | 新古今和歌集 | 藤原定家 | 不忍人之心 | 孟子 | 孟子 |
| 和歌・歌謡 | 新古今和歌集 | 西行 | 性善 | 孟子 | 孟子 |
| 和歌・歌謡 | 遠島御百首 | 後鳥羽院 | 性悪 | 荀子 | 荀子 |
| 和歌・歌謡 | 金槐和歌集 | 源実朝 | 無為之治 | 老子 | 老子 |
| 和歌・歌謡 | 玉葉集 | 京極為兼 | 無用之用 | 老子 | 老子 |
| 和歌・歌謡 | 草根集 | 正徹 | 小国寡民 | 老子 | 老子 |
| 和歌・歌謡 | 良寛歌集 | 良寛 | 曳尾於塗中 | 莊子 | 莊子 |
| 和歌・歌謡 | 桂園一枝 | 香川景樹 | 夢為胡蝶 | 莊子 | 莊子 |
| 和歌・歌謡 | 志濃夫廻舎歌集 | 橘曙覧 | 木鷄 | 莊子 | 莊子 |
| 江戸俳諧・発句 | 山の井 | 松永貞徳 | 侵官之害 | 韓非子 | 韓非 |
| 江戸俳諧・発句 | 梅翁宗因発句集 | 西山宗因 | 未来に備える遺伝子 | ゲノムが語る生命像 | 本庶佑 |
| 江戸俳諧・発句 | 三ヶ津 | 井原西鶴 | | | |
| 江戸俳諧・発句 | 今宮草 | 小西来山 | | | |
| 江戸俳諧・発句 | 大悟物狂 | 上島鬼貫 | | | |
| 江戸俳諧・発句 | 其便 | 松尾芭蕉 | | | |
| 江戸俳諧・発句 | 炭俵 | 松尾芭蕉 | | | |
| 江戸俳諧・発句 | 猿蓑 | 宝井其角 | | | |
| 江戸俳諧・発句 | 玄峰集 | 服部暴雪 | | | |
| 江戸俳諧・発句 | 去来発句集 | 向井去来 | | | |

| 文学的文章 | | | 評論等 | | |
|---------|-----------|-------|-----|-----|------|
| 教材名 | 作品名 | 作者名等 | 教材名 | 作品名 | 作者名等 |
| 江戸俳諧・発句 | 猿蓑 | 野沢凡兆 | | | |
| 江戸俳諧・発句 | 蕪村句集 | 与謝蕪村 | | | |
| 江戸俳諧・発句 | 蕪村句集 | 与謝蕪村 | | | |
| 江戸俳諧・発句 | 七番日記 | 小林一茶 | | | |
| 江戸俳諧・発句 | おらが春 | 小林一茶 | | | |
| 清少納言がこと | 古今説話集 | 未詳 | | | |
| 父の離京 | 蜻蛉日記 | 藤原道綱母 | | | |
| うつろひたる菊 | 蜻蛉日記 | 藤原道綱母 | | | |
| 鷹 | 蜻蛉日記 | 藤原道綱母 | | | |
| 土御門邸の秋 | 紫式部日記 | 紫式部 | | | |
| 水鳥の足 | 紫式部日記 | 紫式部 | | | |
| 同僚女房評 | 紫式部日記 | 紫式部 | | | |
| 薫る香に | 和泉式部日記 | 和泉式部 | | | |
| 鎌倉への出立 | 十六夜日記 | 阿仏尼 | | | |
| 車争ひ | 源氏物語 | 紫式部 | | | |
| 須磨 | 源氏物語 | 紫式部 | | | |
| 明石の姫君入内 | 源氏物語 | 紫式部 | | | |
| 紫の上の苦惱 | 源氏物語 | 紫式部 | | | |
| 柏木と女三の宮 | 源氏物語 | 紫式部 | | | |
| 紫の上の死 | 源氏物語 | 紫式部 | | | |
| 浮舟 | 源氏物語 | 紫式部 | | | |
| 継母の策謀 | 住吉物語 | 未詳 | | | |
| 貫之と躬恒 | 大鏡 | 未詳 | | | |
| 道真と時平 | 大鏡 | 未詳 | | | |
| 村上天皇と安子 | 大鏡 | 未詳 | | | |
| 最後の除目 | 大鏡 | 未詳 | | | |
| 兼通と兼家 | 栄花物語 | 赤染衛門 | | | |
| 菅原道真 | 古今著聞集 | 橘成季 | | | |
| 王昭君 | 唐物語 | 藤原成範 | | | |
| 王昭君 | 西京雜記 | 葛洪 | | | |
| 世界の借屋大将 | 日本永代蔵 | 井原西鶴 | | | |
| 浅茅が宿 | 雨月物語 | 上田秋成 | | | |
| 漱石枕流 | 世説新語 | 劉義慶 | | | |
| 華歆・王朗 | 世説新語 | 劉義慶 | | | |
| 画竜点睛 | 歴代名画記 | 張彦遠 | | | |
| 江南橋為江北枳 | 説苑 | 劉向 | | | |
| 絶句 | 鹿柴 | 王維 | | | |
| 絶句 | 勸酒 | 于武陵 | | | |
| 絶句 | 尋胡隱君 | 高啓 | | | |
| 絶句 | 山中対酌 | 李白 | | | |
| 絶句 | 磻中作 | 岑参 | | | |
| 絶句 | 江南春 | 杜牧 | | | |
| 絶句 | 澄邁驛通潮閣 | 蘇軾 | | | |
| 絶句 | 雨中登岳陽樓望君山 | 黄庭堅 | | | |
| 律詩 | 旅夜書懷 | 杜甫 | | | |
| 律詩 | 黄鶴樓 | 崔顥 | | | |
| 律詩 | 寄李儋元錫 | 韋応物 | | | |
| 日本の詩 | 梅花 | 菅原道真 | | | |
| 日本の詩 | 題野古島僧房壁 | 絶海中津 | | | |
| 日本の詩 | 題不識庵擊機山図 | 頼山陽 | | | |

| 文学的文章 | | | 評論等 | | |
|--------|--------|------|-----|-----|------|
| 教材名 | 作品名 | 作者名等 | 教材名 | 作品名 | 作者名等 |
| 日本の詩 | 題自画 | 夏目漱石 | | | |
| 鴻門之会 | 史記 | 司馬遷 | | | |
| 四面楚歌 | 史記 | 司馬遷 | | | |
| 項王自刎 | 史記 | 司馬遷 | | | |
| 漁父辞 | 楚辞 | 屈原 | | | |
| 桃花源記 | 陶淵明集 | 陶淵明 | | | |
| 壳油翁 | 帰田録 | 欧陽脩 | | | |
| 知音 | 呂氏春秋 | 呂不韋 | | | |
| 梁上君子 | 後漢書 | 范曄 | | | |
| 三横 | 世説新語 | 劉義慶 | | | |
| 壳鬼 | 搜神記 | 于宝 | | | |
| 人面桃花 | 本事記 | 孟榮 | | | |
| 酒虫 | 聊齋志異 | 蒲松齡 | | | |
| 落雷裁判 | 閱微草堂筆記 | 紀昀 | | | |
| 伯夷・叔斉 | 史記 | 司馬遷 | | | |
| 廉頗・藺相如 | 史記 | 司馬遷 | | | |
| 荊軻 | 史記 | 司馬遷 | | | |
| 捕蛇者説 | 柳河東集 | 柳宗元 | | | |
| 師説 | 韓昌黎集 | 韓愈 | | | |
| 詩經大序 | 詩經 | 未詳 | | 男 | 女 |
| 桃夭 | 詩經 | 未詳 | 評論等 | 94% | 6% |
| 飲酒 | 陶淵明集 | 陶淵明 | 小説等 | 76% | 24% |
| 石壕吏 | 杜工部集 | 杜甫 | 詩歌 | 98% | 2% |
| 長恨歌 | 白氏文集 | 白居易 | 計 | 90% | 10% |

| | |
|-----|------|
| 教科名 | 国語 |
| 科目名 | 古典探究 |

※「教科書番号」欄にある◆は、「学習者用デジタル教科書」（学校教育法第34条第2項に規定する教材）の発行予定があることを示す。

| | |
|--|---|
| 発行者(略称) | 文英堂 |
| 教科書番号 | 古探712◆ |
| 教科書名 | 古典探究 |
| (1) 内容 | |
| a 単元など内容や時間のまとまりを通して、その中で育む資質・能力の育成(各教科共通) | |
| 【言葉の特徴や使い方に関する事項】 | <ul style="list-style-type: none"> ・漢文では「漢文に親しむ」という単元で動物寓話を取り上げられ、故事成語について理解を深められるよう工夫されている。 ・21編の「コラム」が設けられており、その中で、和歌や連歌・俳諧、物語、史書、評論、神話、寓話、漢詩などが取り上げられている。 ・「古文読解のために」「漢文読解のために」が設けられ、文語のきまりや敬語、訓読のきまりなどについて、理解を深められるよう工夫されている。 ・各教材末に「学習」が設けられ、古典に用いられている語句の意味や用法、文語のきまり、表現の技法などについての理解を深められるよう工夫されている。 |
| 【読むこと】 | <ul style="list-style-type: none"> ・古文では説話、随筆、作り物語、和歌、日記、軍記物語、歌物語、歴史物語、歌論、俳諧、古典芸能などが、漢文では思想、史伝、古体詩、近体詩などが取り上げられ、文章の種類を踏まえて、構成や展開、内容を的確に捉えたり、解釈したりできるような教材が設定されている。 ・「参考」として、単元の教材と関連する他の作品や同一作品の別の文章が掲載されている。 ・「コラム」「探究の扉」が掲載され、古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から読み深めることができるよう工夫されている。 ・「言語活動」が設けられ、学習したことを、表現活動につなげられるよう工夫されている。 ・各教材末に「学習」が設けられ、教材の種類や内容に応じて読みを深められるよう工夫されている。 |
| b 読書に関する指導 | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・各部末に「読書のすすめ」が設けられ、単元に関連する書籍が紹介されている。 |
| 《その他の項目》(各教科共通) | |
| 我が国の伝統や文化、国土や歴史に対する理解、他国の多様な文化の尊重に関する特徴や工夫 | <ul style="list-style-type: none"> ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深められるよう教材が設定されている。 ・「漢詩」の単元で日本の漢詩を掲載している。 ・「人虎伝」が掲載され、「山月記」と比較する学習が設定されている。 ・「畏饅頭」が掲載され、古典落語「饅頭こわい」と読み比べる学習が設定されている。 ・「長恨歌と平安文学」というコラムを掲載している。 ・巻頭及び巻末に古典の世界の人々の生活に関する理解を促す図版が掲載されている。 |
| 人権課題(同和問題、北朝鮮による拉致問題等)に関する特徴や工夫 | 記載なし |
| 安全・防災や自然災害の扱い | <ul style="list-style-type: none"> ・「方丈記」の「大地震」が掲載され、「ハザードマップを調べてみよう」という言語活動が設けられている。 |
| オリンピック・パラリンピックに関する特徴や工夫 | 記載なし |
| 固定的な性別役割分担意識に関する記述等 | <ul style="list-style-type: none"> ・「源氏物語」で「父の大納言は亡くなりて、母北の方なむ、いにしへの人のよしあるにて、親うち具し、さしあたりて世のおぼえはなやかなる御方々にもいたう劣らず、何事の儀式をももてなしたまひけれど、取り立てて、はかばかしき後見しなければ、事あるときは、なほより所なく心細げなり。」という記述が見られる。 |
| (2) 構成上の工夫 | |
| デジタルコンテンツの扱い | 記載なし |
| ユニバーサルデザインの視点 | 記載なし |

| 文学的文章 | | | 評論等 | | |
|------------|----------|--------|--------------|-----------|----------|
| 教材名 | 作品名 | 作者名等 | 教材名 | 作品名 | 作者名等 |
| 児の飴食ひたること | 沙石集 | 無住 | 世に語り伝ふること | 徒然草 | 兼好法師 |
| 猿沢の池の竜の事 | 宇治拾遺物語 | 未詳 | 大事を思ひたたん人は | 徒然草 | 兼好法師 |
| 竜 | 竜 | 芥川龍之介 | あだし野の露 | 徒然草 | 兼好法師 |
| 大江山 | 十訓抄 | 未詳 | 春の暮つかた | 徒然草 | 兼好法師 |
| 初冠 | 伊勢物語 | 未詳 | つれづれなるままに | 徒然草 | 兼好法師 |
| 梓弓 | 伊勢物語 | 未詳 | ゆく河の流れ | 方丈記 | 鴨長明 |
| 渚の院 | 伊勢物語 | 未詳 | 日野山の閑居 | 方丈記 | 鴨長明 |
| つひにゆく道 | 伊勢物語 | 未詳 | 移動の可能性と鴨長明 | 方丈記 | 蜂飼耳 |
| 姨捨 | 大和物語 | 未詳 | 大地震 | 方丈記 | 鴨長明 |
| 能 姨捨 | 能 姨捨 | 未詳 | なべて世のはかなきことを | 建礼門院右京大夫集 | 建礼門院右京大夫 |
| 阿倍仲麻呂 | 土佐日記 | 紀貫之 | 宮に初めて参りたるころ | 枕草子 | 清少納言 |
| あづま路の道の果て | 更級日記 | 菅原孝標女 | 中納言参りたまひて | 枕草子 | 清少納言 |
| 源氏の五十余巻 | 更級日記 | 菅原孝標女 | 村上先の帝の御時に | 枕草子 | 清少納言 |
| 桐壺 | 源氏物語 | 紫式部 | この草子 | 枕草子 | 清少納言 |
| 若紫 | 源氏物語 | 紫式部 | 発句選 | 奥の細道 | 松尾芭蕉 |
| 忠度の都落ち | 平家物語 | 未詳 | 最上川 | 奥の細道 | 松尾芭蕉 |
| 能登殿の最期 | 平家物語 | 未詳 | 行く春を | 去来抄 | 向井去来 |
| 祇園精舎 | 平家物語 | 未詳 | 岩鼻や | 去来抄 | 向井去来 |
| 和歌 春の歌十四首 | 新古今和歌集 | 後鳥羽院 | 不易流行 | 三冊子 | 服部土芳 |
| 和歌 春の歌十四首 | 風雅和歌集 | 京極為兼 | やまと歌は | 古今和歌集・仮名序 | 紀貫之 |
| 和歌 春の歌十四首 | 古今和歌集 | 伊勢 | 深草の里 | 無名抄 | 鴨長明 |
| 和歌 春の歌十四首 | 古今和歌集 | 凡河内躬恒 | 虚実皮膜の間 | 難波土産 | 穂積以貫 |
| 和歌 春の歌十四首 | 新古今和歌集 | 藤原定家 | 兼好法師が詞のあげつらひ | 玉勝間 | 本居宣長 |
| 和歌 春の歌十四首 | 古今和歌集 | 紀貫之 | 徒然草（第百三十七段） | 徒然草 | 兼好法師 |
| 和歌 春の歌十四首 | 金葉和歌集 | 源俊頼 | 論語 | 論語 | 未詳 |
| 和歌 春の歌十四首 | 拾遺和歌集 | 藤原公任 | 論語と算盤 | 論語と算盤 | 洪沢栄一 |
| 和歌 春の歌十四首 | 古今和歌集 | 紀友則 | 孟子 | 孟子 | 孟軻 |
| 和歌 春の歌十四首 | 新古今和歌集 | 藤原俊成 | 性悪 | 荀子 | 荀況 |
| 和歌 春の歌十四首 | 新古今和歌集 | 藤原俊成女 | 無為 | 老子 | 老聃 |
| 和歌 春の歌十四首 | 新古今和歌集 | 式子内親王 | 小国寡民 | 老子 | 老聃 |
| 和歌 春の歌十四首 | 古今和歌集 | 小野小町 | 無用之用 | 老子 | 老聃 |
| 和歌 春の歌十四首 | 山家集 | 西行 | 曳尾於塗中 | 莊子 | 莊周 |
| 歌故に命失ふ事 | 沙石集 | 無住 | 夢為胡蝶 | 莊子 | 莊周 |
| 天徳四年内裏歌合 | 天徳四年内裏歌合 | 未詳 | 渾沌 | 莊子 | 莊周 |
| 花の白川 | 今物語 | 藤原信実 | 科学者のこころ | 科学者のこころ | 湯川秀樹 |
| 秋夜／十五夜 | 和漢朗詠集 | 藤原公任 | 侵官之害 | 韓非子 | 韓非 |
| 歌謡 | 梁塵秘抄 | 後白河法皇 | 二人説 | 韓非子 | 韓非 |
| 歌謡 | 閑吟集 | 未詳 | | | |
| 浅茅が宿 | 雨月物語 | 上田秋成 | | | |
| 愛卿伝 | 剪灯新話 | 瞿佑 | | | |
| 徳兵衛お初 道行 | 曾根崎心中 | 近松門左衛門 | | | |
| 世界の借屋大将 | 日本永代蔵 | 井原西鶴 | | | |
| 夢を買ふ人の事 | 宇治拾遺物語 | 未詳 | | | |
| 清水寺御帳賜る女の事 | 宇治拾遺物語 | 未詳 | | | |
| 土御門殿の秋 | 紫式部日記 | 紫式部 | | | |
| 嘆きつつ | 蜻蛉日記 | 藤原道綱母 | | | |
| 薫る香に | 和泉式部日記 | 和泉式部 | | | |
| 雲林院の菩提講 | 大鏡 | 未詳 | | | |
| 道真の左遷 | 大鏡 | 未詳 | | | |

| 文学的文章 | | | 評論等 | | |
|--------------|----------|--------------|-----|-----|------|
| 教材名 | 作品名 | 作者名等 | 教材名 | 作品名 | 作者名等 |
| 花山院の出家 | 大鏡 | 未詳 | | | |
| 栄花物語 | 栄花物語 | 未詳 | | | |
| 南院の競射 | 大鏡 | 未詳 | | | |
| 葵 | 源氏物語 | 紫式部 | | | |
| 須磨 | 源氏物語 | 紫式部 | | | |
| 明石 | 源氏物語 | 紫式部 | | | |
| 御法 | 源氏物語 | 紫式部 | | | |
| 須佐之男命の大蛇退治 | 古事記 | 未詳 | | | |
| ヘラクレスのヒュドラ退治 | ギリシヤ神話 | アポロドーロス／高津春繁 | | | |
| 朝三暮四 | 列子 | 列禦寇 | | | |
| 漁父利 | 戦国策 | 劉向 | | | |
| 畏饅頭 | 笑府 | 馮夢竜 | | | |
| 饅頭こわい | 饅頭こわい | 未詳 | | | |
| 鴻門之会 | 史記 | 司馬遷 | | | |
| 四面楚歌 | 史記 | 司馬遷 | | | |
| 項羽の最期 | 史記 | 司馬遷 | | | |
| 鹿柴 | 唐詩選 | 王維 | | | |
| 楓橋夜泊 | 唐詩選 | 張継 | | | |
| 望廬山瀑布 | 李太白集 | 李白 | | | |
| 九月十三夜 | 日本外史 | 上杉謙信 | | | |
| 涼州詞 | 唐詩選 | 王翰 | | | |
| 月夜 | 唐詩三百首 | 杜甫 | | | |
| 送友人 | 唐詩選 | 李白 | | | |
| 送夏日漱石之伊予 | 子規全集 | 正岡子規 | | | |
| 桃夭 | 詩經 | 未詳 | | | |
| 子夜呉歌 | 唐詩選 | 李白 | | | |
| 過故人荘 | 唐詩三百首 | 孟浩然 | | | |
| 登高 | 唐詩選 | 杜甫 | | | |
| 飲酒 | 陶淵明集 | 陶潜 | | | |
| 題老梅図 | 老梅図軸 | 長尾雨山 | | | |
| 漁父辞 | 楚辞 | 屈原 | | | |
| 捕蛇者説 | 唐宋八家文読本 | 柳宗元 | | | |
| 苛政猛於虎也 | 礼記 | 未詳 | | | |
| 画竜点睛 | 歴代名画記 | 張彦遠 | | | |
| 刻舟求劍 | 呂氏春秋、慎大覽 | 呂不韋 | | | |
| 先從隗始 | 十八史略 | 曾先之 | | | |
| 所争在弓箭不在米塩 | 日本外史 | 頼山陽 | | | |
| 水魚之交 | 十八史略 | 曾先之 | | | |
| 死諸葛走生仲達 | 十八史略 | 曾先之 | | | |
| 星落秋風五丈原 | 星落秋風五丈原 | 土井晩翠 | | | |
| 長恨歌 | 白氏文集 | 白居易 | | | |
| 源氏物語 | 源氏物語 | 紫式部 | | | |
| 婦去来辞 | 古文真宝〔後集〕 | 陶潜 | | 男 | 女 |
| 師説 | 唐宋八家文読本 | 韓愈 | 評論等 | 83% | 17% |
| 人虎伝 | 唐人説薈 | 李景亮 | 小説等 | 86% | 14% |
| 山月記 | 山月記 | 中島敦 | 詩歌 | 85% | 15% |
| 人が虎になる時 | 怪の漢文力 | 加藤徹 | 計 | 85% | 15% |

| | |
|-----|------|
| 教科名 | 国語 |
| 科目名 | 古典探究 |

※「教科書番号」欄にある◆は、「学習者用デジタル教科書」（学校教育法第34条第2項に規定する教材）の発行予定があることを示す。

| | |
|--|---|
| 発行者(略称) | 明治 |
| 教科書番号 | 古探713◆ |
| 教科書名 | 精選 古典探究 古文編 |
| (1) 内容 | |
| a 単元など内容や時間のまとまりを通して、その中で育む資質・能力の育成(各教科共通) | |
| 【言葉の特徴や使い方に関する事項】 | <ul style="list-style-type: none"> 各教材末に「言葉と表現」が設けられ、古典に用いられている語句の意味や用法、文語のきまり、表現の技法などについての理解を深められるよう工夫されている。 |
| 【読むこと】 | <ul style="list-style-type: none"> 説話、随筆、作り物語、和歌、日記、軍記物語、歌物語、歴史物語、歌論、俳諧、古典芸能などが取り上げられ、文章の種類を踏まえて、構成や展開、内容を的確に捉えたり、解釈したりできるような教材が設定されている。 「読み比べ」「参考」「古典についての評論文」として、関連する他の作品や同一作品の別の文章などが掲載されている。 「古文の窓」としてコラムが掲載され、古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から読み深めることができるよう工夫されている。 各教材末に「学習のポイント」「言語活動」が設けられ、教材の種類や内容に応じて読みを深められるよう工夫されている。 各単元末に「単元の言語活動」が設けられ、学習したことを、表現活動につなげられるよう工夫されている。 |
| b 読書に関する指導 | |
| | <ul style="list-style-type: none"> 巻末に「読書のすすめ」が設けられ、単元に関連する書籍が紹介されている。 |
| 《その他の項目》(各教科共通) | |
| 我が国の伝統や文化、国土や歴史に対する理解、他国の多様な文化の尊重に関する特徴や工夫 | <ul style="list-style-type: none"> 古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深められるよう教材が設定されている。 巻頭及び巻末に古典の世界の人々の生活に関する理解を促す図版が掲載されている。 |
| 人権課題(同和問題、北朝鮮による拉致問題等)に関する特徴や工夫 | 記載なし |
| 安全・防災や自然災害の扱い | <ul style="list-style-type: none"> 「方丈記」の「養和の飢饉」が掲載されている。 |
| オリンピック・パラリンピックに関する特徴や工夫 | 記載なし |
| 固定的な性別役割分担意識に関する記述等 | <ul style="list-style-type: none"> 「枕草子」の「すさまじきもの」で「博士のうち続き女児生ませたる。」という記述が見られる。 「源氏物語」「父の大納言は亡くなりて、母北の方なむ、いにしへの人のよしあるにて、親うち具し、さしあたりて世のおぼえはなやかなる御方々にもいたう劣らず、何事の儀式をももてなし給ひけれど、とりたててはかばかしき後見しなければ、事あるときは、なほよりどころなく心細げなり。」という記述が見られる。 |
| (2) 構成上の工夫 | |
| デジタルコンテンツの扱い | 記載なし |
| ユニバーサルデザインの視点 | 記載なし |

| 文学的文章 | | | 評論等 | | |
|---------|-----------|----------|----------------|-------------|------|
| 教材名 | 作品名 | 作者名等 | 教材名 | 作品名 | 作者名等 |
| 安養の尼の小袖 | 古今著聞集 | 橘成季 | 世に語り伝ふること | 徒然草 | 兼好 |
| 兼盛と忠見 | 沙石集 | 無住 | 能をつかんとする人 | 徒然草 | 兼好 |
| 伴大納言のこと | 宇治拾遺物語 | 未詳 | 世に從はん人は | 徒然草 | 兼好 |
| 初冠 | 伊勢物語 | 未詳 | これも仁和寺の法師 | 徒然草 | 兼好 |
| 狩りの使ひ | 伊勢物語 | 未詳 | 九月二十日のころ | 徒然草 | 兼好 |
| 小野の雪 | 伊勢物語 | 未詳 | あだし野の露消ゆるときなく | 徒然草 | 兼好 |
| つひに行く道 | 伊勢物語 | 未詳 | ゆく河の流れ | 方丈記 | 鴨長明 |
| 姨捨山の月 | 大和物語 | 未詳 | 養和の飢饉 | 方丈記 | 鴨長明 |
| 忠度の都落ち | 平家物語 | 未詳 | 日野山の閑居 | 方丈記 | 鴨長明 |
| 壇の浦 | 平家物語 | 未詳 | 『徒然草』をよみなおす | 『徒然草』をよみなおす | 小川剛生 |
| この世の外に | 建礼門院右京大夫集 | 建礼門院右京大夫 | うつくしきもの | 枕草子 | 清少納言 |
| 今や夢昔や夢 | 建礼門院右京大夫集 | 建礼門院右京大夫 | すさまじきもの | 枕草子 | 清少納言 |
| 光源氏誕生 | 源氏物語 | 紫式部 | 九月ばかり | 枕草子 | 清少納言 |
| 小柴垣のもと | 源氏物語 | 紫式部 | 中納言参り給ひて | 枕草子 | 清少納言 |
| 門出 | 更級日記 | 菅原孝標女 | 春はあけぼの | 枕草子 | 清少納言 |
| 源氏物語を読む | 更級日記 | 菅原孝標女 | 歌論 | 古今和歌集仮名序 | 紀貫之 |
| 雲林院の菩提講 | 大鏡 | 未詳 | 行く春を | 去来抄 | 向井去来 |
| 南院の競射 | 大鏡 | 未詳 | 虫は | 枕草子 | 清少納言 |
| 花山天皇の退位 | 大鏡 | 未詳 | 五月ばかりなどに山里にありく | 枕草子 | 清少納言 |
| 花山天皇の退位 | 栄花物語 | 未詳 | 野分のまたの日こそ | 枕草子 | 清少納言 |
| 和歌 | 万葉集 | 但馬皇女 | 雪のいと高う降りたるを | 枕草子 | 清少納言 |
| 和歌 | 万葉集 | 柿本人麻呂 | 二月つごもりごろに | 枕草子 | 清少納言 |
| 和歌 | 万葉集 | 山上憶良 | 頭の弁の、職に参り給ひて | 枕草子 | 清少納言 |
| 和歌 | 万葉集 | 大友旅人 | 沓冠折句の歌 | 俊頼髓脳 | 源俊頼 |
| 和歌 | 万葉集 | 大伴坂上郎女 | おもて歌のこと | 無名抄 | 鴨長明 |
| 和歌 | 万葉集 | 防人歌 | 此木戸や | 去来抄 | 向井去来 |
| 和歌 | 万葉集 | 大伴家持 | 不易流行 | 三冊子 | 服部土芳 |
| 和歌 | 古今和歌集 | 在原元方 | 言葉か、心か | 短歌を読む | 俵万智 |
| 和歌 | 古今和歌集 | 在原業平 | 六歳の夏のころ | 折たく柴の記 | 新井白石 |
| 和歌 | 古今和歌集 | 小野小町 | フルヘツヘンド | 蘭学事始 | 杉田玄白 |
| 和歌 | 古今和歌集 | よみ人知らず | 秘すれば花 | 風姿花伝 | 世阿弥 |
| 和歌 | 古今和歌集 | 清原深養父 | 虚実皮膜の間 | 難波みやげ | 穂積以貫 |
| 和歌 | 古今和歌集 | 紀貫之 | もののおはれの論 | 源氏物語玉の小櫛 | 本居宣長 |
| 和歌 | 古今和歌集 | 伊勢 | | | |
| 和歌 | 後撰和歌集 | 藤原兼輔 | | | |
| 和歌 | 後拾遺和歌集 | 能因 | | | |
| 和歌 | 後拾遺和歌集 | 和泉式部 | | | |
| 和歌 | 千載和歌集 | 待賢門院堀河 | | | |
| 和歌 | 千載和歌集 | 藤原俊成 | | | |
| 和歌 | 新古今和歌集 | 後鳥羽上皇 | | | |
| 和歌 | 新古今和歌集 | 藤原定家 | | | |
| 和歌 | 新古今和歌集 | 式子内親王 | | | |
| 和歌 | 新古今和歌集 | 寂蓮 | | | |
| 和歌 | 新古今和歌集 | 藤原良経 | | | |
| 和歌 | 新古今和歌集 | 西行 | | | |
| 和歌 | 新古今和歌集 | 俊成女 | | | |
| 和歌 | 金槐和歌集 | 源実朝 | | | |
| 和歌 | 賀茂翁家集 | 賀茂真淵 | | | |
| 和歌 | 布留散東 | 良寛 | | | |

| 文学的文章 | | | 評論等 | | |
|--------------|----------|-----------|-----|-----|------|
| 教材名 | 作品名 | 作者名等 | 教材名 | 作品名 | 作者名等 |
| 和歌 | 志濃夫廼舎集 | 橘曙覧 | | | |
| 狂歌 | 万載狂歌集 | 唐衣橘洲 | | | |
| 狂歌 | 狂歌才蔵集 | 宿屋飯盛 | | | |
| 歌謡 | 梁塵秘抄 | 後白河上皇 | | | |
| 歌謡 | 閑吟集 | 未詳 | | | |
| 歌謡 | 隆達小歌集 | 高三隆達 | | | |
| 歌謡 | 松の葉 | 秀松軒 | | | |
| 俳諧 | 俳諧 | 荒木田守武 | | | |
| 俳諧 | 俳諧 | 井原西鶴 | | | |
| 俳諧 | 俳諧 | 松尾芭蕉 | | | |
| 俳諧 | 俳諧 | 服部嵐雪 | | | |
| 俳諧 | 俳諧 | 上嶋鬼貫 | | | |
| 俳諧 | 俳諧 | 内藤文草 | | | |
| 俳諧 | 俳諧 | 与謝蕪村 | | | |
| 俳諧 | 俳諧 | 夏日成美 | | | |
| 俳諧 | 俳諧 | 小林一茶 | | | |
| 川柳 | 川柳 | 調柳 | | | |
| 川柳 | 川柳 | みます | | | |
| 蝸売りの八助 | 世間胸算用 | 井原西鶴 | | | |
| 浅茅が宿 | 雨月物語 | 上田秋成 | | | |
| 蜜柑 | 鹿の子餅 | 木室卯雲 | | | |
| 清明の術比べ | 宇治拾遺物語 | 未詳 | | | |
| 太田持資歌道に志すこと | 常山紀談 | 湯浅常山 | | | |
| 町の小路の女 | 蜻蛉日記 | 藤原道綱母 | | | |
| 鷹を放つ | 蜻蛉日記 | 藤原道綱母 | | | |
| 夢よりもはかなき世の中を | 和泉式部日記 | 和泉式部 | | | |
| 秋のけはひ | 紫式部日記 | 紫式部 | | | |
| 和泉式部・清少納言 | 紫式部日記 | 紫式部 | | | |
| 物の怪の出現 | 源氏物語 | 紫式部 | | | |
| 心づくしの秋風 | 源氏物語 | 紫式部 | | | |
| 三日がほど | 源氏物語 | 紫式部 | | | |
| 紫の上の死 | 源氏物語 | 紫式部 | | | |
| 浮舟 | 源氏物語 | 紫式部 | | | |
| 虫めづる姫君 | 堤中納言物語 | 未詳 | | | |
| 物の怪の出現 | 新新訳源氏物語 | 紫式部／与謝野晶子 | | | |
| 物の怪の出現 | 潤一郎訳源氏物語 | 紫式部／谷崎潤一郎 | | | |
| 物の怪の出現 | 窯変源氏物語 | 紫式部／橋本治 | | | |
| 物の怪の出現 | 源氏物語 | 紫式部／角田光代 | | | |
| 東海道往来 | 東海道往来 | 未詳 | | | |
| 道真の左遷 | 大鏡 | 未詳 | | | |
| 三船の才 | 大鏡 | 未詳 | | | |
| 肝試し | 大鏡 | 未詳 | | | |
| 鷺宿梅 | 大鏡 | 未詳 | | 男 | 女 |
| 新島守 | 増鏡 | 未詳 | 評論等 | 86% | 14% |
| 倭建命の望郷の歌 | 古事記 | 未詳 | 小説等 | 56% | 44% |
| 俊寛 | 俊寛 | 未詳 | 詩歌 | 81% | 19% |
| 鬼界が島の場合 | 平家女護島 | 近松門左衛門 | 計 | 77% | 23% |

| | |
|-----|------|
| 教科名 | 国語 |
| 科目名 | 古典探究 |

※「教科書番号」欄にある◆は、「学習者用デジタル教科書」（学校教育法第34条第2項に規定する教材）の発行予定があることを示す。

| | |
|--|---|
| 発行者(略称) | 明治 |
| 教科書番号 | 古探714◆ |
| 教科書名 | 精選 古典探究 漢文編 |
| (1) 内容 | |
| a 単元など内容や時間のまとまりを通して、その中で育む資質・能力の育成(各教科共通) | |
| 【言葉の特徴や使い方に関する事項】 | <ul style="list-style-type: none"> ・「故事・寓話」という単元が設けられ、故事成語について理解を深められるよう工夫されている。 ・「漢文の窓」という8編のコラムが掲載されており、その中で、漢詩、散文、歴史書、小説、諸子百家などが取り上げられている。 ・各教材末に「言葉と表現」が設けられ、古典に用いられている語句の意味や用法、訓読のきまり、表現の技法などについての理解を深められるよう工夫されている。 |
| 【読むこと】 | <ul style="list-style-type: none"> ・思想、史伝、古体詩、近体詩などが取り上げられ、文章の種類を踏まえて、構成や展開、内容を的確に捉えたり、解釈したりできるよう教材が設定されている。 ・「参考」「古典についての評論文」として、関連する他の作品や同一作品の別の文章などが掲載されている。 ・「漢文の窓」としてコラムが掲載され、古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から読み深めることができるよう工夫されている。 ・各教材末に「学習のポイント」「言語活動」が設けられ、教材の種類や内容に応じて読みを深められるよう工夫されている。 ・各単元末に「単元の言語活動」が設けられ、学習したことを、表現活動につなげられるよう工夫されている。 |
| b 読書に関する指導 | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・巻末に「読書のすすめ」が設けられ、単元に関連する書籍が紹介されている。 |
| 《その他の項目》(各教科共通) | |
| 我が国の伝統や文化、国土や歴史に対する理解、他国の多様な文化の尊重に関する特徴や工夫 | <ul style="list-style-type: none"> ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深められるよう教材が設定されている。 ・「日本人と漢詩文」「『長恨歌』と日本文学」という単元が設定されている。 ・「漢文の窓」として、「『十八史略』と日本人」「『白氏文集』と日本文学」というコラムが掲載されている。 ・巻頭及び巻末に中国の古典の世界の人々の生活に関する理解を促す図版が掲載されている。 |
| 人権課題(同和問題、北朝鮮による拉致問題等)に関する特徴や工夫 | 記載なし |
| 安全・防災や自然災害の扱い | 記載なし |
| オリンピック・パラリンピックに関する特徴や工夫 | 記載なし |
| 固定的な性別役割分担意識に関する記述等 | 記載なし |
| (2) 構成上の工夫 | |
| デジタルコンテンツの扱い | 記載なし |
| ユニバーサルデザインの視点 | 記載なし |

| 文学的文章 | | | 評論等 | | |
|-----------|---------------------|------|--------------|---------|----------------|
| 教材名 | 作品名 | 作者名等 | 教材名 | 作品名 | 作者名等 |
| 漱石枕流 | 世説新語 | 劉義慶 | 不死之薬 | 韓非子 | 韓非 |
| 推敲 | 唐詩紀事 | 計有功 | 五十歩百歩 | 孟子 | 孟軻 |
| 塞翁馬 | 淮南子 | 劉安 | 愛蓮説 | 古文真宝 | 周敦頤 |
| 画竜点睛 | 歴代名画記 | 張彦遠 | 『史記』の笑い | ことばと文学 | 田中謙二 |
| 杞憂 | 列子 | 列禦寇 | 正名 | 論語 | 未詳 |
| 三人成虎 | 戦国策 | 劉向 | 長沮・桀溺 | 論語 | 未詳 |
| 三年不飛不鳴 | 十八史略 | 曾先之 | 大道廢、有仁義/小国寡民 | 老子 | 老聃 |
| 燕雀安知鴻鵠之志哉 | 十八史略 | 曾先之 | 曳尾於塗中 | 莊子 | 莊周 |
| 背水之陣 | 十八史略 | 曾先之 | 性善 | 孟子 | 孟軻 |
| 水魚之交 | 十八史略 | 曾先之 | 性悪 | 荀子 | 荀況 |
| 赤壁之戦 | 十八史略 | 曾先之 | 上善若水 | 老子 | 老聃 |
| 詩 | 竹里館 | 王維 | 無用之用 | 老子 | 老聃 |
| 詩 | 登楽遊原 | 李商隱 | 夢為蝴蝶 | 莊子 | 莊周 |
| 詩 | 望廬山瀑布 | 李白 | 桓公読書於堂上 | 莊子 | 莊周 |
| 詩 | 碩中作 | 岑参 | 兼愛 | 墨子 | 墨子 |
| 詩 | 黄鶴楼 | 崔顥 | 侵官之害 | 韓非子 | 韓非 |
| 詩 | 旅夜書懷 | 杜甫 | 師説 | 古文真宝 | 韓愈 |
| 詩 | 番炉峰下、新下山居、草堂初成、偶題東壁 | 白居易 | 捕蛇者説 | 唐宋八家文読本 | 柳宗元 |
| 詩 | 春夜 | 蘇軾 | 正午牡丹 | 夢溪筆談 | 沈括 |
| 詩 | 凍蠅 | 楊万里 | 西湖 | 袁中郎全集 | 袁宏道 |
| 詩 | 遊山西村 | 陸游 | 筋篇 | 解体新書 | クルムス/前野良沢 杉田玄白 |
| 漁父辞 | 楚辞 | 屈原 | 木の花は | 枕草子 | 清少納言 |
| 桃花源記 | 陶淵明集 | 陶潜 | 本の中の世界『莊子』 | 本の中の世界 | 湯川秀樹 |
| 鴻門之会 | 史記 | 司馬遷 | | | |
| 四面楚歌 | 史記 | 司馬遷 | | | |
| 弟子 | 弟子 | 中島敦 | | | |
| 周式 | 搜神記 | 干宝 | | | |
| 枕中記 | 文苑英華 | 沈既濟 | | | |
| 人面桃花 | 本事詩 | 孟棨 | | | |
| 桃夭 | 詩經 | 未詳 | | | |
| 秋風辞 | 古文真宝 | 漢武帝 | | | |
| 行行重行行 | 文選 | 未詳 | | | |
| 飲酒 | 陶淵明集 | 陶潜 | | | |
| 代悲白頭翁 | 唐詩選 | 劉希夷 | | | |
| 月下独酌 | 唐詩三百首 | 李白 | | | |
| 兵車行 | 唐詩三百首 | 杜甫 | | | |
| 百戦不殆 | 孫子 | 孫武 | | | |
| 廉頗・藺相如 | 史記 | 司馬遷 | | | |
| 荆軻 | 史記 | 司馬遷 | | | |
| 天道是邪非邪 | 史記 | 司馬遷 | | | |
| 日本の漢詩文 | 読家書 | 菅原道真 | | | |
| 日本の漢詩文 | 九月十三夜 | 上杉謙信 | | | |
| 日本の漢詩文 | 夜下墨水 | 服部南郭 | | | |
| 日本の漢詩文 | 送夏目漱石之伊予 | 正岡子規 | | | |
| 日本の漢詩文 | 題自画 | 夏目漱石 | | | |
| 日本の漢詩文 | 無題 | 夏目漱石 | | | |
| 壇ノ浦 | 日本外史 | 頼山陽 | | | |
| 長恨歌 | 白氏文集 | 白居易 | | | |
| 桐壺 | 源氏物語 | 紫式部 | | | |
| 謡曲 楊貴妃 | 楊貴妃 | 金春禪竹 | | | |
| | | | | 男 | 女 |
| | | | 評論等 | 93% | 7% |
| | | | 小説等 | 94% | 6% |
| | | | 詩歌 | 100% | 0% |
| | | | 計 | 96% | 4% |

| | |
|-----|------|
| 教科名 | 国語 |
| 科目名 | 古典探究 |

※「教科書番号」欄にある◆は、「学習者用デジタル教科書」（学校教育法第34条第2項に規定する教材）の発行予定があることを示す。

| | |
|--|--|
| 発行者(略称) | 筑摩 |
| 教科書番号 | 古探715◆ |
| 教科書名 | 古典探究 古文編 |
| (1) 内容 | |
| a 単元など内容や時間のまとまりを通して、その中で育む資質・能力の育成(各教科共通) | |
| 【言葉の特徴や使い方に関する事項】 | <ul style="list-style-type: none"> ・説話、随筆、作り物語、和歌、日記、軍記物語、歌物語、歴史物語、歌論、俳諧、古典芸能などが取り上げられ、様々な古典作品の種類や特徴について理解が深められるよう教材が設けられている。 ・4編の「コラム」が掲載されており、その中で敬語、近世のことば、上代のことばが取り上げられている。 ・「まとめ」として、「古文の表現」という教材が掲載されている。 ・各教材末に「表現」が設けられ、古典に用いられている語句の意味や用法、文語のきまり、表現の技法などについての理解を深められるよう工夫されている。 |
| 【読むこと】 | <ul style="list-style-type: none"> ・説話、随筆、作り物語、和歌、日記、軍記物語、歌物語、歴史物語、歌論、俳諧、古典芸能などが取り上げられ、文章の種類を踏まえて、構成や展開、内容を的確に捉えたり、解釈したりできるよう教材が設定されている。 ・「平家物語」と「能」、「古事記」と「日本書紀」、それぞれを比較できる単元が設定されている。 ・各教材末に「理解」が設けられ、教材の種類や内容に応じて読みを深められるよう工夫されている。 |
| b 読書に関する指導 | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・「読書案内」が設けられ、単元に関連する書籍が紹介されている。 |
| 《その他の項目》(各教科共通) | |
| 我が国の伝統や文化、国土や歴史に対する理解、他国の多様な文化の尊重に関する特徴や工夫 | <ul style="list-style-type: none"> ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深められるよう教材が設定されている。 ・巻頭及び巻末に古典の世界の人々の生活に関する理解を促す図版が掲載されている。 |
| 人権課題(同和問題、北朝鮮による拉致問題等)に関する特徴や工夫 | 記載なし |
| 安全・防災や自然災害の扱い | <ul style="list-style-type: none"> ・「方丈記」の「安元の大火」「養和の飢饉」が掲載されている。 |
| オリンピック・パラリンピックに関する特徴や工夫 | 記載なし |
| 固定的な性別役割分担意識に関する記述等 | <ul style="list-style-type: none"> ・「枕草子」の「すさまじきもの」で「博士のうちつづき女子生ませたる。」という記述が見られる。 ・「源氏物語」で「父の大納言は亡くなりて、母北の方なむ、いにしへの人のよしあるにて、親うち具し、さしあたりて世のおぼえ華やかなる御方々にもいたう劣らず、何事の儀式をももてなしたまひけれど、とりたてて、はかばかしき後見しなければ、事ある時は、なほ抛りどころなく心細げなり。」という記述が見られる。 |
| (2) 構成上の工夫 | |
| デジタルコンテンツの扱い | <ul style="list-style-type: none"> ・古典作品の紹介や、作品に登場する楽器・寺社、教材に関連する学習・展示施設等に、二次元コードを読み込んでアクセスできるような工夫がされている。 |
| ユニバーサルデザインの視点 | <ul style="list-style-type: none"> ・読みやすさに配慮したユニバーサルデザインフォントを使用している。 |

| 文学的文章 | | | 評論等 | | |
|------------|--------|-------|----------------|-----------|----------|
| 教材名 | 作品名 | 作者名等 | 教材名 | 作品名 | 作者名等 |
| 袴垂、保昌にあふこと | 宇治拾遺物語 | 未詳 | 春は、あけぼの | 枕草子 | 清少納言 |
| 獵師、仏を射ること | 宇治拾遺物語 | 未詳 | 野分のまたの日こそ | 枕草子 | 清少納言 |
| 刑部卿敦兼の北の方 | 古今著聞集 | 橘成季 | 文ことばなめき人こそ | 枕草子 | 清少納言 |
| 初冠 | 伊勢物語 | 未詳 | 世の中になほいと心憂きものは | 枕草子 | 清少納言 |
| 月やあらぬ | 伊勢物語 | 未詳 | すさまじきもの | 枕草子 | 清少納言 |
| 行く蛭 | 伊勢物語 | 未詳 | 中納言参りたまひて | 枕草子 | 清少納言 |
| 狩りの使ひ | 伊勢物語 | 未詳 | 二月つごもりごろに | 枕草子 | 清少納言 |
| 渚の院 | 伊勢物語 | 未詳 | 大事を思ひ立たむ人は | 徒然草 | 兼好 |
| 小野の雪 | 伊勢物語 | 未詳 | 世に語り伝ふること | 徒然草 | 兼好 |
| とみの文 | 伊勢物語 | 未詳 | 筑紫に、なにがしの押領使など | 徒然草 | 兼好 |
| つひにゆく | 伊勢物語 | 未詳 | これも仁和寺の法師 | 徒然草 | 兼好 |
| 姨捨 | 大和物語 | 未詳 | 九月二十日のころ | 徒然草 | 兼好 |
| 鹿の声 | 大和物語 | 未詳 | 久しく隔たりて会ひたる人の | 徒然草 | 兼好 |
| 虫めづる姫君 | 堤中納言物語 | 未詳 | 安元の大火 | 方丈記 | 鴨長明 |
| 落窪の君 | 落窪物語 | 未詳 | 養和の飢饉 | 方丈記 | 鴨長明 |
| 光源氏の誕生 | 源氏物語 | 紫式部 | 二十四、五 | 風姿花伝 | 世阿弥 |
| 飽かぬ別れ | 源氏物語 | 紫式部 | 虚実皮膜の間 | 難波土産 | 穂積以貫 |
| 廃院の怪 | 源氏物語 | 紫式部 | 愛児さと | おらが春 | 小林一茶 |
| 若紫の君 | 源氏物語 | 紫式部 | 里にまかてたるに | 枕草子 | 清少納言 |
| 継母との別れ | 更級日記 | 菅原孝標女 | 上にさぶらふ御猫は | 枕草子 | 清少納言 |
| 源氏の五十余巻 | 更級日記 | 菅原孝標女 | 『源氏物語』の虚構 | 『源氏物語』の虚構 | 鈴木日出男 |
| 嘆きつつ | 蜻蛉日記 | 藤原道綱母 | なべて世の | 建礼門院右京大夫集 | 建礼門院右京大夫 |
| 道綱鷹を放つ | 蜻蛉日記 | 藤原道綱母 | やまとうたは | 古今和歌集仮名序 | 紀貫之 |
| 雲林院にて | 大鏡 | 未詳 | 六歌仙 | 古今和歌集仮名序 | 紀貫之 |
| 花山院の出家 | 大鏡 | 未詳 | 連歌 | 俊頼髓脳 | 源俊頼 |
| 公任、三船の誉れ | 大鏡 | 未詳 | おもて歌 | 無名抄 | 鴨長明 |
| 南の院の競射 | 大鏡 | 未詳 | 心と詞 | 毎月抄 | 藤原定家 |
| 忠度の都落ち | 平家物語 | 未詳 | 紫式部 | 無名草子 | 未詳 |
| 能登殿の最期 | 平家物語 | 未詳 | 千里に旅立ちて | 野ざらし紀行 | 松尾芭蕉 |
| 千早城の戦い | 太平記 | 未詳 | 行く春を | 去来抄 | 向井去来 |
| 忠度 | 謡曲 | 世阿弥 | 岩鼻や | 去来抄 | 向井去来 |
| 万葉の歌 | 万葉集 | 額田王 | 北寿老仙をいたむ | いそのはな | 与謝蕪村 |
| 万葉の歌 | 万葉集 | 柿本人麻呂 | 奈良団扇 | 鶉衣 | 横井也有 |
| 万葉の歌 | 万葉集 | 山上憶良 | 不易流行 | 三冊子 | 服部土芳 |
| 万葉の歌 | 万葉集 | 大伴旅人 | 師の説になづまざること | 玉勝間 | 本居宣長 |
| 万葉の歌 | 万葉集 | 山部赤人 | もののあはれ論 | 源氏物語玉の小櫛 | 本居宣長 |
| 万葉の歌 | 万葉集 | 藤原広嗣 | | | |
| 万葉の歌 | 万葉集 | 大伴家持 | | | |
| 万葉の歌 | 万葉集 | 未詳 | | | |
| 万葉の歌 | 万葉集 | 未詳 | | | |
| 王朝の歌 | 古今和歌集 | 紀貫之 | | | |
| 王朝の歌 | 古今和歌集 | 紀友則 | | | |
| 王朝の歌 | 古今和歌集 | 素性 | | | |
| 王朝の歌 | 古今和歌集 | 坂上是則 | | | |
| 王朝の歌 | 古今和歌集 | 在原業平 | | | |
| 王朝の歌 | 古今和歌集 | 伊勢 | | | |
| 王朝の歌 | 古今和歌集 | 小野小町 | | | |
| 王朝の歌 | 古今和歌集 | 小野篁 | | | |
| 王朝の歌 | 古今和歌集 | 藤原敏行 | | | |

| 文学的文章 | | | 評論等 | | |
|--------------|---------|-----------|-----|-----|------|
| 教材名 | 作品名 | 作者名等 | 教材名 | 作品名 | 作者名等 |
| 王朝の歌 | 古今和歌集 | 上野岑雄 | | | |
| 王朝の歌 | 古今和歌集 | 在原行平 | | | |
| 王朝の歌 | 後拾遺和歌集 | 能因 | | | |
| 王朝の歌 | 後拾遺和歌集 | 藤原実方 | | | |
| 王朝の歌 | 後拾遺和歌集 | 和泉式部 | | | |
| 王朝の歌 | 後拾遺和歌集 | 和泉式部 | | | |
| 王朝の歌 | 梁塵秘抄 | 後白河法皇 | | | |
| 中世の歌 | 千載和歌集 | 皇嘉門院別当 | | | |
| 中世の歌 | 新古今和歌集 | 後鳥羽院 | | | |
| 中世の歌 | 新古今和歌集 | 藤原俊成 | | | |
| 中世の歌 | 新古今和歌集 | 式子内親王 | | | |
| 中世の歌 | 新古今和歌集 | 寂蓮 | | | |
| 中世の歌 | 新古今和歌集 | 西行 | | | |
| 中世の歌 | 新古今和歌集 | 藤原定家 | | | |
| 中世の歌 | 新古今和歌集 | 藤原俊成女 | | | |
| 中世の歌 | 新古今和歌集 | 藤原良経 | | | |
| 中世の歌 | 金槐和歌集 | 源実朝 | | | |
| 中世の歌 | 閑吟集 | 未詳 | | | |
| 中世の歌 | 閑吟集 | 未詳 | | | |
| 近世の句 | 近世の句 | 松尾芭蕉 | | | |
| 近世の句 | 近世の句 | 与謝蕪村 | | | |
| 近世の句 | 近世の句 | 小林一茶 | | | |
| 鷺にさらわれた赤子 | 今昔物語集 | 未詳 | | | |
| 加賀茂の祭りを見物する翁 | 今昔物語集 | 未詳 | | | |
| 車争ひ | 源氏物語 | 紫式部 | | | |
| 心づくしの秋 | 源氏物語 | 紫式部 | | | |
| 母子の別離 | 源氏物語 | 紫式部 | | | |
| 暁の雪 | 源氏物語 | 紫式部 | | | |
| 萩のうは露 | 源氏物語 | 紫式部 | | | |
| 霧の中のかいま見 | 源氏物語 | 紫式部 | | | |
| 髪の香 | 源氏物語 | 紫式部 | | | |
| 土御門殿の秋 | 紫式部日記 | 紫式部 | | | |
| 和泉式部と清少納言 | 紫式部日記 | 紫式部 | | | |
| 夢よりもはかなき世の中を | 和泉式部日記 | 和泉式部 | | | |
| 関の藤川 | 十六夜日記 | 阿仏尼 | | | |
| 菅公配流 | 大鏡 | 未詳 | | | |
| 宣耀殿の女御 | 大鏡 | 未詳 | | | |
| 中宮安子の嫉妬 | 大鏡 | 未詳 | | | |
| 肝試し | 大鏡 | 未詳 | | | |
| 道長、栄華への第一歩 | 大鏡 | 未詳 | | | |
| 後鳥羽院 | 増鏡 | 未詳 | | | |
| 隠岐配流 | 増鏡 | 未詳 | | | |
| 忍び扇の長歌 | 西鶴諸国ばなし | 井原西鶴 | | | |
| 浅茅が宿 | 雨月物語 | 上田秋成 | | | |
| 倭建命 | 古事記 | 稗田阿礼 太安万侶 | | | |
| 日本武尊の死 | 日本書紀 | 舎人親王 | | | |
| | | | | 男 | 女 |
| | | | 評論等 | 88% | 12% |
| | | | 小説等 | 55% | 45% |
| | | | 詩歌 | 80% | 20% |
| | | | 計 | 78% | 22% |

| | |
|-----|------|
| 教科名 | 国語 |
| 科目名 | 古典探究 |

※「教科書番号」欄にある◆は、「学習者用デジタル教科書」（学校教育法第34条第2項に規定する教材）の発行予定があることを示す。

| | |
|--|--|
| 発行者(略称) | 筑摩 |
| 教科書番号 | 古探716◆ |
| 教科書名 | 古典探究 漢文編 |
| (1) 内容 | |
| a 単元など内容や時間のまとまりを通して、その中で育む資質・能力の育成(各教科共通) | |
| 【言葉の特徴や使い方に関する事項】 | <ul style="list-style-type: none"> ・「創成と典故」という単元が設けられ、故事成語について理解を深められるよう工夫されている。 ・5編の「コラム」が掲載されており、その中で史書、漢詩のきまり、諸子百家が取り上げられている。 ・各教材末に「表現」が設けられ、古典に用いられている語句の意味や用法、訓読のきまり、表現の技法などについての理解を深められるよう工夫されている。 |
| 【読むこと】 | <ul style="list-style-type: none"> ・思想、史伝、古体詩、近体詩などが取り上げられ、文章の種類を踏まえて、構成や展開、内容を的確に捉えたり、解釈したりできるよう教材が設定されている。 ・王昭君を詠んだ漢詩と和歌、「詩経」と「古今和歌集」の「序」、それぞれを比較できる単元が設定されている。 ・「コラム」が掲載され、古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から読み深めることができるよう工夫されている。 ・各教材末に「理解」が設けられ、教材の種類や内容に応じて読みを深められるよう工夫されている。 |
| b 読書に関する指導 | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・「読書案内」というコラムが設けられ、教材に関連する書籍が紹介されている。 |
| 《その他の項目》(各教科共通) | |
| 我が国の伝統や文化、国土や歴史に対する理解、他国の多様な文化の尊重に関する特徴や工夫 | <ul style="list-style-type: none"> ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深められるよう教材が設定されている。 ・漢詩の単元に日本の漢詩が掲載されている。 ・思想の単元に興膳宏「言と黙」という現代文の評論が掲載されている。 ・「王昭君」をテーマとした詩歌を比較する学習が設定されている。 ・「日本人の漢文」というコラムが掲載されている。 ・巻頭及び巻末に中国の古典の世界の人々の生活に関する理解を促す図版が掲載されている。 |
| 人権課題(同和問題、北朝鮮による拉致問題等)に関する特徴や工夫 | 記載なし |
| 安全・防災や自然災害の扱い | 記載なし |
| オリンピック・パラリンピックに関する特徴や工夫 | 記載なし |
| 固定的な性別役割分担意識に関する記述等 | 記載なし |
| (2) 構成上の工夫 | |
| デジタルコンテンツの扱い | <ul style="list-style-type: none"> ・古典作品の紹介や、作品に登場する人物について掲載されたホームページに、二次元コードを読み込んでアクセスできるよう工夫されている。 |
| ユニバーサルデザインの視点 | <ul style="list-style-type: none"> ・読みやすさに配慮したユニバーサルデザインフォントを使用している。 |

| 文学的文章 | | | 評論等 | | |
|-----------|------------------|------|----------|---------|------|
| 教材名 | 作品名 | 作者名等 | 教材名 | 作品名 | 作者名等 |
| 知音 | 呂氏春秋 | 呂不韋 | 曳尾於塗中 | 莊子 | 莊周 |
| 先從隗始 | 戰国策 | 劉向 | 論語 | 論語 | 未詳 |
| 漁父辞 | 楚辞 | 屈原 | 人無有不全善 | 孟子 | 孟軻 |
| 桃花源記 | 陶淵明集 | 陶淵明 | 四端 | 孟子 | 孟軻 |
| 春夜宴桃李園序 | 古文真宝・後集 | 李白 | 性惡 | 荀子 | 荀況 |
| 近体詩 | 独坐敬亭山 | 李白 | 螳螂之斧 | 莊子 | 莊周 |
| 近体詩 | 登樂遊原 | 李商隱 | 詩經大序 | 詩經 | 卜商 |
| 近体詩 | 九月九日憶山東兄弟 | 王維 | 古今和歌集真名序 | 古今和歌集 | 紀淑望 |
| 近体詩 | 芙蓉楼送辛漸 | 王昌齡 | 論文 | 文選 | 曹丕 |
| 近体詩 | 楓橋夜泊 | 張繼 | 五柳先生伝 | 陶淵明集 | 陶淵明 |
| 近体詩 | 野望 | 王績 | 前赤壁賦 | 古文真宝・後集 | 蘇軾 |
| 近体詩 | 旅夜書懷 | 杜甫 | 前出師表 | 古文真宝・後集 | 諸葛亮 |
| 近体詩 | 八月十五夜、禁中独直、对月憶元九 | 白居易 | 与微之書 | 白氏文集 | 白居易 |
| 近体詩 | 遊山西村 | 陸游 | 傷仲永 | 臨川先生文集 | 王安石 |
| 近体詩 | 聞旅雁 | 菅原道真 | 無之用 | 老子 | 老聃 |
| 近体詩 | 即事 | 新井白石 | 柔之勝剛 | 老子 | 老聃 |
| 近体詩 | 無題 | 夏目漱石 | 渾沌 | 莊子 | 莊周 |
| 天道是邪、非邪 | 史記 | 司馬遷 | 無用之用 | 莊子 | 莊周 |
| 鴻門之会 | 史記 | 司馬遷 | 守業 | 韓非子 | 韓非 |
| 四面楚歌 | 史記 | 司馬遷 | 嬰逆鱗 | 韓非子 | 韓非 |
| 稻葉一徹 | 近古史談 | 大槻磐溪 | 兼愛 | 墨子 | 墨翟 |
| 鶴之報恩 | 搜神記 | 干宝 | 足責 | 墨子 | 墨翟 |
| 壳鬼 | 搜神記 | 干宝 | 言と黙 | 言と黙 | 興膳宏 |
| 王昭君 | 西京雜記 | 作者 | | | |
| 王昭君 | 李太白全集 | 李白 | | | |
| 王昭君 | 和漢朗詠集 | 大江朝綱 | | | |
| 王昭君をよめる | 後拾遺和歌集 | 赤染衛門 | | | |
| 師説 | 唐宋八家文読本 | 韓愈 | | | |
| 捕蛇者説 | 唐宋八家文読本 | 柳宗元 | | | |
| 愛蓮説 | 古文真宝・後集 | 周敦頤 | | | |
| 断腸 | 世説新語 | 劉義慶 | | | |
| 螳螂之斧 | 淮南子 | 劉安 | | | |
| 愚公移山 | 列子 | 列禦寇 | | | |
| 古体詩 | 桃夭 | 未詳 | | | |
| 古体詩 | 秋風辞 | 漢・武帝 | | | |
| 古体詩 | 薤露 | 未詳 | | | |
| 古体詩 | 飲酒 其五 | 陶淵明 | | | |
| 古体詩 | 送別 | 王維 | | | |
| 古体詩 | 漁翁 | 柳宗元 | | | |
| 古体詩 | 石壕吏 | 杜甫 | | | |
| 古体詩 | 長恨歌 | 白居易 | | | |
| 怒髮上衝冠 | 史記 | 司馬遷 | | | |
| 刎頸之交 | 史記 | 司馬遷 | | | |
| 廉頗藺相如列伝論贊 | 史記 | 司馬遷 | | | |
| 国土無双 | 史記 | 司馬遷 | | | |
| 信玄何在 | 日本外史 | 頼山陽 | | | |
| 離魂記 | 太平広記 | 陳玄祐 | | | |
| 人面桃花 | 本事詩 | 孟棨 | | | |
| | | | | 男 | 女 |
| | | | 評論等 | 100% | 0% |
| | | | 小説等 | 100% | 0% |
| | | | 詩歌 | 95% | 5% |
| | | | 計 | 98% | 2% |

| | |
|-----|------|
| 教科名 | 国語 |
| 科目名 | 古典探究 |

※「教科書番号」欄にある◆は、「学習者用デジタル教科書」（学校教育法第34条第2項に規定する教材）の発行予定があることを示す。

| | |
|--|---|
| 発行者(略称) | 第一 |
| 教科書番号 | 古探717◆ |
| 教科書名 | 高等学校 古典探究 古文編 |
| (1) 内容 | |
| a 単元など内容や時間のまとまりを通して、その中で育む資質・能力の育成(各教科共通) | |
| 【言葉の特徴や使い方に関する事項】 | <ul style="list-style-type: none"> 各単元冒頭に「出典解説」が設けられ、様々な古典作品の種類や特徴について理解が深められるよう工夫されている。 「現代語との比較」という言語活動が設けられ、時間の経過による言葉の変化について理解が深められるよう工夫されている。 各教材末に「言葉の手引き」が設けられ、古典に用いられている語句の意味や用法、文語のきまり、表現の技法などについての理解を深められるよう工夫されている。 |
| 【読むこと】 | <ul style="list-style-type: none"> 説話、随筆、作り物語、和歌、日記、軍記物語、歌物語、歴史物語、歌論、俳諧などが取り上げられ、文章の種類を踏まえて、構成や展開、内容を的確に捉えたり、解釈したりできるよう教材が設定されている。 各単元末に「言語活動」が設定され、学習したことを基に調べ学習をしたり、表現活動をしたり、関連する他の作品と読み比べたりすることができるよう工夫されている。 各教材末に「学習の手引き」が設けられ、教材の種類や内容に応じて読みを深められるよう工夫されている。 |
| b 読書に関する指導 | |
| | <ul style="list-style-type: none"> 巻末に「読書のしるべ」が設けられ、教材に関連する書籍が紹介されている。 |
| 《その他の項目》(各教科共通) | |
| 我が国の伝統や文化、国土や歴史に対する理解、他国の多様な文化の尊重に関する特徴や工夫 | <ul style="list-style-type: none"> 古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深められるよう教材が設定されている。 巻頭及び巻末に古典の世界の人々の生活に関する理解を促す図版が掲載されている。 |
| 人権課題(同和問題、北朝鮮による拉致問題等)に関する特徴や工夫 | 記載なし |
| 安全・防災や自然災害の扱い | <ul style="list-style-type: none"> 「方丈記」の「安元の大火」が掲載されている。 |
| オリンピック・パラリンピックに関する特徴や工夫 | 記載なし |
| 固定的な性別役割分担意識に関する記述等 | <ul style="list-style-type: none"> 「源氏物語」で「父の大納言は亡くなりて、母北の方なむ、いにしへの人の、よしあるにて、親うち具し、さしあたりて世のおぼえはなやかなる御方々にもいたう劣らず、何事の儀式をももてなし給ひけれど、とりたててはかばかしき後見しなければ、ことあるときは、なほよりどころなく、心細げなり。」という記述が見られる。 言語活動「平安朝の結婚」で「このように、別居結婚であったことに加え、男性が複数の女性と同時に婚姻関係を持つことが許される習慣のあったことが、妻にとってはとかく悩みの生じる原因となった。」という記述が見られる。 |
| (2) 構成上の工夫 | |
| デジタルコンテンツの扱い | <ul style="list-style-type: none"> 教材に関する資料や動画に、二次元コードを読み込んでアクセスできるよう工夫されている。 |
| ユニバーサルデザインの視点 | <ul style="list-style-type: none"> ユニバーサルデザイン(カラーバリアフリーを含む。)に配慮している。 |

| 文学的文章 | | | 評論等 | | |
|---------------|--------|--------|----------------|-------|------|
| 教材名 | 作品名 | 作者名等 | 教材名 | 作品名 | 作者名等 |
| 小式部内侍が大江山の歌の事 | 古今著聞集 | 橘成季 | よろづのことは、月見るにこそ | 徒然草 | 兼好法師 |
| 歌ゆゑに命を失ふ事 | 沙石集 | 無住道暁 | 世に語り伝ふること | 徒然草 | 兼好法師 |
| やさし蔵人 | 今物語 | 未詳 | あだし野の露消ゆるときなく | 徒然草 | 兼好法師 |
| 初冠 | 伊勢物語 | 未詳 | 飛鳥川の淵瀬 | 徒然草 | 兼好法師 |
| 渚の院 | 伊勢物語 | 未詳 | ゆく川の流れ | 方丈記 | 鴨長明 |
| 小野の雪 | 伊勢物語 | 未詳 | 安元の大火 | 方丈記 | 鴨長明 |
| 狩りの使ひ | 伊勢物語 | 未詳 | 木の花は | 枕草子 | 清少納言 |
| 姨捨 | 大和物語 | 未詳 | すさまじきもの | 枕草子 | 清少納言 |
| 苔の衣 | 大和物語 | 未詳 | 野分のまたの日こそ | 枕草子 | 清少納言 |
| かぐや姫の嘆き | 竹取物語 | 未詳 | 二月つごもりごろに | 枕草子 | 清少納言 |
| かぐや姫の昇天 | 竹取物語 | 未詳 | 仮名序 | 古今和歌集 | 紀貫之 |
| うつろひたる菊 | 蜻蛉日記 | 藤原道綱母 | 宮に初めて参りたるころ | 枕草子 | 清少納言 |
| 泔坏の水 | 蜻蛉日記 | 藤原道綱母 | 御方々、君たち | 枕草子 | 清少納言 |
| 夢よりもはかなき世の中 | 和泉式部日記 | 和泉式部 | 五月の御精進のほど | 枕草子 | 清少納言 |
| 手枕の袖 | 和泉式部日記 | 和泉式部 | 雪のいと高う降りたるを | 枕草子 | 清少納言 |
| 光る君誕生 | 源氏物語 | 紫式部 | 歌のよしあし | 俊頼髓脳 | 源俊頼 |
| 若紫 | 源氏物語 | 紫式部 | 深草の里 | 無名抄 | 鴨長明 |
| 弓争ひ | 大鏡 | 未詳 | 本歌取り | 毎月抄 | 藤原定家 |
| 道長の豪胆 | 大鏡 | 未詳 | 清少納言 | 無名草子 | 未詳 |
| 花山天皇の出家 | 大鏡 | 未詳 | 紫式部 | 無名草子 | 未詳 |
| 若宮誕生 | 紫式部日記 | 紫式部 | 風姿花伝 | 風姿花伝 | 世阿弥 |
| 日本紀の御局 | 紫式部日記 | 紫式部 | 風雅の誠 | 三冊子 | 服部土芳 |
| 門出 | 更級日記 | 菅原孝標女 | 行く春を | 去来抄 | 向井去来 |
| 源氏の五十余巻 | 更級日記 | 菅原孝標女 | 下京や | 去来抄 | 向井去来 |
| 鏡のかげ | 更級日記 | 菅原孝標女 | 兼好法師が詞のあげつらひ | 玉勝間 | 本居宣長 |
| 忠度の都落ち | 平家物語 | 未詳 | | | |
| 能登殿の最期 | 平家物語 | 未詳 | | | |
| 万葉集 | 万葉集 | 額田王 | | | |
| 万葉集 | 万葉集 | 大海人皇子 | | | |
| 万葉集 | 万葉集 | 山上憶良 | | | |
| 万葉集 | 万葉集 | 山部赤人 | | | |
| 万葉集 | 万葉集 | 柿本人麻呂 | | | |
| 万葉集 | 万葉集 | 大伴家持 | | | |
| 万葉集 | 万葉集 | 未詳 | | | |
| 万葉集 | 万葉集 | 未詳 | | | |
| 古今和歌集 | 古今和歌集 | 凡河内躬恒 | | | |
| 古今和歌集 | 古今和歌集 | 僧正遍昭 | | | |
| 古今和歌集 | 古今和歌集 | 壬生忠岑 | | | |
| 古今和歌集 | 古今和歌集 | 清原深養父 | | | |
| 古今和歌集 | 古今和歌集 | 紀貫之 | | | |
| 古今和歌集 | 古今和歌集 | よみ人知らず | | | |
| 古今和歌集 | 古今和歌集 | 小野小町 | | | |
| 新古今和歌集 | 新古今和歌集 | 藤原定家 | | | |
| 新古今和歌集 | 新古今和歌集 | 後鳥羽院 | | | |
| 新古今和歌集 | 新古今和歌集 | 藤原家隆 | | | |
| 新古今和歌集 | 新古今和歌集 | 式子内親王 | | | |
| 新古今和歌集 | 新古今和歌集 | 藤原俊成女 | | | |
| 新古今和歌集 | 新古今和歌集 | 西行法師 | | | |
| 春夏秋冬 | | 松永貞徳 | | | |

| 文学的文章 | | | 評論等 | | |
|--------------------|----------|-----------|-----|-----|------|
| 教材名 | 作品名 | 作者名等 | 教材名 | 作品名 | 作者名等 |
| 春夏秋冬 | | 北村季吟 | | | |
| 春夏秋冬 | | 西山宗因 | | | |
| 春夏秋冬 | | 井原西鶴 | | | |
| 春夏秋冬 | | 松尾芭蕉 | | | |
| 春夏秋冬 | | 向井去来 | | | |
| 春夏秋冬 | | 服部嵐雪 | | | |
| 春夏秋冬 | | 森川許六 | | | |
| 春夏秋冬 | | 内藤文章 | | | |
| 春夏秋冬 | | 野沢凡兆 | | | |
| 春夏秋冬 | | 千代女 | | | |
| 春夏秋冬 | | 炭太祇 | | | |
| 春夏秋冬 | | 与謝蕪村 | | | |
| 春夏秋冬 | | 上田秋成 | | | |
| 春夏秋冬 | | 高井几董 | | | |
| 春夏秋冬 | | 小林一茶 | | | |
| 叡実、路頭の病者を憐れむ事 | 発心集 | 鴨長明 | | | |
| 祭守三位輔親の侍、鶯を召しとどむる事 | 十訓抄 | 未詳 | | | |
| 袴垂、保昌に合ふ事 | 宇治拾遺物語 | 未詳 | | | |
| 夕顔の死 | 源氏物語 | 紫式部 | | | |
| 江談抄 | 江談抄 | 大江匡房 藤原実兼 | | | |
| 夕顔 | 源氏物語 | 紫式部／江國香織 | | | |
| 葵の上の出産 | 源氏物語 | 紫式部 | | | |
| 須磨の秋 | 源氏物語 | 紫式部 | | | |
| 明石の姫君の入内 | 源氏物語 | 紫式部 | | | |
| 女三の宮の降嫁 | 源氏物語 | 紫式部 | | | |
| 紫の上の死 | 源氏物語 | 紫式部 | | | |
| 薫と宇治の姫君 | 源氏物語 | 紫式部 | | | |
| 三舟の才 | 大鏡 | 未詳 | | | |
| 佐理の大式 | 大鏡 | 未詳 | | | |
| 中納言争ひ | 大鏡 | 未詳 | | | |
| 菅原道真の左遷 | 大鏡 | 未詳 | | | |
| 堀河天皇との別れ | 讃岐典侍日記 | 藤原長子 | | | |
| 建春門院の夢 | たまきはる | 建春門院中納言 | | | |
| 秘密の出産 | とはずがたり | 御深草院二条 | | | |
| 父大納言の苦惱 | とりかへばや物語 | 未詳 | | 男 | 女 |
| 偽りの別れ | しのびね物語 | 未詳 | 評論等 | 90% | 10% |
| はいずみ | 堤中納言物語 | 未詳 | 小説等 | 42% | 58% |
| 大晦日は合はぬ算用 | 西鶴諸国ばなし | 井原西鶴 | 詩歌 | 85% | 15% |
| 浅茅が宿 | 雨月物語 | 上田秋成 | 計 | 77% | 23% |

| | |
|-----|------|
| 教科名 | 国語 |
| 科目名 | 古典探究 |

※「教科書番号」欄にある◆は、「学習者用デジタル教科書」（学校教育法第34条第2項に規定する教材）の発行予定があることを示す。

| | |
|--|--|
| 発行者(略称) | 第一 |
| 教科書番号 | 古探718◆ |
| 教科書名 | 高等学校 古典探究 漢文編 |
| (1) 内容 | |
| a 単元など内容や時間のまとまりを通して、その中で育む資質・能力の育成(各教科共通) | |
| 【言葉の特徴や使い方に関する事項】 | <ul style="list-style-type: none"> ・「故事・寓話」という単元が設けられ、故事成語について理解を深められるよう工夫されている。 ・各単元冒頭に「出典解説」が設けられ、様々な古典作品の種類や特徴について理解が深められるよう工夫されている。 |
| 【読むこと】 | <ul style="list-style-type: none"> ・思想、史伝、古体詩、近体詩などが取り上げられ、文章の種類を踏まえて、構成や展開、内容を的確に捉えたり、解釈したりできるよう教材が設定されている。 ・各単元末に「言語活動」が設定され、学習したことを基に調べ学習をしたり、表現活動をしたり、関連する他の作品と読み比べたりすることができるよう工夫されている。 ・各教材末に「学習の手引き」が設けられ、教材の種類や内容に応じて読みを深められるよう工夫されている。 |
| b 読書に関する指導 | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・巻末に「読書のしるべ」が設けられ、教材に関連する書籍が紹介されている。 |
| 《その他の項目》(各教科共通) | |
| 我が国の伝統や文化、国土や歴史に対する理解、他国の多様な文化の尊重に関する特徴や工夫 | <ul style="list-style-type: none"> ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深められるよう教材が設定されている。 ・「日本の詩」という単元が設定されている。 ・「言語活動」として「酒虫」と芥川龍之介「酒虫」の読み比べ、森三樹三郎「戦国時代の諸子百家」と「論語」「老子」の読み比べ、などが設定されている。 ・巻頭及び巻末に中国の古典の世界の人々の生活に関する理解を促す図版が掲載されている。 |
| 人権課題(同和問題、北朝鮮による拉致問題等)に関する特徴や工夫 | 記載なし |
| 安全・防災や自然災害の扱い | 記載なし |
| オリンピック・パラリンピックに関する特徴や工夫 | 記載なし |
| 固定的な性別役割分担意識に関する記述等 | 記載なし |
| (2) 構成上の工夫 | |
| デジタルコンテンツの扱い | <ul style="list-style-type: none"> ・教材に関する資料や動画に、二次元コードを読み込んでアクセスできるよう工夫されている。 |
| ユニバーサルデザインの視点 | <ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサルデザイン(カラーバリアフリーを含む。)に配慮している。 |

| 文学的文章 | | | 評論等 | | |
|-----------|-----------|-------|-----------|--------|-------|
| 教材名 | 作品名 | 作者名等 | 教材名 | 作品名 | 作者名等 |
| 推敲 | 唐詩紀事 | 計有功 | 嬰逆鱗 | 韓非子 | 韓非 |
| 吳越同舟 | 孫子 | 孫武 | 読孟嘗君伝 | 臨川先生文集 | 王安石 |
| 知音 | 呂氏春秋 | 呂不韋 | 戦国時代の諸子百家 | 中国思想史 | 森三樹三郎 |
| 鼓腹撃壤 | 十八史略 | 曾先之 | 学而 | 論語 | 未詳 |
| 莫敢飾詐 | 十八史略 | 曾先之 | 何必曰利 | 孟子 | 孟子 |
| 鷄鳴狗盜 | 十八史略 | 曾先之 | 性善 | | 孟子 |
| 背水之陣 | 十八史略 | 曾先之 | 小国寡民 | 老子 | 老子 |
| 雑説 | 昌黎先生文集 | 韓愈 | 天下莫柔弱於水 | | 老子 |
| 黔之驢 | 柳先生文集 | 柳宗元 | 渾沌 | 莊子 | 莊子 |
| 売油翁 | 欧陽文忠公文集 | 欧陽脩 | 曳尾於塗中 | | 莊子 |
| 鴻門之会 | 史記 | 司馬遷 | 侵官之害 | 韓非子 | 韓非子 |
| 四面楚歌 | 史記 | 司馬遷 | 非愛也 | | 韓非子 |
| 中国の詩 | 独坐敬亭山 | 李白 | 医業談笑 | 東坡志林 | 蘇軾 |
| 中国の詩 | 秋風引 | 劉禹錫 | 賢母辞拾遺 | 南村輟耕録 | 陶宗儀 |
| 中国の詩 | 九月九日憶山東兄弟 | 王維 | 売柑者言 | 誠意伯文集 | 劉基 |
| 中国の詩 | 磧中作 | 岑参 | 為学 | 白鶴堂文録 | 彭端淑 |
| 中国の詩 | 除夜寄弟妹 | 白居易 | | | |
| 中国の詩 | 江村 | 杜甫 | | | |
| 日本の詩 | 不出門 | 菅原道真 | | | |
| 日本の詩 | 冬夜読書 | 菅茶山 | | | |
| 日本の詩 | 送夏目漱石之伊予 | 正岡子規 | | | |
| 織女 | 搜神記 | 干宝 | | | |
| 売鬼 | 搜神記 | 干宝 | | | |
| 蟻王 | 搜神記 | 干宝 | | | |
| 買粉児 | 幽明録 | 劉義慶 | | | |
| 酒虫 | 聊齋志異 | 蒲松齡 | | | |
| 酒虫 | 酒虫 | 芥川龍之介 | | | |
| 不顧後患 | 説苑 | 劉向 | | | |
| 不若人有其宝 | 新序 | 劉向 | | | |
| 不死之道 | 列子 | 列禦寇 | | | |
| 漁父辞 | 楚辞 | 屈原 | | | |
| 五柳先生伝 | 陶淵明集 | 陶潜 | | | |
| 春夜宴従弟桃花園序 | 李太白文集 | 李白 | | | |
| 捕蛇者説 | 柳先生文集 | 柳宗元 | | | |
| 行行重行行 | 文選 | 未詳 | | | |
| 責子 | 陶淵明集 | 陶潜 | | | |
| 石壕吏 | 杜工部集 | 杜甫 | | | |
| 長恨歌 | 白氏文集 | 白居易 | | 男 | 女 |
| 管鮑之交 | 史記 | 司馬遷 | 評論等 | 100% | 0% |
| 孫臏 | 史記 | 司馬遷 | 小説等 | 100% | 0% |
| 張儀 | 史記 | 司馬遷 | 詩歌 | 100% | 0% |
| 荊軻 | 史記 | 司馬遷 | 計 | 100% | 0% |

| | |
|-----|------|
| 教科名 | 国語 |
| 科目名 | 古典探究 |

※「教科書番号」欄にある◆は、「学習者用デジタル教科書」（学校教育法第34条第2項に規定する教材）の発行予定があることを示す。

| | |
|--|---|
| 発行者(略称) | 第一 |
| 教科書番号 | 古探719◆ |
| 教科書名 | 高等学校 精選古典探究 |
| (1) 内容 | |
| a 単元など内容や時間のまとまりを通して、その中で育む資質・能力の育成(各教科共通) | |
| 【言葉の特徴や使い方に関する事項】 | <ul style="list-style-type: none"> ・漢文編で「故事・寓話」という単元が設けられ、故事成語について理解を深められるよう工夫されている。 ・「現代語との比較」という言語活動が設けられ、時間の経過による言葉の変化について理解が深められるよう工夫されている。 ・各単元冒頭に「出典解説」が設けられ、様々な古典作品の種類や特徴について理解が深められるよう工夫されている。 ・古文編の各教材末に「言葉の手引き」が設けられ、古典に用いられている語句の意味や用法、文語のきまり、表現の技法などについての理解を深められるよう工夫されている。 |
| 【読むこと】 | <ul style="list-style-type: none"> ・古文では説話、随筆、作り物語、和歌、日記、軍記物語、歌物語、歴史物語、歌論、俳諧などが、漢文では思想、史伝、古体詩、近体詩などが取り上げられ、文章の種類を踏まえて、構成や展開、内容を的確に捉えたり、解釈したりできるよう教材が設定されている。 ・各単元末に「言語活動」が設定され、学習したことを基に調べ学習をしたり、表現活動をしたり、関連する他の作品と読み比べたりすることができるよう工夫されている。 ・各教材末に「学習の手引き」が設けられ、教材の種類や内容に応じて読みを深められるよう工夫されている。 |
| b 読書に関する指導 | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・巻末に「読書のしるべ」が設けられ、教材に関連する本が紹介されている。 |
| 《その他の項目》(各教科共通) | |
| 我が国の伝統や文化、国土や歴史に対する理解、他国の多様な文化の尊重に関する特徴や工夫 | <ul style="list-style-type: none"> ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深められるよう教材が設定されている。 ・「日本の詩」という単元が設定されている。 ・「言語活動」として「酒虫」と芥川龍之介「酒虫」の読み比べ、森三樹三郎「戦国時代の諸子百家」と「論語」「老子」の読み比べ、などが設定されている。 ・巻頭及び巻末に古典の世界の人々の生活に関する理解を促す図版が掲載されている。 |
| 人権課題(同和問題、北朝鮮による拉致問題等)に関する特徴や工夫 | 記載なし |
| 安全・防災や自然災害の扱い | <ul style="list-style-type: none"> ・「方丈記」の「安元の大火」が掲載されている。 |
| オリンピック・パラリンピックに関する特徴や工夫 | 記載なし |
| 固定的な性別役割分担意識に関する記述等 | <ul style="list-style-type: none"> ・「源氏物語」で「父の大納言は亡くなりて、母北の方なむ、いにしへの人の、よしあるにて、親うち具し、さしあたりて世のおぼえはなやかなる御方々にもいたう劣らず、何事の儀式をももてなし給ひけれど、とりたててはかばかしき後見しなければ、ことあるときは、なほよりどころなく、心細げなり。」という記述が見られる。 ・言語活動「平安朝の結婚」で「このように、別居結婚であったことに加え、男性が複数の女性と同時に婚姻関係を持つことが許される習慣のあったことが、妻にとってはとかく悩みの生じる原因となった。」という記述が見られる。 |
| (2) 構成上の工夫 | |
| デジタルコンテンツの扱い | <ul style="list-style-type: none"> ・教材に関する資料や動画に、二次元コードを読み込んでアクセスできるよう工夫されている。 |
| ユニバーサルデザインの視点 | <ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサルデザイン(カラーバリアフリーを含む。)に配慮している。 |

| 文学的文章 | | | 評論等 | | |
|---------------|--------|--------|----------------|--------|-------|
| 教材名 | 作品名 | 作者名等 | 教材名 | 作品名 | 作者名等 |
| 小式部内侍が大江山の歌の事 | 古今著聞集 | 橘成季 | よろづのことは、月見るにこそ | 徒然草 | 兼好法師 |
| 歌ゆゑに命を失ふ事 | 沙石集 | 無住道暁 | 世に語り伝ふること | 徒然草 | 兼好法師 |
| やさし蔵人 | 今物語 | 未詳 | あだし野の露消ゆるときなく | 徒然草 | 兼好法師 |
| 初冠 | 伊勢物語 | 未詳 | 飛鳥川の淵瀬 | 徒然草 | 兼好法師 |
| 渚の院 | 伊勢物語 | 未詳 | ゆく川の流れ | 方丈記 | 鴨長明 |
| 小野の雪 | 伊勢物語 | 未詳 | 安元の大火 | 方丈記 | 鴨長明 |
| 狩りの使ひ | 伊勢物語 | 未詳 | 木の花は | 枕草子 | 清少納言 |
| 姨捨 | 大和物語 | 未詳 | すさまじきもの | 枕草子 | 清少納言 |
| 苔の衣 | 大和物語 | 未詳 | 野分のまたの日こそ | 枕草子 | 清少納言 |
| 光る君誕生 | 源氏物語 | 紫式部 | 二月つごもりごろに | 枕草子 | 清少納言 |
| 若紫 | 源氏物語 | 紫式部 | 宮に初めて参りたるころ | 枕草子 | 清少納言 |
| 弓争ひ | 大鏡 | 未詳 | 御方々、君たち | 枕草子 | 清少納言 |
| 道長の豪胆 | 大鏡 | 未詳 | 五月の御精進のほど | 枕草子 | 清少納言 |
| 花山天皇の出家 | 大鏡 | 未詳 | 雪のいと高う降りたるを | 枕草子 | 清少納言 |
| うつろひたる菊 | 蜻蛉日記 | 藤原道綱母 | 歌のよしあし | 俊頼髓脳 | 源俊頼 |
| 泔坏の水 | 蜻蛉日記 | 藤原道綱母 | 深草の里 | 無名抄 | 鴨長明 |
| 若宮誕生 | 紫式部日記 | 紫式部 | 本歌取り | 毎月抄 | 藤原定家 |
| 日本紀の御局 | 紫式部日記 | 紫式部 | 清少納言 | 無名草子 | 未詳 |
| 門出 | 更級日記 | 菅原孝標女 | 紫式部 | 無名草子 | 未詳 |
| 源氏の五十余巻 | 更級日記 | 菅原孝標女 | 風姿花伝 | 風姿花伝 | 世阿弥 |
| 忠度の都落ち | 平家物語 | 未詳 | 風雅の誠 | 三冊子 | 服部土芳 |
| 能登殿の最期 | 平家物語 | 未詳 | 行く春を | 去来抄 | 向井去来 |
| 万葉集 | 万葉集 | 額田王 | 下京や | 去来抄 | 向井去来 |
| 万葉集 | 万葉集 | 大海人皇子 | 兼好法師が詞のあげつらひ | 玉勝間 | 本居宣長 |
| 万葉集 | 万葉集 | 山上憶良 | 嬰逆鱗 | 韓非子 | 韓非 |
| 万葉集 | 万葉集 | 山部赤人 | 読孟嘗君伝 | 臨川先生文集 | 王安石 |
| 万葉集 | 万葉集 | 柿本人麻呂 | 戦国時代の諸子百家 | 中国思想史 | 森三樹三郎 |
| 万葉集 | 万葉集 | 大伴家持 | 学而 | 論語 | 未詳 |
| 万葉集 | 万葉集 | 未詳 | 何必曰利 | 孟子 | 孟子 |
| 万葉集 | 万葉集 | 未詳 | 性善 | | 孟子 |
| 仮名序 | 古今和歌集 | 紀貫之 | 小国寡民 | 老子 | 老子 |
| 古今和歌集 | 古今和歌集 | 凡河内躬恒 | 天下莫柔弱於水 | | 老子 |
| 古今和歌集 | 古今和歌集 | 僧正遍昭 | 渾沌 | 莊子 | 莊子 |
| 古今和歌集 | 古今和歌集 | 壬生忠岑 | 曳尾於塗中 | | 莊子 |
| 古今和歌集 | 古今和歌集 | 清原深養父 | 侵官之害 | 韓非子 | 韓非子 |
| 古今和歌集 | 古今和歌集 | 紀貫之 | 非愛也 | | 韓非子 |
| 古今和歌集 | 古今和歌集 | よみ人知らず | 医薬談笑 | 東坡志林 | 蘇軾 |
| 古今和歌集 | 古今和歌集 | 小野小町 | 賢母辞拾遺 | 南村輟耕録 | 陶宗儀 |
| 新古今和歌集 | 新古今和歌集 | 藤原定家 | 売柑者言 | 誠意伯文集 | 劉基 |
| 新古今和歌集 | 新古今和歌集 | 後鳥羽院 | 為学 | 白鶴堂文録 | 彭端淑 |
| 新古今和歌集 | 新古今和歌集 | 藤原家隆 | | | |
| 新古今和歌集 | 新古今和歌集 | 式子内親王 | | | |
| 新古今和歌集 | 新古今和歌集 | 藤原俊成女 | | | |
| 新古今和歌集 | 新古今和歌集 | 西行法師 | | | |
| 春夏秋冬 | | 松永貞徳 | | | |
| 春夏秋冬 | | 北村季吟 | | | |
| 春夏秋冬 | | 西山宗因 | | | |
| 春夏秋冬 | | 井原西鶴 | | | |
| 春夏秋冬 | | 松尾芭蕉 | | | |

| 文学的文章 | | | 評論等 | | |
|--------------------|-----------|-----------|-----|-----|------|
| 教材名 | 作品名 | 作者名等 | 教材名 | 作品名 | 作者名等 |
| 春夏秋冬 | | 向井去来 | | | |
| 春夏秋冬 | | 服部嵐雪 | | | |
| 春夏秋冬 | | 森川許六 | | | |
| 春夏秋冬 | | 内藤文草 | | | |
| 春夏秋冬 | | 野沢凡兆 | | | |
| 春夏秋冬 | | 千代女 | | | |
| 春夏秋冬 | | 炭太祇 | | | |
| 春夏秋冬 | | 与謝蕪村 | | | |
| 春夏秋冬 | | 上田秋成 | | | |
| 春夏秋冬 | | 高井几董 | | | |
| 春夏秋冬 | | 小林一茶 | | | |
| 叡実、路頭の病者を憐れむ事 | 発心集 | 鴨長明 | | | |
| 祭守三位輔親の侍、鶯を召しとどむる事 | 十訓抄 | 未詳 | | | |
| 袴垂、保昌に合ふ事 | 宇治拾遺物語 | 未詳 | | | |
| 夕顔の死 | 源氏物語 | 紫式部 | | | |
| 江談抄 | 江談抄 | 大江匡房 藤原実兼 | | | |
| 夕顔 | 源氏物語 | 紫式部／江國香織 | | | |
| 葵の上の出産 | 源氏物語 | 紫式部 | | | |
| 明石の姫君の入内 | 源氏物語 | 紫式部 | | | |
| 女三の宮の降嫁 | 源氏物語 | 紫式部 | | | |
| 紫の上の死 | 源氏物語 | 紫式部 | | | |
| 三舟の才 | 大鏡 | 未詳 | | | |
| 佐理の大弍 | 大鏡 | 未詳 | | | |
| 中納言争ひ | 大鏡 | 未詳 | | | |
| 菅原道真の左遷 | 大鏡 | 未詳 | | | |
| 堀川天皇との別れ | 讃岐典侍日記 | 藤原長子 | | | |
| 建春門院の夢 | たまきはる | 建春門院中納言 | | | |
| 秘密の出産 | とはずがたり | 御深草院二条 | | | |
| 父大納言の苦惱 | とりかへばや物語 | 未詳 | | | |
| 偽りの別れ | しのびね物語 | 未詳 | | | |
| はいずみ | 堤中納言物語 | 未詳 | | | |
| 推敲 | 唐詩紀事 | 計有功 | | | |
| 呉越同舟 | 孫子 | 孫武 | | | |
| 知音 | 呂氏春秋 | 呂不韋 | | | |
| 鼓腹撃壤 | 十八史略 | 曾先之 | | | |
| 莫敢飾詐 | 十八史略 | 曾先之 | | | |
| 鷄鳴狗盜 | 十八史略 | 曾先之 | | | |
| 背水之陣 | 十八史略 | 曾先之 | | | |
| 雑説 | 昌黎先生文集 | 韓愈 | | | |
| 黔之驢 | 柳先生文集 | 柳宗元 | | | |
| 売油翁 | 欧陽文忠公文集 | 欧陽脩 | | | |
| 鴻門之会 | 史記 | 司馬遷 | | | |
| 四面楚歌 | 史記 | 司馬遷 | | | |
| 中国の詩 | 独坐敬亭山 | 李白 | | | |
| 中国の詩 | 秋風引 | 劉禹錫 | | | |
| 中国の詩 | 九月九日憶山東兄弟 | 王維 | | | |
| 中国の詩 | 磧中作 | 岑参 | | | |
| 中国の詩 | 除夜寄弟妹 | 白居易 | | | |
| 中国の詩 | 江村 | 杜甫 | | | |
| 日本の詩 | 不出門 | 菅原道真 | | | |

| 文学的文章 | | | 評論等 | | | | | |
|--------|----------|-------|-----|-----|------|-----|-----|-----|
| 教材名 | 作品名 | 作者名等 | 教材名 | 作品名 | 作者名等 | | | |
| 日本の詩 | 冬夜読書 | 菅茶山 | | | | | | |
| 日本の詩 | 送夏目漱石之伊予 | 正岡子規 | | | | | | |
| 織女 | 搜神記 | 干宝 | | | | | | |
| 壳鬼 | 搜神記 | 干宝 | | | | | | |
| 蟻王 | 搜神記 | 干宝 | | | | | | |
| 買粉児 | 幽明録 | 劉義慶 | | | | | | |
| 酒虫 | 聊齋志異 | 蒲松齡 | | | | | | |
| 酒虫 | 酒虫 | 芥川龍之介 | | | | | | |
| 不顧後患 | 説苑 | 劉向 | | | | | | |
| 不若人有其宝 | 新序 | 劉向 | | | | | | |
| 不死之道 | 列子 | 列禦寇 | | | | | | |
| 行行重行行 | 文選 | 未詳 | | | | | | |
| 責子 | 陶淵明集 | 陶潜 | | | | | | |
| 石壕吏 | 杜工部集 | 杜甫 | | | | | | |
| 長恨歌 | 白氏文集 | 白居易 | | | | | | |
| 管鮑之交 | 史記 | 司馬遷 | | | | 評論等 | 95% | 5% |
| 孫臏 | 史記 | 司馬遷 | | | | 小説等 | 74% | 26% |
| 張儀 | 史記 | 司馬遷 | | | | 詩歌 | 89% | 11% |
| 荊軻 | 史記 | 司馬遷 | | | | 計 | 86% | 14% |

| | |
|-----|------|
| 教科名 | 国語 |
| 科目名 | 古典探究 |

※「教科書番号」欄にある◆は、「学習者用デジタル教科書」（学校教育法第34条第2項に規定する教材）の発行予定があることを示す。

| | |
|--|---|
| 発行者(略称) | 第一 |
| 教科書番号 | 古探720◆ |
| 教科書名 | 高等学校 標準古典探究 |
| (1) 内容 | |
| a 単元など内容や時間のまとまりを通して、その中で育む資質・能力の育成(各教科共通) | |
| 【言葉の特徴や使い方に関する事項】 | <ul style="list-style-type: none"> ・漢文編で「故事・寓話」という単元が設けられ、故事成語について理解を深められるよう工夫されている。 ・「現代語との比較」という言語活動が設けられ、時間の経過による言葉の変化について理解が深められるよう工夫されている。 ・各単元冒頭に「出典解説」が設けられ、様々な古典作品の種類や特徴について理解が深められるよう工夫されている。 ・古文編の各教材末に「言葉の手引き」が設けられ、古典に用いられている語句の意味や用法、文語のきまり、表現の技法などについての理解を深められるよう工夫されている。 |
| 【読むこと】 | <ul style="list-style-type: none"> ・古文では説話、随筆、作り物語、和歌、日記、軍記物語、歌物語、歴史物語、歌論、俳諧などが、漢文では思想、史伝、古体詩、近体詩などが取り上げられ、文章の種類を踏まえて、構成や展開、内容を的確に捉えたり、解釈したりできるよう教材が設定されている。 ・各単元末に「言語活動」が設定され、学習したことを基に調べ学習をしたり、表現活動をしたり、関連する他の作品と読み比べたりすることができるよう工夫されている。 ・各教材末に「学習の手引き」が設けられ、教材の種類や内容に応じて読みを深められるよう工夫されている。 |
| b 読書に関する指導 | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・巻末に「読書のしるべ」が設けられ、教材に関連する書籍が紹介されている。 |
| 《その他の項目》(各教科共通) | |
| 我が国の伝統や文化、国土や歴史に対する理解、他国の多様な文化の尊重に関する特徴や工夫 | <ul style="list-style-type: none"> ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深められるよう教材が設定されている。 ・「日本の詩」という単元が設定されている。 ・「言語活動」として菅原道真「不出門」と白居易「香炉峰下」との比較などが設定されている。 ・巻頭及び巻末に古典の世界の人々の生活に関する理解を促す図版が掲載されている。 |
| 人権課題(同和問題、北朝鮮による拉致問題等)に関する特徴や工夫 | 記載なし |
| 安全・防災や自然災害の扱い | <ul style="list-style-type: none"> ・「方丈記」の「安元の大火」が掲載されている。 |
| オリンピック・パラリンピックに関する特徴や工夫 | 記載なし |
| 固定的な性別役割分担意識に関する記述等 | <ul style="list-style-type: none"> ・「源氏物語」で「父の大納言は亡くなりて、母北の方なむ、いにしへの人の、よしあるにて、親うち具し、さしあたりて世のおぼえはなやかなる御方々にもいたう劣らず、何事の儀式をももてなし給ひけれど、とりたててはかばかしき後見しなければ、ことあるときは、なほよりどころなく、心細げなり。」という記述が見られる。 ・言語活動「平安朝の結婚」で「このように、別居結婚であったことに加え、男性が複数の女性と同時に婚姻関係を持つことが許される習慣のあったことが、妻にとってはとかく悩みの生じる原因となった。」という記述が見られる。 |
| (2) 構成上の工夫 | |
| デジタルコンテンツの扱い | <ul style="list-style-type: none"> ・教材に関する資料や動画に、二次元コードを読み込んでアクセスできるよう工夫されている。 |
| ユニバーサルデザインの視点 | <ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサルデザイン(カラーバリアフリーを含む)に配慮している。 |

| 文学的文章 | | | 評論等 | | |
|---------------|--------|----------|-----------------|------|------|
| 教材名 | 作品名 | 作者名等 | 教材名 | 作品名 | 作者名等 |
| 平中が事 | 古本説話集 | 未詳 | 公世の二位のせうとに | 徒然草 | 兼好法師 |
| 文字一つの返し | 十訓抄 | 六波羅二臈左衛門 | 奥山に、猫またといふものありて | 徒然草 | 兼好法師 |
| 小式部内侍が大江山の歌の事 | 古今著聞集 | 橘成季 | 相模守時頼の母は | 徒然草 | 兼好法師 |
| 初冠 | 伊勢物語 | 未詳 | よろづのことは頼むべからず | 徒然草 | 兼好法師 |
| 通ひ路の関守 | 伊勢物語 | 未詳 | ゆく川の流れ | 方丈記 | 鴨長明 |
| 小野の雪 | 伊勢物語 | 未詳 | 安元の大火 | 方丈記 | 鴨長明 |
| 火鼠の皮衣 | 竹取物語 | 未詳 | 雪のいと高う降りたるを | 枕草子 | 清少納言 |
| かぐや姫の昇天 | 竹取物語 | 未詳 | 木の花は | 枕草子 | 清少納言 |
| 児の知恵 | 沙石集 | 無住道暁 | すさまじきもの | 枕草子 | 清少納言 |
| いみじき成敗 | 沙石集 | 無住道暁 | 清少納言 | 無名草子 | 未詳 |
| のちの千金の事 | 宇治拾遺物語 | 未詳 | 紫式部 | 無名草子 | 未詳 |
| 万葉集 | 万葉集 | 額田王 | 深草の里 | 無名抄 | 鴨長明 |
| 万葉集 | 万葉集 | 大海人皇子 | 兼好法師が詞のあげつらひ | 玉勝間 | 本居宣長 |
| 万葉集 | 万葉集 | 山上憶良 | 助長 | 孟子 | 孟子 |
| 万葉集 | 万葉集 | 山部赤人 | 嬰逆鱗 | 韓非子 | 韓非子 |
| 万葉集 | 万葉集 | 柿本人麻呂 | 仁人心也 | 孟子 | 孟子 |
| 万葉集 | 万葉集 | 大伴家持 | 民父母 | 孟子 | 孟子 |
| 万葉集 | 万葉集 | 未詳 | 柔弱 | 老子 | 老子 |
| 万葉集 | 万葉集 | 丈部稲麻呂 | 百谷王 | 老子 | 老子 |
| 仮名序 | 古今和歌集 | 紀貫之 | 鴟得腐鼠 | 莊子 | 莊子 |
| 古今和歌集 | 古今和歌集 | 凡河内躬恒 | 蝴蝶之夢 | 莊子 | 莊子 |
| 古今和歌集 | 古今和歌集 | 僧正遍昭 | 法者王之本也 | 韓非子 | 韓非子 |
| 古今和歌集 | 古今和歌集 | 壬生忠岑 | | | |
| 古今和歌集 | 古今和歌集 | 清原深養父 | | | |
| 古今和歌集 | 古今和歌集 | 紀貫之 | | | |
| 古今和歌集 | 古今和歌集 | よみ人知らず | | | |
| 古今和歌集 | 古今和歌集 | 小野小町 | | | |
| 新古今和歌集 | 新古今和歌集 | 藤原定家 | | | |
| 新古今和歌集 | 新古今和歌集 | 後鳥羽院 | | | |
| 新古今和歌集 | 新古今和歌集 | 藤原家隆 | | | |
| 新古今和歌集 | 新古今和歌集 | 式子内親王 | | | |
| 新古今和歌集 | 新古今和歌集 | 藤原俊成女 | | | |
| 新古今和歌集 | 新古今和歌集 | 西行法師 | | | |
| 春夏秋冬 | | 松永貞徳 | | | |
| 春夏秋冬 | | 北村季吟 | | | |
| 春夏秋冬 | | 西山宗因 | | | |
| 春夏秋冬 | | 井原西鶴 | | | |
| 春夏秋冬 | | 松尾芭蕉 | | | |
| 春夏秋冬 | | 向井去来 | | | |
| 春夏秋冬 | | 服部嵐雪 | | | |
| 春夏秋冬 | | 森川許六 | | | |
| 春夏秋冬 | | 内藤文章 | | | |
| 春夏秋冬 | | 野沢凡兆 | | | |
| 春夏秋冬 | | 千代女 | | | |
| 春夏秋冬 | | 炭太祇 | | | |
| 春夏秋冬 | | 与謝蕪村 | | | |
| 春夏秋冬 | | 上田秋成 | | | |
| 春夏秋冬 | | 高井几董 | | | |
| 春夏秋冬 | | 小林一茶 | | | |

| 文学的文章 | | | 評論等 | | |
|---------|----------|-------|-----|-----|------|
| 教材名 | 作品名 | 作者名等 | 教材名 | 作品名 | 作者名等 |
| 浦島太郎 | 御伽草子 | 未詳 | | | |
| わらしべ長者 | 宇治拾遺物語 | 未詳 | | | |
| 光る君誕生 | 源氏物語 | 紫式部 | | | |
| 若紫 | 源氏物語 | 紫式部 | | | |
| 弓争ひ | 大鏡 | 未詳 | | | |
| 三舟の才 | 大鏡 | 未詳 | | | |
| 汧坏の水 | 蜻蛉日記 | 藤原道綱母 | | | |
| 日本紀の御局 | 紫式部日記 | 紫式部 | | | |
| 門出 | 更級日記 | 菅原孝標女 | | | |
| 源氏の五十余巻 | 更級日記 | 菅原孝標女 | | | |
| 忠度の都落ち | 平家物語 | 未詳 | | | |
| 能登殿の最期 | 平家物語 | 未詳 | | | |
| 画竜点睛 | 歴代名画記 | 張彦遠 | | | |
| 推敲 | 唐詩紀事 | 計有功 | | | |
| 朝三暮四 | 列子 | 列禦寇 | | | |
| 水魚之交 | 十八史略 | 曾先之 | | | |
| 赤壁之戦 | 十八史略 | 曾先之 | | | |
| 死諸葛走生仲達 | 十八史略 | 曾先之 | | | |
| 中国の詩 | 鹿柴 | 王維 | | | |
| 中国の詩 | 絶句 | 杜甫 | | | |
| 中国の詩 | 峨眉山月記 | 李白 | | | |
| 中国の詩 | 春夜 | 蘇軾 | | | |
| 中国の詩 | 除夜寄弟妹 | 白居易 | | | |
| 中国の詩 | 遊山西村 | 陸游 | | | |
| 日本の詩 | 不出門 | 菅原道真 | | | |
| 日本の詩 | 冬夜読書 | 菅茶山 | | | |
| 日本の詩 | 送夏目漱石之伊予 | 正岡子規 | | | |
| 織女 | 搜神記 | 干宝 | | | |
| 売鬼 | 搜神記 | 干宝 | | | |
| 買粉児 | 幽明録 | 劉義慶 | | | |
| 不顧後患 | 説苑 | 劉向 | | | |
| 不若人有其宝 | 新序 | 劉向 | | | |
| 宋人有嫁子者 | 淮南子 | 劉安 | | | |
| 鴻門之会 | 史記 | 司馬遷 | | 男 | 女 |
| 四面楚歌 | 史記 | 司馬遷 | 評論等 | 88% | 13% |
| 猫相乳 | 昌黎先生文集 | 韓愈 | 小説等 | 82% | 18% |
| 臨江之麋 | 柳先生文集 | 柳宗元 | 詩歌 | 89% | 11% |
| 売油翁 | 欧陽文忠公文集 | 欧陽脩 | 計 | 87% | 13% |

| | |
|-----|------|
| 教科名 | 国語 |
| 科目名 | 古典探究 |

※「教科書番号」欄にある◆は、「学習者用デジタル教科書」（学校教育法第34条第2項に規定する教材）の発行予定があることを示す。

| | |
|--|--|
| 発行者(略称) | 桐原 |
| 教科書番号 | 古探721◆ |
| 教科書名 | 探求 古典探究 古文編 |
| (1) 内容 | |
| a 単元など内容や時間のまとまりを通して、その中で育む資質・能力の育成(各教科共通) | |
| 【言葉の特徴や使い方に関する事項】 | <ul style="list-style-type: none"> ・巻頭に「古文ジャンル解説」が設けられ、様々な古典作品の種類や特徴について理解が深められるよう工夫されている。 ・5編の「コラム」が掲載されており、その中で仮名と真名、係り結びが取り上げられている。 ・各教材末に「表現」や「文法」などが設けられ、古典に用いられている語句の意味や用法、文語のきまり、表現の技法などについての理解を深められるよう工夫されている。 |
| 【読むこと】 | <ul style="list-style-type: none"> ・説話、随筆、作り物語、和歌、日記、軍記物語、歌物語、歴史物語、歌論、俳諧、古典芸能などが取り上げられ、文章の種類を踏まえて、構成や展開、内容を的確に捉えたり、解釈したりできるような教材が設定されている。 ・「比較で深める」として、「大和物語」と「俊頼髄脳」を比較できる単元が設定されている。 ・「古典世界の夜一月・星・闇」として、同一テーマで、種類の異なる複数の文章教材が配置される単元が設定されている。 ・各教材末に、「活動」として言語活動が設定され、教材の種類や内容に応じて読みを深められるよう工夫されている。 ・「コラム」「古典世界ビュー」「古典世界ワイドビュー」というコラムが掲載され、古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から読み深めることができるよう工夫されている。 |
| b 読書に関する指導 | |
| | 記載なし |
| 《その他の項目》(各教科共通) | |
| 我が国の伝統や文化、国土や歴史に対する理解、他国の多様な文化の尊重に関する特徴や工夫 | <ul style="list-style-type: none"> ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深められるよう教材が設定されている。 ・巻頭及び巻末に古典の世界の人々の生活に関する理解を促す図版が掲載されている。 |
| 人権課題(同和問題、北朝鮮による拉致問題等)に関する特徴や工夫 | 記載なし |
| 安全・防災や自然災害の扱い | <ul style="list-style-type: none"> ・「方丈記」の「安元の大火・治承のつじ風」が掲載されている。 ・「古典世界ビュー」として「末世と災害」というテーマのコラムを掲載している。 |
| オリンピック・パラリンピックに関する特徴や工夫 | 記載なし |
| 固定的な性別役割分担意識に関する記述等 | <ul style="list-style-type: none"> ・「源氏物語」で「父の大納言は亡くなりて、母北の方なむ、いにしへの人の由あるにて、親うち具し、さしあたりて世のおぼえ華やかなる御方々にもいたう劣らず、何事の儀式をももてなしたまひけれど、とりたてて、はかばかしき後ろ見しなければ、事あるときは、なほよりどころなく心細げなり。」という記述が見られる。 ・「枕草子」の「すさまじきもの」で「博士のうち続き女子生ませたる。」という記述が見られる。 ・「古典ビュー」「平安朝の女性と漢文」で「平安時代、漢学は男性貴族の教養でしたが、女性貴族の中にも漢学の素養を持つ人がいたのです。とはいえ、男性中心の時代、それを表に出すのははばかれることだったでしょう。」という記述が見られる。 |
| (2) 構成上の工夫 | |
| デジタルコンテンツの扱い | <ul style="list-style-type: none"> ・教材に関連する資料や地図に、二次元コードを読み込んでアクセスできるよう工夫されている。 |
| ユニバーサルデザインの視点 | 記載なし |

| 文学的文章 | | | 評論等 | | |
|-------------|--------|--------|------------------|----------|------|
| 教材名 | 作品名 | 作者名等 | 教材名 | 作品名 | 作者名等 |
| 歌詠みて罪を許さること | 宇治拾遺物語 | 未詳 | あだし野の露消ゆるときなく | 徒然草 | 兼好法師 |
| 衣のたて | 古今著聞集 | 橘成季 | 家居のつきづきしく | 徒然草 | 兼好法師 |
| 勤解由使小路の地蔵 | 沙石集 | 無住 | これも仁和寺の法師 | 徒然草 | 兼好法師 |
| 天の羽衣 | 竹取物語 | 未詳 | ある者、子を法師になして | 徒然草 | 兼好法師 |
| 初冠 | 伊勢物語 | 未詳 | 主ある家には | 徒然草 | 兼好法師 |
| 月やあらぬ | 伊勢物語 | 未詳 | 行く川の流れ | 方丈記 | 鴨長明 |
| 行く蛍 | 伊勢物語 | 未詳 | 安元の大火・治承のつじ風 | 方丈記 | 鴨長明 |
| 狩りの使ひ | 伊勢物語 | 未詳 | 夜もすがら月を見て、ながめける歌 | 俊頼髓脳 | 源俊頼 |
| つひに行く道 | 伊勢物語 | 未詳 | うつくしきもの | 枕草子 | 清少納言 |
| 姨捨 | 大和物語 | 未詳 | 木の花は | 枕草子 | 清少納言 |
| 門出 | 更級日記 | 菅原孝標女 | 中納言参りたまひて | 枕草子 | 清少納言 |
| 物語 | 更級日記 | 菅原孝標女 | 雪のいと高う降りたるを | 枕草子 | 清少納言 |
| 雲林院の菩提講 | 大鏡 | 未詳 | すさまじきもの | 枕草子 | 清少納言 |
| 花山院の出家 | 大鏡 | 未詳 | 野分のまたの日こそ | 枕草子 | 清少納言 |
| 三船の才 | 大鏡 | 未詳 | 二月つごもりごろに | 枕草子 | 清少納言 |
| 道長と伊周の競射 | 大鏡 | 未詳 | 大納言殿参りたまひて | 枕草子 | 清少納言 |
| 忠度の都落ち | 平家物語 | 未詳 | 仮名序 | 古今和歌集 | 紀貫之 |
| 宇治川の先陣 | 平家物語 | 未詳 | 和歌の効用 | 俊頼髓脳 | 源俊頼 |
| 先帝入水 | 平家物語 | 未詳 | 俊成自賛歌のこと | 無名抄 | 鴨長明 |
| 光源氏の誕生 | 源氏物語 | 紫式部 | 行く春を | 去来抄 | 去来 |
| 光源氏と藤壺 | 源氏物語 | 紫式部 | 岩鼻や | 去来抄 | 去来 |
| 若紫との出会い | 源氏物語 | 紫式部 | 師の風雅 | 三冊子 | 土芳 |
| 春秋 | 古今和歌集 | 凡河内躬恒 | 小野小町 | 無名草子 | 未詳 |
| 春秋 | 新古今和歌集 | 藤原秀能 | 秘する花を知ること | 風姿花伝 | 世阿弥 |
| 春秋 | 山家集 | 西行法師 | 虚実皮膜の論 | 難波土産 | 穂積以貫 |
| 春秋 | 風雅和歌集 | 京極為兼 | 師の説になづまざること | 玉勝間 | 本居宣長 |
| 春秋 | 後拾遺和歌集 | 能因法師 | もののあはれ | 源氏物語玉の小櫛 | 本居宣長 |
| 春秋 | 金葉和歌集 | 源俊頼 | | | |
| 春秋 | 新古今和歌集 | 藤原雅経 | | | |
| 恋 | 古今和歌集 | 壬生忠岑 | | | |
| 恋 | 後拾遺和歌集 | 和泉式部 | | | |
| 恋 | 詞花和歌集 | 源重之 | | | |
| 恋 | 新古今和歌集 | 曾禰好忠 | | | |
| 恋 | 新古今和歌集 | 小侍従 | | | |
| 恋 | 新勅撰和歌集 | 藤原定家 | | | |
| 離別・旅・哀傷 | 千載和歌集 | 詠み人知らず | | | |
| 離別・旅・哀傷 | 新古今和歌集 | 紫式部 | | | |
| 離別・旅・哀傷 | 新古今和歌集 | 藤原清輔 | | | |
| 離別・旅・哀傷 | 続後撰和歌集 | 源実朝 | | | |
| 離別・旅・哀傷 | 増鏡 | 後鳥羽上皇 | | | |
| 離別・旅・哀傷 | 後撰和歌集 | 藤原兼輔 | | | |
| 発句 | | 芭蕉 | | | |
| 発句 | | 蕪村 | | | |
| 発句 | | 一茶 | | | |
| 連句 | 猿蓑 | 凡兆 | | | |
| 連句 | 猿蓑 | 芭蕉 | | | |
| 連句 | 猿蓑 | 去来 | | | |
| 継母との別れ | 更級日記 | 菅原孝標女 | | | |
| 旧都の月 | 平家物語 | 未詳 | | | |

| 文学的文章 | | | 評論等 | | |
|--------------|-----------|-----------|-----|-----|------|
| 教材名 | 作品名 | 作者名等 | 教材名 | 作品名 | 作者名等 |
| 世界の借家大将 | 日本永代蔵 | 井原西鶴 | | | |
| 浅茅が宿 | 雨月物語 | 上田秋成 | | | |
| 嘆きつつひとり寝る夜 | 蜻蛉日記 | 藤原道綱母 | | | |
| 鷹を放つ | 蜻蛉日記 | 藤原道綱母 | | | |
| 夢よりもはかなき世の中を | 和泉式部日記 | 和泉式部 | | | |
| 有明の月に | 和泉式部日記 | 和泉式部 | | | |
| 水鳥に思いよそえて | 紫式部日記 | 紫式部 | | | |
| 日本記の御局 | 紫式部日記 | 紫式部 | | | |
| かかる夢見ぬ人やいひけむ | 建礼門院右京大夫集 | 建礼門院右京大夫 | | | |
| 今や夢昔や夢と | 建礼門院右京大夫集 | 建礼門院右京大夫 | | | |
| 藤壺の里下がり | 源氏物語 | 紫式部 | | | |
| 葵上と物の怪 | 源氏物語 | 紫式部 | | | |
| 柏木と女三宮 | 源氏物語 | 紫式部 | | | |
| 紫上の死 | 源氏物語 | 紫式部 | | | |
| 匂宮と浮舟 | 源氏物語 | 紫式部 | | | |
| 虫めづる姫君 | 堤中納言物語 | 未詳 | | | |
| 梅里の一夜 | 松浦宮物語 | 藤原定家 | | | |
| 菅原道真の左遷 | 大鏡 | 未詳 | | | |
| 道長の豪胆 | 大鏡 | 未詳 | | | |
| 倭建命 | 古事記 | 稗田阿礼 太安万侶 | | | |
| 風雅の道 | 柴門の辞 | 芭蕉 | | | |
| 娘 さと | おらが春 | 一茶 | | | |
| 堪忍 | 雲萍雑誌 | 柳沢淇園 | | | |
| 徳兵衛お初道行 | 曾根崎心中 | 近松門左衛門 | | | |
| 近世和歌 | | 賀茂真淵 | | | |
| 近世和歌 | | 良寛 | | | |
| 近世和歌 | | 香川景樹 | | | |
| 近世和歌 | | 橘曙覧 | | | |
| 近世和歌 | | 大隈言道 | | | |
| 狂歌 | | 四方赤良 | | | |
| 狂歌 | | 朱楽菅江 | | | |
| 狂歌 | | 宿屋飯盛 | | | |
| 星の夜の深きのあはれ | 建礼門院右京大夫集 | 建礼門院右京大夫 | | | |
| 天下怪異のこと | 太平記 | 未詳 | | | |
| 夜空を詠んだ和歌・俳諧 | 古今和歌集 | 阿倍仲麻呂 | | | |
| 夜空を詠んだ和歌・俳諧 | 古今和歌集 | 大江千里 | | 男 | 女 |
| 夜空を詠んだ和歌・俳諧 | 古今和歌集 | 詠み人知らず | 評論等 | 90% | 10% |
| 夜空を詠んだ和歌・俳諧 | 新古今和歌集 | 藤原顕輔 | 小説等 | 67% | 33% |
| 夜空を詠んだ和歌・俳諧 | 蕪村句集 | 蕪村 | 詩歌 | 91% | 9% |
| 夜空を詠んだ和歌・俳諧 | 七番日記 | 一茶 | 計 | 84% | 16% |

| | |
|-----|------|
| 教科名 | 国語 |
| 科目名 | 古典探究 |

※「教科書番号」欄にある◆は、「学習者用デジタル教科書」（学校教育法第34条第2項に規定する教材）の発行予定があることを示す。

| | |
|--|---|
| 発行者(略称) | 桐原 |
| 教科書番号 | 古探722◆ |
| 教科書名 | 探求 古典探究 漢文編 |
| (1) 内容 | |
| a 単元など内容や時間のまとまりを通して、その中で育む資質・能力の育成(各教科共通) | |
| 【言葉の特徴や使い方に関する事項】 | <ul style="list-style-type: none"> ・巻頭に「漢文ジャンル解説」が設けられ、様々な古典作品の種類や特徴について理解が深められるよう工夫されている。 ・「故事・寓話」という単元が設けられ、故事成語について理解を深められるよう工夫されている。 ・各教材末に「表現」「句法」「構文」などが設けられ、古典に用いられている語句の意味や用法、訓読のきまり、表現の技法などについての理解を深められるよう工夫されている。 |
| 【読むこと】 | <ul style="list-style-type: none"> ・思想、史伝、古体詩、近体詩などが取り上げられ、文章の種類を踏まえて、構成や展開、内容を的確に捉えたり、解釈したりできるような教材が設定されている。 ・「比較で深める」として「史記」と「文章軌範」を比較できる単元が設定されている。 ・「政治と人間—国家・忠臣・賢帝」として、同一テーマで、種類の異なる複数の文章教材が配置される単元が設定されている。 ・各教材末に、「活動」として言語活動が設定され、教材の種類や内容に応じて読みを深められるよう工夫されている。 ・「コラム」「古典世界ビュー」というコラムが掲載され、古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から読み深めることができるよう工夫されている。 |
| b 読書に関する指導 | |
| | 記載なし |
| 《その他の項目》(各教科共通) | |
| 我が国の伝統や文化、国土や歴史に対する理解、他国の多様な文化の尊重に関する特徴や工夫 | <ul style="list-style-type: none"> ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深められるよう教材が設定されている。 ・「日本の漢文」という単元が設定されている。 ・日本漢詩、「長恨歌」と紫式部に関するコラムが掲載されている ・巻頭に古典の世界の人々の生活に関する理解を促す図版が掲載されている。 |
| 人権課題(同和問題、北朝鮮による拉致問題等)に関する特徴や工夫 | 記載なし |
| 安全・防災や自然災害の扱い | 記載なし |
| オリンピック・パラリンピックに関する特徴や工夫 | 記載なし |
| 固定的な性別役割分担意識に関する記述等 | <ul style="list-style-type: none"> ・「『長恨歌』と紫式部—白詩受容の展開」で「女は漢籍など学ぶものではないという通念があった王朝人にとっても」という記述が見られる。 |
| (2) 構成上の工夫 | |
| デジタルコンテンツの扱い | <ul style="list-style-type: none"> ・教材に関連する資料や地図に、二次元コードを読み込んでアクセスできるよう工夫されている。 |
| ユニバーサルデザインの視点 | 記載なし |

| 文学的文章 | | | 評論等 | | |
|---------|----------|------|----------|------|------|
| 教材名 | 作品名 | 作者名等 | 教材名 | 作品名 | 作者名等 |
| 画竜点睛 | 歴代名画記 | 張彦遠 | 赤壁の戦い | 三国志 | 陳寿 |
| 漱石枕流 | 世説新語 | 劉義慶 | 留候論 | 文章軌範 | 蘇軾 |
| 病入膏肓 | 春秋左氏伝 | 未詳 | 范增論 | 文章軌範 | 蘇軾 |
| 梁上君子 | 後漢書 | 未詳 | 論語 | 論語 | 未詳 |
| 先從隗始 | 十八史略 | 曾先之 | 四端 | 孟子 | 孟子 |
| 杞憂 | 列子 | 列禦寇 | 性善 | 孟子 | 孟子 |
| 背水の陣 | 史記 | 司馬遷 | 学不可以已 | 荀子 | 荀子 |
| 絶句 | 秋風引 | 劉禹錫 | 星隊木鳴 | 荀子 | 荀子 |
| 絶句 | 雜詩 | 王維 | 性惡 | 荀子 | 荀子 |
| 絶句 | 望廬山瀑布 | 李白 | 人主者以刑德制臣 | 韓非子 | 韓非子 |
| 絶句 | 芙蓉楼送辛漸 | 王昌齡 | 教学相長也 | 礼記 | 未詳 |
| 律詩 | 臨洞庭 | 孟浩然 | 聖人治天下 | 孟子 | 孟子 |
| 律詩 | 登高 | 杜甫 | 不顧後患 | 說苑 | 劉向 |
| 古体詩 | 桃夭 | 未詳 | 孔明臥竜 | 蒙求 | 李瀚 |
| 古体詩 | 行行重行行 | 未詳 | 三横 | 世説新語 | 劉義慶 |
| 古体詩 | 七步詩 | 曹植 | 江南橘為江北枳 | 說苑 | 劉向 |
| 古体詩 | 勅勒歌 | 未詳 | 無用之用 | 老子 | 老子 |
| 日本の漢文 | 対花懐昔 | 義堂周信 | 大道廢有仁義 | 老子 | 老子 |
| 日本の漢文 | 題不識庵擊機山図 | 頼山陽 | 胡蝶之夢 | 莊子 | 莊子 |
| 日本の漢文 | 夏夜 | 江馬細香 | 渾沌 | 莊子 | 莊子 |
| 日本の漢文 | 思君 | 中野道遙 | 侵官之害 | 韓非子 | 韓非子 |
| 川中島の戦い | 日本外史 | 頼山陽 | 処知則難 | 韓非子 | 韓非子 |
| 春夜宴桃李園序 | 古文真宝 | 李白 | 非攻 | 墨子 | 未詳 |
| 桃花源記 | 陶淵明集 | 陶潜 | 以無事取天下 | 老子 | 老子 |
| 師説 | 唐宋八大家文読本 | 韓愈 | | | |
| 鴻門之会 | 史記 | 司馬遷 | | | |
| 四面楚歌 | 史記 | 司馬遷 | | | |
| 荊軻 | 十八史略 | 曾先之 | | | |
| 子路 | 史記 | 司馬遷 | | | |
| 詩 | 月下独酌 | 李白 | | | |
| 詩 | 兵車行 | 杜甫 | | | |
| 詩 | 長恨歌 | 白居易 | | | |
| 漁父辞 | 楚辞 | 屈原 | | | |
| 捕蛇者説 | 唐宋八大家文読本 | 柳宗元 | | | |
| 岳陽楼記 | 古文真宝 | 范仲淹 | | | |
| 売柑者言 | 誠意伯文集 | 劉基 | | | |
| 人面桃花 | 本事詩 | 孟榮 | | | |
| 種梨 | 聊齋志異 | 蒲松齡 | | | |
| 三夢記 | 説郛 | 白行簡 | | | |
| 廉頗と藺相如 | 史記 | 司馬遷 | | 男 | 女 |
| 蘇武と李陵 | 資治通鑑 | 司馬光 | 評論等 | 100% | 0% |
| 性非学者之所急 | 弁道 | 荻生徂徠 | 小説等 | 100% | 0% |
| 不能与君陷難 | 說苑 | 劉向 | 詩歌 | 92% | 8% |
| 路不拾遺 | 十八史略 | 曾先之 | 計 | 98% | 2% |